青森市埋蔵文化財調査報告書 第90集

月見野(1)遺跡

発掘調査報告書

平成 18 年度

青森市教育委員会

序

月見野（1）遺跡は、昭和44年と同53年に、当委員会が開発事業に伴う緊急発掘調査を実施し、縄文時代後期の再葬土器棺墓や平安時代の竪穴住居跡などを検出しております。

この度、福祉施設の建設工事に先立ち、これまで調査を行っていなかった地点について発掘調査を実施しましたが、その結果、縄文時代の土坑約170基、平安時代の竪穴住居跡約20軒などを検出し、当時の集落の様相がより明らかになりました。

本書は、この度の発掘調査の成果を報告書にまとめたものであり、今後の埋蔵文化財の保護並びに活用に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり調査委託者であります社会福祉法人藤聖母園をはじめ、関係機関および関係各位のご理解とご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成19年1月

青森市教育委員会

教育長　角　田　詮二郎

例　　言

1．本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市大字駒込字蛍沢に所在する月見野（1）遺跡の発掘調査報告書である。
2．本書に記載される内容は、平成18年度に実施した特別養護老人ホーム建設工事に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3．本遺跡は青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号01010として登録されている。
4．本書の執筆並びに編集は青森市教育委員会が行った。執筆分担については文末に記した。
5．出土遺物及び記録図面・写真関係資料は青森市教育委員会で保管している。
6．引用・参考文献は巻末に収めた。
7．発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の各機関・諸氏からご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略・順不同)

青森県教育庁文化財保護課、社会福祉法人藤聖母園、北林八洲晴、葛西　勵、高橋　潤

凡　　例

1．図版番号及び表番号は一冊を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」とした。
2．遺構の略号は、ＳＩ＝竪穴住居跡、ＳＫ＝土坑、ＳＰ＝小ピット、ＳＣ＝土器棺墓、ＳＤ＝溝状遺構とした。また、遺物図版には括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記している。
3．図中で使用したアルファベットを用いた略称は、以下のとおりである。
　Ｐ…土器　　Ｓ…石・石器　　ＬＢ…ロームブロック
4．挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺については統一していない。
5．各種平面図の方位は磁北を示した。
6．土層の注記については「新版標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄　1993) に準拠した。
7．遺物実測図の縮尺は、土器：１／３、剥片石器・土製品・石製品・鉄製品：１／２および１／３、礫石器：１／４である。
8．図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

目　　次

序
例言・凡例
目次
第Ⅰ章　調査の概要……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査要項……1
　第３節　調査方法……3
　第４節　調査経過……3
第Ⅱ章　遺跡の概要……4
　第１節　従前の調査……4
　第２節　周辺の遺跡……5
　第３節　遺跡の層序……7
第Ⅲ章　検出遺構……9
　第１節　竪穴住居跡……9
　第２節　土坑……36
　第３節　小ピット……36
　第４節　土器棺墓……51
第Ⅳ章　出土遺物……52
　第１節　縄文時代の遺物……52
　　１．土器……52
　　２．石器……63
　　３．土製品……69
　　４．石製品……73
　第２節　平安時代の遺物……82
　　１．土師器……82
　　２．須恵器……88
　　３．土製品……91
　　４．砥石……93
　　５．鉄製品……94
　　６．鉄滓……94
まとめ……99
引用・参考文献……101
写真図版……102
報告書抄録

図表・写真目次

図版

第１図　遺跡及び調査区の位置……2
第２図　グリッド配置図……3
第３図　昭和44年・53年発掘調査関係資料……4
第４図　周辺の遺跡……6
第５図　基本層序……7
第６図　遺構配置図……8
第７図　第１・２号竪穴住居跡（１）……16
第８図　第１・２号竪穴住居跡（２）……17
第９図　第３・４号竪穴住居跡……18
第10図　第５・６号竪穴住居跡（１）……19
第11図　第５・６号竪穴住居跡（２）……20
第12図　第７号竪穴住居跡……21
第13図　第８・９号竪穴住居跡……22
第14図　第10号竪穴住居跡（１）……23
第15図　第10号竪穴住居跡（２）……24
第16図　第11号竪穴住居跡（１）……25
第17図　第11号竪穴住居跡（２）……26
第18図　第12号竪穴住居跡……27
第19図　第13号竪穴住居跡……28
第20図　第14・15号竪穴住居跡（１）……29
第21図　第14・15号竪穴住居跡（２）……30
第22図　第16号竪穴住居跡……31
第23図　第17号竪穴住居跡……32
第24図　第18・19号竪穴住居跡（１）……33
第25図　第18・19号竪穴住居跡（２）……34
第26図　第20・21号竪穴住居跡……35
第27図　土坑・小ピット（１）……39
第28図　土坑・小ピット（２）……40
第29図　土坑・小ピット（３）……41
第30図　土坑・小ピット（４）……42
第31図　土坑・小ピット（５）……43
第32図　土坑・小ピット（６）……44
第33図　土坑・小ピット（７）……45
第34図　土坑・小ピット（８）……46
第35図　土坑・小ピット（９）……47
第36図　土坑・小ピット（10）……48
第37図　土坑・小ピット（11）……49
第38図　土坑・小ピット（12）……50
第39図　第１号土器棺墓……51
第40図　縄文土器（１）……56
第41図　縄文土器（２）……57
第42図　縄文土器（３）……58
第43図　縄文土器（４）……59
第44図　縄文土器（５）……60
第45図　縄文土器（６）……61
第46図　縄文土器（７）……62
第47図　縄文時代の剥片石器（１）……64
第48図　縄文時代の剥片石器（２）……65
第49図　縄文時代の礫石器（１）……67
第50図　縄文時代の礫石器（２）……68
第51図　縄文時代の土製品……71
第52図　縄文時代の土器片利用土製品……72
第53図　縄文時代の石製品（１）……76
第54図　縄文時代の石製品（２）……77
第55図　縄文時代の石製品（３）……78
第56図　縄文時代の石製品（４）……79
第57図　土師器（１）……83
第58図　土師器（２）……84
第59図　土師器（３）……85
第60図　土師器（４）……86
第61図　土師器（５）……87
第62図　須恵器（１）……89
第63図　須恵器（２）……90
第64図　須恵器（３）……91
第65図　平安時代の土製品（１）……92
第66図　平安時代の土製品（２）……93
第67図　平安時代の砥石……93
第68図　平安時代の鉄製品……95
第69図　鉄滓……96
第70図　縄文時代の遺構配置図……100
第71図　平安時代の遺構配置図……100

表

第１表　周辺の遺跡……6
第２表　竪穴住居跡内土坑・小ピット観察一覧……14
第３表　土坑観察一覧……37
第４表　小ピット観察一覧……38
第５表　土器観察一覧……80
第６表　石器観察一覧……80
第７表　土製品観察一覧……81
第８表　石製品観察一覧……81
第９表　土師器観察一覧……98
第10表　須恵器観察一覧……98
第11表　土製品等観察一覧……98
第12表　鉄製品観察一覧……98
第13表　鉄滓観察一覧……98

写真

写真１　検出遺構（１）……102
写真２　検出遺構（２）……103
写真３　検出遺構（３）……104
写真４　出土遺物（１）……105
写真５　出土遺物（２）……106
写真６　出土遺物（３）……107
写真７　出土遺物（４）……108
写真８　出土遺物（５）……109
写真９　出土遺物（６）……110
写真10　出土遺物（７）……111
写真11　出土遺物（８）……112
写真12　出土遺物（９）……113
写真13　出土遺物（10）……114
写真14　出土遺物（11）……115
写真15　出土遺物（12）……116
写真16　出土遺物（13）……117
写真17　出土遺物（14）……118
写真18　出土遺物（15）……119
写真19　出土遺物（16）……120
写真20　出土遺物（17）……121
写真21　出土遺物（18）……122
写真22　出土遺物（19）……123

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成17年８月２日、青森市教育委員会文化財課に青森市大字駒込字蛍沢の老人福祉施設建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が社会福祉法人藤聖母園特別養護老人ホーム藤の園より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、開発予定地が月見野（１）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号01010）に該当していることが明らかとなり、平成17年８月30日に発掘調査の要否を目的とした確認調査を実施した。確認調査は、開発予定地内に、任意のトレンチを10ヶ所設定し、人力による掘削及び鋤簾がけを行った。調査面積は12㎡である。調査の結果、大部分がグラウンド造成による削平を受けていたが、一部のトレンチから縄文中～晩期の遺物包含層や柱穴等を確認した。このため、開発者側と協議し、平成18年５月８日～６月16日の予定で発掘調査を実施していたが、予想を上回る多くの遺構が検出されたため、７月７日まで調査を延長することとした。

（児玉　大成）

第２節　調査要項

１．調査の目的

特別養護老人ホーム建設工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図り、地域の文化財の活用に資する。

２．遺跡名および所在地

月見野（１）遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号　０１０１０）

青森市大字駒込字蛍沢387－１

３．発掘調査期間　平成18年５月８日～平成18年７月７日

４．調査面積　2,600㎡

５．調査委託者　社会福祉法人　藤聖母園

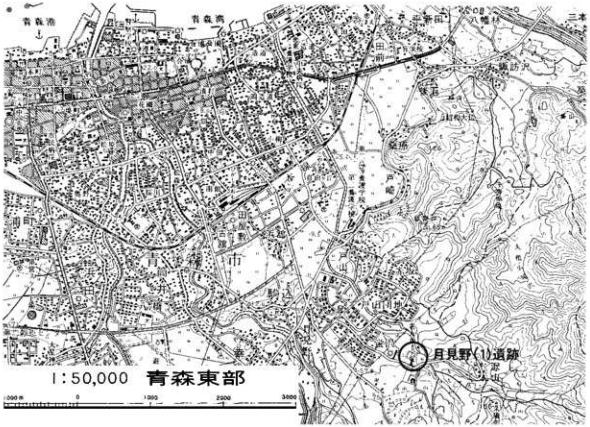
６．調査受託者　青森市

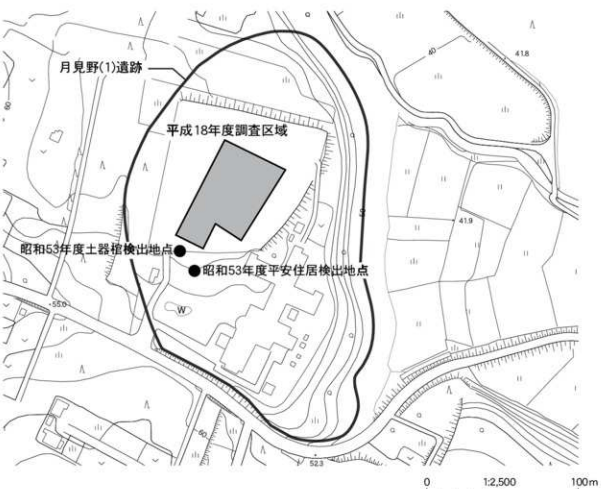
７．調査担当機関　青森市教育委員会事務局文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．調査体制　調査事務局　青森市教育委員会

教育長	角田詮二郎	文化財主事	児玉　大成	（調整担当）
教育部長	古山　善猛	〃	設楽　政健	（調査担当）
次長	相馬　政美	主事	當麻　良人	（庶務担当）
歴史・文化財課長補佐	遠藤　正夫	〃	越谷美由紀	（　〃　）
主幹	多田　弘仁	〃	竹ケ原亜希	（　〃　）
主査	工藤　幸子	〃	田中　浩司	（　〃　）
文化財主事	小野　貴之	埋蔵文化財調査員	野坂　知広	
〃	木村　淳一	調査補助員	稲垣　森太	





第１図　遺跡及び調査区の位置
（本図は国土地理院発行の地図を部分的に複写したものである。）

第３節　調査方法

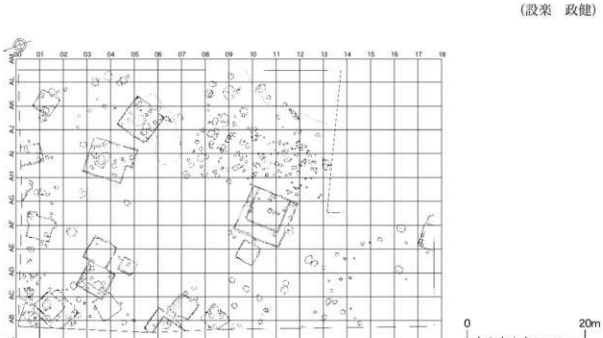
調査区は遺跡内の北側にあたり、一部に張出しを持つ南北に長い長方形を呈する（第２図）。グリッドの設定にあたっては、調査区北西隅と南西隅を結ぶ直線とそれに直交するラインを基準として４×４ｍのグリッドを設定した。グリッドの呼称については、調査区北西隅を起点（ＡＡ－00）とし、東側に向かって01、02、03・・・の順に算用数字、南側に向かってＡＡ、ＡＢ、ＡＣ・・・の順にアルファベットを付し、各グリッドについては両者の組み合わせで示した。測量原点については、近隣の戸山団地内に存在する三角点（標高57.74ｍ）より移動を行い、標高65.105ｍの原点をＡＣ－10グリッドに設置した。

発掘調査にあたり、前年度の確認調査により調査区内の土層が遺構確認面の直上まで削平されていたことから、重機により表土のみをすき取りした。遺構精査については、竪穴住居跡では４分法または２分法、土坑・小ピットでは２分法を用いて断面図を作成した。平面図については簡易遣り方測量とトータルステーションを併用して行い、縮尺については原則として20分の１とし、必要に応じて10分の１を用いた。写真については土層断面、完掘状況、遺物出土状況を主に撮影し、フィルムはモノクロームとカラーリバーサル、デジタルカメラを併用した。

第４節　調査経過

平成18年５月８日発掘調査開始。同月10日まで重機により遺構確認面までの掘り下げを行い、その後鋤簾がけによる遺構確認を行った。当初、調査期間を６月16日までとしていたが、予想を上回る多くの遺構を検出し、残日数では調査を終了できないことが予想されたことから、期間を15日間延長し、７月７日までとした。遺構精査については時間を要する竪穴住居跡を優先し、続いて土坑・小ピットの順に行い、予想以上の堆積土の厚さと硬さに手間取ったが、７月７日に全ての作業を終了した。

（設楽　政健）



第２図　グリッド配置図

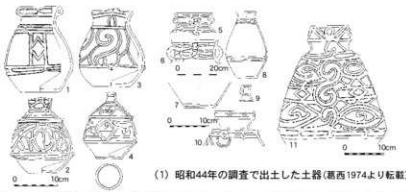
第Ⅱ章　遺跡の概要

第１節　従前の調査

本遺跡は、市街地から直線距離にして約６㎞離れた青森市大字駒込字蛍沢に所在しており、古くは「駒込遺跡」と呼ばれていた（北林1968）。昭和41年には、今回の調査委託者でもある藤聖母園が重機により地均しを行ったところ、縄文時代後期前葉の遺物包含層が発見された。このため、当委員会では、昭和44年５月18日～20日の３日間で緊急発掘調査を実施し、縄文時代後期前半の土器や石器、平安時代の土師器・須恵器等の出土を確認した（葛西1974～76）。

また、昭和53年にも藤聖母園により重機での整地作業が行われ、工事中に縄文時代後期前葉の土器棺１基と内部から人骨が１体分発見された。当委員会で、この土器棺とともに周囲の発掘調査を実施したところ、縄文時代後期前葉の土器や石器、石製品が多数出土し、平安時代の竪穴住居跡を１基検出した（葛西ほか1978）。

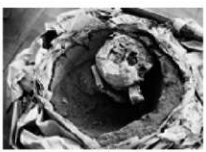
（児玉　大成）



（1）昭和44年の調査で出土した土器（葛西1974より転載）

（2）昭和53年調査の遺跡全景

（3）土器棺検出状況（昭和53年）



（4）土器棺内の人骨

（5）人骨調査状況

（6）調査風景（昭和53年）

（7）平安住居検出状況

（8）平安住居のカマド跡

写真は葛西勲氏提供

第３図　昭和44年・53年発掘調査関係資料

第２節　周辺の遺跡

本遺跡は八甲田山から続く丘陵地上、標高約65mの地点に立地している。遺跡一帯は山林で、遺跡北側には赤川、南側には駒込川が流れているほか、多くの谷地形が存在し、起伏に富んだ地形である。本遺跡周辺の駒込川と赤川に挟まれた丘陵地上には、本遺跡を始め多くの遺跡が所在しており（第４図）、これらの遺跡の帰属時期は縄文時代～平安時代に亘る。以下、これらの遺跡の概要について時期毎に記述する。

縄文時代早期に属する主な遺跡には蛍沢遺跡がある。蛍沢遺跡は昭和51年に青森市蛍沢遺跡発掘調査団により発掘調査が実施され、縄文時代早期の土坑15基のほか、早期の寺ノ沢式・物見台式・蛍沢ⅡＡ式・吹切沢式・ムシリⅠ式と多くの土器が出土し、縄文時代早期～平安時代の複合遺跡であることが判明した（同調査団1979）。

縄文時代前期に属する主な遺跡には玉清水（３）遺跡がある。玉清水（３）遺跡は昭和44・45年に当育委員会が発掘調査を実施し、調査の結果、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡４軒のほか、縄文時代前期・後期・晩期・平安時代の遺物を検出した（青森市教育委員会1971）。

縄文時代中期に属する主な遺跡には前述の蛍沢遺跡があり、円筒上層ｂ～ｅ式期の竪穴住居跡７軒、フラスコ状土坑６基を検出している。周辺には、他に中期の遺構を検出した遺跡はなく、赤坂遺跡で円筒上層ｂ式土器の破片（青森市教育委員会2005）、深沢（３）遺跡で円筒上層ｄ式土器の破片が出土したのみである（青森市教育委員会2003ａ）。

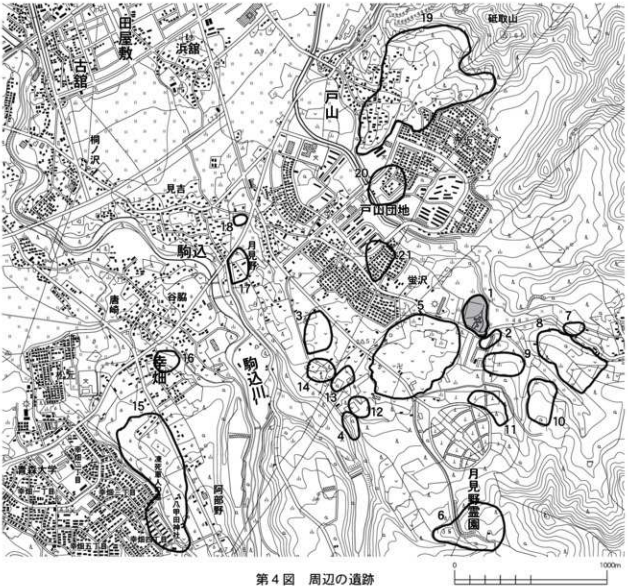
縄文時代後期に属する主な遺跡にも前述の蛍沢遺跡が挙げられる。蛍沢遺跡では縄文時代後期前葉の竪穴住居跡４軒、土器棺墓１基、土坑77基、Ｔピット１基、縄文時代後期後葉の竪穴住居跡７軒のほか、縄文時代後期前葉～後葉の遺物が出土している。

縄文時代晩期に属する主な遺跡には前述の蛍沢遺跡、玉清水（１）遺跡、沢山（１）遺跡がある。蛍沢遺跡では縄文時代晩期前葉～後葉の土坑12基を検出したほか、該期の土器、石器が出土した。玉清水（１）遺跡は昭和40・41年に当教育委員会、昭和59年に早稲田大学考古学研究室が発掘調査を実施し、配石遺構と土坑11基のほか大洞Ｂ・ＢＣ・Ｃ₁式土器のほか、石器、岩版等を検出している（青森市教育委員会1967、桜井ほか1985）。沢山（１）遺跡では青森山田高等学校考古学研究会により縄文時代晩期末葉の遺物包含層が検出されている（葛西ほか1994）。

弥生時代に属する主な遺跡には前述した蛍沢遺跡がある。蛍沢遺跡では念仏間式期の土坑１基のほか、土器・石器が出土した。

平安時代以降に属する主な遺跡には蛍沢遺跡、赤坂遺跡、深沢（３）遺跡がある。蛍沢遺跡では平安時代の竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡６棟のほか、土師器・須恵器・鉄器等を検出している（前掲1979）。赤坂遺跡は平成16年に当教育委員会が発掘調査を実施しており、平安時代の竪穴住居跡７軒、縄文時代から平安時代の土坑９基、時期不明の溝跡、ピットを検出している（前掲2005）。深沢（３）遺跡は平成13・14年に当教育委員会が発掘調査を実施しており、平安時代以降に属すると考えられる木炭窯12基、土坑14基、溝跡２基を検出している（前掲2003ａ）。

（設楽　政健）



第４図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	種別	時　　代	文　　献
1	01010	月見野（1）遺跡	青森市大字駒込字蛍沢	散布地	縄文	葛西1974～76、葛西ほか1978
2	01192	月見野（2）遺跡	青森市大字駒込字蛍沢	散布地	－	
3	01221	月見野（3）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文（後）・平安	
4	01235	月見野（4）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文（後）	青森市2006
5	01264	月見野（5）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文	
6	01286	月見野（6）遺跡	青森市大字駒込字深沢	散布地	縄文	
7	01288	沢山平野（1）遺跡	青森市大字沢山字平野	散布地	縄文（前・中・後）	
8	01289	沢山平野（2）遺跡	青森市大字沢山字平野	散布地	縄文（前・中・後）・平安	
9	01042	沢山（1）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文（晩）	葛西ほか1994
10	01044	沢山（3）遺跡	青森市大字沢山字平野	散布地	平安	
11	01009	月見野墨岡遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	平安	
12	01006	玉清水（1）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文（晩）	青森市教育委員会1967、桜井ほか1985
13	01007	玉清水（2）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	－	青森市教育委員会1967
14	01008	玉清水（3）遺跡	青森市大字駒込字月見野	散布地	縄文（前）	青森市教育委員会1971
15	01050	阿部野（1）遺跡	青森市大字幸畑字阿部野	集落跡	縄文・平安	青森市教育委員会2003 b
16	01219	阿部野（2）遺跡	青森市大字幸畑字阿部野	散布地	平安	
17	01048	駒込館遺跡	青森市大字駒込字桐ノ沢	城館跡	平安	青森市教育委員会2003 b
18	01295	見吉遺跡	青森市大字駒込字蛍沢	散布地	平安	
19	01005	戸山遺跡	青森市大字戸山字赤坂	散布地	縄文・平安	
20	01053	赤坂遺跡	青森市大字戸山字赤坂	集落跡	縄文・平安	青森市教育委員会2005
21	01057	蛍沢遺跡	青森市大字駒込字月見野	集落跡	縄文・平安	青森市蛍沢遺跡発掘調査団1979

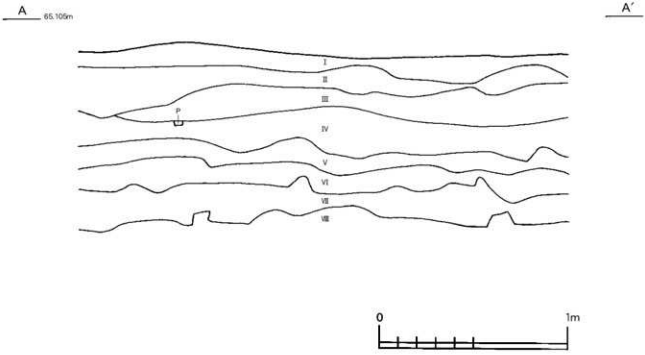
第３節　遺跡の層序

今回の調査区は、昭和40～50年代にかけてグラウンド造成工事が行われた地区である。調査区内の大部分の土層は漸移層付近まで削平されていたが、前年度に実施した確認調査により、調査区南東隅付近のＡＬラインのNo.12・13間において部分的にプライマリーな土層の残存が明らかであったため、その部分を基本層序とした。

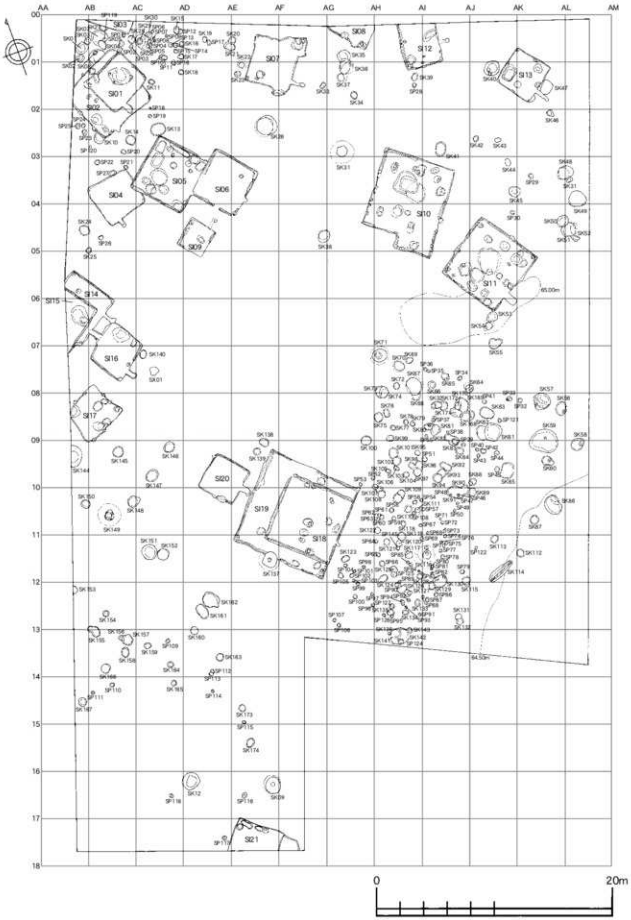
調査区域内の基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　黒 色 土　10ＹＲ２／１　表土
第Ⅱ層　黒褐色土　10ＹＲ２／２　平安時代の遺物を包含
第Ⅲ層　黒褐色土　10ＹＲ２／３　縄文時代後期前半の遺物を包含
第Ⅳ層　黒褐色土　10ＹＲ３／２　縄文時代中期後半の遺物を包含
第Ⅴ層　黒褐色土　10ＹＲ３／１
第Ⅵ層　黒褐色土　10ＹＲ３／１　漸移層
第Ⅶ層　黄褐色土　10ＹＲ５／６　地山、月見野火山灰層
第Ⅷ層　褐 色 土　10ＹＲ４／６　地山、大谷火山灰層

（設楽　政健）



第５図　基本層序


AA
AB
AC
AD
AE
AF
AG
AH
AI
AJ
AK
AL
AM
00
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
SI01
SI02
SI03
SI04
SI05
SI06
SI07
SI08
SI09
SI10
SI11
SI12
SI13
SI14
SI15
SI16
SI17
SI18
SI19
SI20
SI21
65.00m
0
20m

第６図　遺構配置図

第Ⅲ章　検出遺構

第１節　竪穴住居跡（ＳＩ）

今回の調査において検出された竪穴住居跡は、重複を含めて21軒であり、すべて平安時代のものである。以下に概要を記すが、竪穴住居跡内の土坑・小ピット・溝状遺構などは計測値等を別表（第２表）に記載した。

第１号・２号竪穴住居跡（第７図・第８図）

ＡＡ～ＡＣ－１～３グリッドに位置し、第１号竪穴住居跡が第２号竪穴住居跡を切っている。第１号竪穴住居跡は、長軸397cm、短軸345cm、深さ50cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝を巡らす。床面より土坑１基、柱穴と思われる小ピット３基、外壁周辺より小ピット５基を検出した。１号土坑は浅い掘り方を持ち、床下収納のような機能が想定されよう。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－152°－Ｅ）にある。火床面上からは土師器甕（第59図20・21）が検出された。煙道部は第２号竪穴住居跡覆土を切っており、地下式で構築されている。

第２号竪穴住居跡は、長軸548cm、短軸530cm、深さ20cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝がわずかに確認された。床面より土坑１基、柱穴と思われる小ピット５基、外壁周辺より小ピット４基を検出した。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－151°－Ｅ）にある。袖部・煙道部はあまり遺存していないが、袖石と思われる礫群が多く残っていた。床面より約10cm弱上層（第１層）に白頭山苫小牧火山灰が確認されるが、本住居跡の廃絶時期は判然としない。両住居跡の重複は建て替えによるものと思われるが、その構築時期に大きな時期差は看取されず、平安時代中頃（９世紀末～10世紀前半）に比定されよう。

第３号竪穴住居跡（第９図）

ＡＢ－１グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈すものと思われるが、北側の大部分が調査区外に広がっており、その全容は明らかでない。残存長軸350cm、残存短軸110cmを測り、深さは70cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認されない。ピット・カマド等も検出できなかった。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第４号竪穴住居跡（第９図）

ＡＢ－４・５グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、長軸388cm、短軸370cm、深さ15cmを測る。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁を第５号竪穴住居跡に切られている。壁溝は確認できなかったが、外壁周辺より小ピット１基を検出した。カマドは西側に片寄った南壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－154°－Ｅ）にある。袖部・煙道部はあまり遺存していないが、火床面直上より転用支脚と思われる逆位に置かれた土師器坏（第57図５）を検出した。本住居跡の構築時期は、平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第５号・６号竪穴住居跡（第10図・第11図）

ＡＣ～ＡＥ－３～５グリッドに位置する。第５号竪穴住居跡は、長軸507cm、短軸475cm、深さ10cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が全周する。南東壁の一部が第６号竪穴住居跡に切られている。床面より溝状遺構１基、土坑２基、小ピット12基、外壁周辺より小ピット７基を検出したが、１号土坑と３号小ピットは縄文土坑の可能性が高い。カマドはやや南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－137°－Ｅ）にある。

第６号竪穴住居跡は、長軸437cm、短軸421cm、深さ10cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が全周する。床面より小ピット１基、外壁周辺より小ピット６基を検出した。なお、南東壁で確認された柱穴状ピット２基は、住居入口に関わる遺構の可能性が考えられる。カマドはやや南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－137°－Ｅ）にある。構造は半地下式で、袖部・煙道部ともにあまり遺存していない。両住居跡は大きく時期差を持たない構築時期が想定され、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第７号竪穴住居跡（第12図）

ＡＥ・ＡＦ－１・２グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、東隅に張出部を有する。長軸405cm、短軸378cmを測り、深さは10cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認できなかった。床面よりピット６基、外壁周辺より小ピット４基を検出した。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－126°－Ｅ）にある。袖部はあまり遺存していなかったが、地下式と思われる煙道部の遺存は比較的良好であった。火床面周辺には土師器片が多く見られ、本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第８号竪穴住居跡（第13図）

ＡＧ－１グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈するものと思われるが、北側部分は調査区外に広がっており、全容は明らかでない。残存長軸355cm、残存短軸220cmを測り、深さは35cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝を巡らす。床面より小ピット２基を検出した。カマドは南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－132°－Ｅ）にある。構造は半地下式で、火床面周辺には焼土が広く見られた。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第９号竪穴住居跡（第13図）

ＡＤ－５グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、長軸255cm、短軸243cm、深さ30cmを測る。本遺跡（平安集落）においては小型住居の部類に入るであろう。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝を巡らす。床面より小ピット３基を検出した。カマドは北東壁で確認され、主軸は北東方向（Ｎ－48°－Ｅ）にある。なお、本遺跡においてカマド主軸が北東を向く事例は、本住居跡のみである。構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第10号竪穴住居跡（第14図・第15図）

ＡＨ・ＡＩ－４・５グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、南側に張出部を有する。長軸776cm、短軸615cmを測り、深さは15cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝を巡らす。床面より土坑３基、

柱穴と思われる小ピット９基、外壁周辺より小ピット15基を検出した。うち、１号土坑はその形状と出土遺物から縄文時代の遺構（袋状土坑）と考えられる。２号土坑は浅い掘り方を持つ方形土坑であり、床下収納のような機能が想定されよう。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－130°－Ｅ）にある。袖部はわずかに残り、向かって右側に袖石が遺存していた。煙道部は確認できなかった。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。２号土坑からは直刀（第68図７）が検出されており、集落における首長層かそれに連なる人物の住居であった可能性も考えられる。

第11号竪穴住居跡（第16図・第17図）

ＡＪ・ＡＫ－５・６グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、長軸595cm、短軸590cm、深さ30cmを測る。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が全周する。床面より土坑１基、柱穴と思われる小ピット20基、外壁周辺より小ピット５基を検出した。１号土坑は床面下の貼床確認の段階で検出されたものであり、その性格は判然としない。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－134°－Ｅ）にある。袖部の遺存状態は比較的良好であり、左右に袖石が据えられ、火床面の形状も袖部によって規定されている。煙道部は地下式であり、袖部同様、遺存状態は良好である。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（９世紀末～10世紀前半）に比定されよう。床面直上より水甕として使われたと思われる須恵器大甕（第63図10）が検出されている。

第12号竪穴住居跡（第18図）

ＡＨ・ＡＩ－１グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、北側部分は調査区外に広がっている。残存長軸380cm、短軸326cmを測り、深さは35cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が巡る。床面より小ピット６基、外壁周辺より小ピット４基を検出した。カマドは東壁で確認され、おそらく南寄りの位置に設置されていたものと思われる。主軸は東方向（Ｎ－100°－Ｅ）にあり、煙道部は地下式で構築されている。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第13号竪穴住居跡（第19図）

ＡＪ・ＡＫ－１・２グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、遺構全体の遺存状態は極めて良好である。長軸347cm、短軸336cmを測り、深さは50cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は検出されなかった。また、外壁に接する部分の覆土には黒色土が確認され、壁板の痕跡であろうと思われる。床面より土坑１基、小ピット３基、外壁周辺より小ピット７基を検出した。うち、Pit９は柱穴というよりもカマドに伴う施設であった可能性が想定される。また、南隅に見られる小さな張出部は、桐生直彦氏のいう棚状施設（Ⅰ群１類Ａｒアウトタイプ）に相当するかもしれない（桐生2001）。１号土坑は浅い掘り方を持つ方形土坑であり、床下収納のような機能が考えられよう。カマドは南側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－136°－Ｅ）にある。煙道部は地下式で、比較的深く構築されていたために遺存したものと思われ、煙道半ばには空洞部分があった。袖部も遺存状態が良好で、袖石の据え付けがよく分かる。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（９世紀末～10世紀前半）に比定されよう。

第14号・15号竪穴住居跡（第20図・第21図）

ＡＡ・ＡＢ－６・７グリッドに位置し、第14号竪穴住居跡が第15号竪穴住居跡に切られている。重複する両住居跡ともに平面形は概ね方形を呈すると思われるが、西側部分は調査区外に広がっており判然としない。第14号竪穴住居跡は、長軸475cm、短軸440cmを測り、深さ40cmである。第15号竪穴住居跡は、残存長軸440cm、残存短軸335cmを測り、深さは40cmである。両住居跡ともに外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が巡っている。第14号竪穴住居跡からは、床面より小ピット１基、外壁周辺より小ピット４基が検出され、第15号竪穴住居跡からは、床面より土坑１基が検出された。カマドは第14号竪穴住居跡南東壁より２基確認され、第15号竪穴住居跡からは検出されていない。当初、２号カマドは第15号竪穴住居跡のものと認識していたが、火床面および袖部が第15号竪穴住居跡の外側に出ていること、火床面が第15号竪穴住居跡壁溝に切られていることなどにより、第14号竪穴住居跡に伴うカマドと判断した。１号カマドの主軸は南東方向（Ｎ－141°－Ｅ）にあり、火床面は不整方形を呈する。煙道部は地下式と思われ、第16号竪穴住居跡によって切られている。２号カマドはやや南寄りに占地し、主軸は南東方向（Ｎ－141°－Ｅ）にある。煙道部から完形の土製支脚（第65図４）が検出された。第15号竪穴住居跡覆土（第８層）には、白頭山苫小牧火山灰が明瞭に、擂鉢状に堆積して検出されたが、住居の廃絶時期は明らかでない。両住居跡の重複は建て替えによるものと思われるが、その構築時期は出土遺物により平安時代中頃（９世紀末～10世紀前半）に比定されよう。また、第14号竪穴住居跡覆土（第１層）からは、鉄滓がまとまって検出されており、廃滓場として利用されていた可能性が高い。

第16号竪穴住居跡（第22図）

ＡＢ－７・８グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、長軸381cm、短軸350cm、深さ35cmを測る。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が巡る。床面より土坑１基、柱穴と思われる小ピット２基、外壁周辺より小ピット１基を検出した。カマドはやや南寄りの南東壁に確認され、崩れてはいるが袖部、火床面ともに遺存状態は良好である。主軸は南東方向（Ｎ－132°－Ｅ）にあり、煙道部は半地下式である。カマド周辺からは砥石（第67図１）や羽口（第65図８）が検出されている。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第17号竪穴住居跡（第23図）

ＡＡ・ＡＢ－９グリッドに位置する。平面形は不整方形を呈し、長軸354cm、短軸340cm、深さ10cmを測る。外壁は緩傾斜をもって立ち上がり、壁溝は確認できなかった。床面より小ピット６基、外壁周辺より小ピット６基が検出された。カマドは東側に片寄った南東壁で確認され、主軸は南東方向（Ｎ－144°－Ｅ）にある。煙道部は検出されず、不整方形を呈する火床面は確認できたが、袖部もその痕跡を検出したのみであった。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

第18号・19号竪穴住居跡（第24図・第25図）

ＡＥ～ＡＧ－10～12グリッドに位置する。第18号竪穴住居跡が、第19号竪穴住居跡内に収まるように構築されており、層序観察から第18号竪穴住居跡が古く、第19号竪穴住居跡は新しいことが分かっている。第18号竪穴住居跡は、長軸595cm、短軸590cm、深さ10cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁の状態は不明だが、壁溝がほぼ全周する。なお、当初、第18号竪穴住居跡壁溝がよく見えなかったのは、

第19号竪穴住居跡の貼床に覆われていたためと思われる。カマドは南東壁で確認され、向かって左側が第18号竪穴住居跡のカマドであろう。煙道部が第19号竪穴住居跡の壁溝によって切られており、主軸は南東方向（N－135°－E）にある。

第19号竪穴住居跡は、長軸830cm、短軸810cm、深さ10cmを測り、平面形は概ね方形を呈す。外壁は急傾斜をもって立ち上がり、壁溝がほぼ全周する。カマドは南東壁で確認され、向かって右側が第19号竪穴住居跡のカマドであろう。煙道部下に第18号竪穴住居跡壁溝と思われる痕跡が遺存していた。主軸は南東方向（N－135°－E）にある。両住居跡からは各々四隅より小ピットが確認され、床面からも小ピット15基が検出されている。また、Pit22には逆位に重ねられた土師器坏が４個体（第58図14～17）収納されていた。両住居跡の重複は建て替えによるものと思われるが、その構築時期は大きく時期差を持たないものと思われ、平安時代中頃（10世紀代）に比定される。

第20号竪穴住居跡（第26図）

ＡＤ・ＡＥ－10グリッドに位置する。平面形は概ね方形を呈し、長軸340cm、短軸335cm、深さ25cmを測る。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝が巡る。外壁周辺より小ピット２基を検出した。カマドは南東壁で確認され、主軸は南東方向（N－137°－E）にある。袖部が僅かに残り、火床面周辺からは炭化物が多く検出されている。本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（９世紀末～10世紀前半）に比定されよう。

第21号竪穴住居跡（第26図）

ＡＥ・ＡＦ－18グリッドに位置する。平面形は不整方形を呈すると思われるが、南側部分は調査区外にあり、周辺の攪乱も激しいことから明らかでない。残存長軸570cm、残存短軸295cmを測り、深さは20cmである。外壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は確認されなかった。床面より小ピット４基を検出した。カマドは確認されず、覆土中には焼土と炭化物が多量に混在していた。不明な点も多いが、本住居跡の構築時期は、出土遺物により平安時代中頃（10世紀代）に比定されよう。

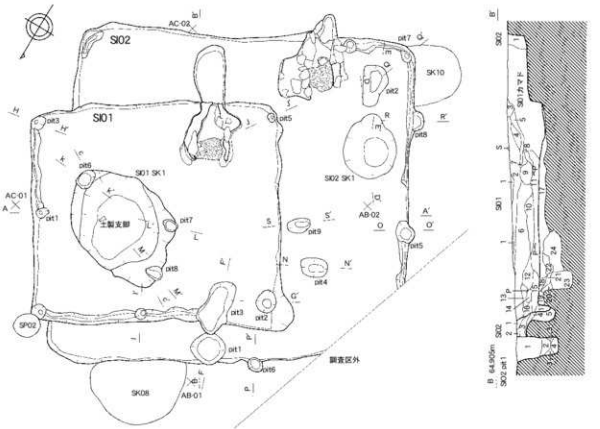
（野坂　知広）

第２表　竪穴住居跡内土杭・小ピット観察一覧

遺構番号	図版番号	位置	平面形	規模（cm） 長軸	短軸	深さ	備考
S101SK1	第6図	中央東側	不整楕円形	194	138	42	浅い掘り方あり
S101Pit1	第6図	東壁	隅丸長方形	19	14	35	
S101Pit2	第6・7図	北西隅	楕円形	34	32	20	
S101Pit3	第6・7図	南東隅	隅丸方形	21	19	39	
S101Pit4	第6・7図	北壁	不整円形	19	17	42	
S101Pit5	第6・7図	南西隅	楕円形	14	11	72	
S101Pit6	第6・7図	SK1内	隅丸長方形	32	24	31	
S101Pit7	第6・7図	SK1内	不整楕円形	26	18	9	
S101Pit8	第6・7図	SK1内	不整楕円形	28	20	7	
S102SK1	第6図	西側	不整楕円形	103	85	27	
S103Pit1	第6図	北壁	隅丸方形	49	48	68	
S103Pit2	第6図	西側	不整長方形	64	40	24	
S103Pit3	第6図	北側	不整長方形	87	40	21	
S103Pit4	第6・7図	西側	隅丸長方形	42	30	46	
S103Pit5	第6・7図	西壁	不整円形	34	27	28	覆土に土器混在
S103Pit6	第6・7図	北壁	不整円形	23	21	8	
S103Pit7	第6・7図	南西隅	不整円形	19	13	11	
S103Pit8	第6・7図	西壁	不整円形	31	17	18	
S103Pit9	第6・7図	中央西側	不整楕円形	37	23	47	
S104Pit1	第8図	南東隅	不整楕円形	30	21	18	
S105DI	第9図	北東側	不整長方形	192	39	14	
S105SK1	第9・10図	中央東側	不整円形	149	146	68	
S105SK2	第9・10図	北側	隅丸長方形	134	88	25	
S105Pit1	第9・10図	南西側	不整楕円形	95	75	48	
S105Pit2	第9・10図	西側	不整楕円形	69	70	27	
S105Pit3	第9・10図	西壁	不整楕円形	90	80	58	断面袋状
S105Pit4	第9・10図	北側	不整長方形	99	67	8	
S105Pit5	第9・10図	東側	不整楕円形	95	73	20	
S105Pit6	第9・10図	東側	不整楕円形	91	64	10	
S105Pit7	第9・10図	中央東側	不整円形	56	54	6	
S105Pit8	第9・10図	南東壁	不整楕円形	28	25	18	
S105Pit9	第9・10図	南東壁	不整楕円形	17	16	5	
S105Pit10	第9・10図	南隅	不整楕円形	21	10	27	
S105Pit11	第9・10図	南西壁	不整楕円形	25	28	21	
S105Pit12	第9・10図	西隅	不整楕円形	27	23	32	
S105Pit13	第9・10図	西壁	不整楕円形	74	61	20	
S105Pit14	第9・10図	北西壁	不整楕円形	22	12	21	
S105Pit15	第9・10図	北隅	不整楕円形	16	11	29	
S105Pit16	第9・10図	北壁	楕円形	62	51	24	
S105Pit17	第9・10図	北隅	不整円形	32	28	4	
S105Pit18	第9・10図	東隅	楕円形	59	46	13	
S105Pit19	第9・10図	東隅	不整楕円形	36	26	4	
S106Pit1	第9図	南隅	不整円形	28	25	29	
S106Pit2	第9図	南西壁	不整円形	23	22	31	
S106Pit3	第9図	北隅	不整円形	21	17	36	
S106Pit4	第9図	北東壁	不整円形	17	14	29	
S106Pit5	第9図	東壁	不整円形	35	31	15	
S106Pit6	第9図	南東壁	不整楕円形	28	15	19	
S106Pit7	第9図	南東壁	不整方形	12	9	26	
S107Pit1	第11図	東側	不整円形	97	94	18	
S107Pit2	第11図	西隅	不整円形	69	68	34	
S107Pit3	第11図	南西壁	不整楕円形	23	16	15	
S107Pit4	第11図	西隅	楕円形	29	19	6	
S107Pit5	第11図	北隅	不整円形	28	20	12	
S107Pit6	第11図	西隅	不整円形	39	36	30	
S107Pit7	第11図	東側	不整円形	59	46	38	
S107Pit8	第11図	東隅	不整円形	36	33	27	
S107Pit9	第11図	南西壁	不整楕円形	85	46	26	
S107Pit10	第11図	Pit2内	楕円形	26	22	14	
S108Pit1	第12図	南隅	不整方形	59	56	17	
S108Pit2	第12図	南西壁	不整楕円形	63	46	24	
S109Pit1	第12図	中央東側	不整長方形	70	43	6	
S109Pit2	第12図	北西壁	不整楕円形	44	30	14	
S109Pit3	第12図	北西壁	不整楕円形	38	29	13	
S10SK1	第13図	中央東側	不整円形	164	144	114	袋状土坑（縄文期）
S10SK2	第13図	中央東側	隅丸長方形	195	194	74	浅い掘り方あり
S10SK3	第13図	中央西側	不整円形	86	78	51	断面袋状
S10Pit1	第13図	東隅	不整楕円形	98	73	19	
S10Pit2	第13図	北側	不整楕円形	94	53	40	掘り方あり
S10Pit3	第13・14図	南東壁	不整楕円形	22	20	19	
S10Pit4	第13・14図	南東壁	不整楕円形	23	14	53	
S10Pit5	第13・14図	南東壁	不整円形	24	24	40	
S10Pit6	第13・14図	南隅	不整円形	25	22	34	
S10Pit7	第13・14図	南隅	不整楕円形	93	52	68	掘り方あり
S10Pit8	第13・14図	南隅	不整楕円形	76	69	34	
S10Pit9	第13・14図	中央南側	不整楕円形	53	38	14	
S10Pit10	第13・14図	南西壁	不整楕円形	35	25	33	
S10Pit11	第13・14図	北西壁	不整楕円形	30	25	13	
S10Pit12	第13・14図	西隅	不整楕円形	86	50	75	掘り方あり
S10Pit13	第13・14図	西隅	不整楕円形	28	16	54	
S10Pit14	第13・14図	北西壁	不整楕円形	30	26	23	
S10Pit15	第13・14図	北西壁	不整円形	24	22	15	
S10Pit16	第13・14図	北西壁	不整円形	28	23	13	
S10Pit17	第13・14図	北西壁	不整円形	24	24	18	
S10Pit18	第13・14図	南東壁	不整楕円形	29	14	34	
S10Pit19	第13・14図	北西壁	不整円形	27	27	99	
S10Pit20	第13・14図	北隅	不整円形	36	27	33	
S10Pit21	第13・14図	東側	不整円形	71	45	17	
S10Pit22	第13・14図	東隅	不整円形	61	54	49	掘り方あり
S10Pit23	第13・14図	東側	不整円形	74	72	36	
S11SK1	第15・16図	中央	不整楕円形	218	195	21	床面下
S11Pit1	第15図	東隅	不整楕円形	52	48	17	
S11Pit2	第15図	西隅	不整楕円形	29	23	6	
S11Pit3	第15図	西隅	不整円形	20	19	12	
S11Pit4	第15図	西隅	不整楕円形	20	16	15	
S11Pit5	第15図	Pit4内	不整楕円形	43	25	10	
S11Pit6	第15図	北西壁	不整楕円形	28	17	21	
S11Pit7	第15図	北西側	不整楕円形	20	14	6	
S11Pit8	第15図	北隅	不整楕円形	50	36	8	
S11Pit9	第15図	東隅	不整円形	28	25	7	
S11Pit10	第15・16図	南隅	不整円形	69	60	12	
S11Pit11	第15・16図	南隅	不整円形	65	60	22	
S11Pit12	第15・16図	南西側	不整楕円形	102	66	21	
S11Pit13	第15・16図	中央西側	不整楕円形	123	104	47	
S11Pit14	第15・16図	西隅	不整楕円形	124	96	29	
S11Pit15	第15・16図	北側	不整長方形	73	54	59	

遺構番号	図版番号	位置	平面形	規模（cm）			備考
				長軸	短軸	深さ	
S 11Pit16	第15・16図	東側	隅丸方形	92	83	35	
S 11Pit17	第15・16図	東側	不整方形	93	56	26	
S 11Pit18	第15・16図	東側	不整楕円形	86	74	13	
S 11Pit19	第15・16図	中央南側	不整円形	52	51	12	
S 11Pit20	第15・16図	南隅	不整円形	21	19	35	
S 11Pit21	第15・16図	西側	不整円形	28	26	26	
S 11Pit22	第15・16図	北隅	隅丸方形	25	23	43	
S 11Pit23	第15・16図	東隅	不整円形	30	26	32	
S 11Pit24	第15・16図	南東側	不整方形	46	35	22	
S 11Pit25	第15・16図	中央東隅	不整円形	52	50	51	
S 12Pit1	第17図	南西側	不整円形	73	65	7	
S 12Pit2	第17図	東隅	不整楕円形	138	62	13	
S 12Pit3	第17図	南側	不整楕円形	32	18	14	重複？
S 12Pit4	第17図	東壁	不整円形	18	18	8	
S 12Pit5	第17図	南側	不整楕円形	22	15	5	
S 12Pit6	第17図	南壁	不整楕円形	20	9	10	
S 12Pit7	第17図	南西側	不整楕円形	40	24	15	
S 12Pit8	第17図	西壁	不整楕円形	20	8	10	
S 12Pit9	第17図	西側	不整円形	22	20	18	
S 12Pit10	第17図	西壁	不整円形	21	13	11	
S 13SK1	第18図	北西側	不整長方形	137	90	51	浅い掘り方あり
S 13Pit1	第18図	中央西隅	不整円形	58	56	26	
S 13Pit2	第18図	南東側	不整楕円形	54	37	14	
S 13Pit3	第18図	東隅	不整楕円形	75	70	16	
S 13Pit4	第18図	南西壁	不整楕円形	39	15	24	
S 13Pit5	第18図	西隅	不整円形	28	20	22	
S 13Pit6	第18図	南隅	不整楕円形	26	15	21	
S 13Pit7	第18図	北隅	不整楕円形	30	16	22	
S 13Pit8	第18図	北西壁	不整楕円形	28	18	19	
S 13Pit9	第18図	北東壁	不整楕円形	50	21	21	
S 13Pit10	第18図	南東壁	不整楕円形	30	10	5	
S 14Pit1	第19図	東隅	不整楕円形	31	26	31	
S 14Pit2	第19図	北東壁	不整楕円形	18	12	28	
S 14Pit3	第19図	南隅	不整楕円形	21	17	14	
S 14Pit4	第19図	北隅	不整楕円形	35	23	40	
S 14Pit5	第19図	北側	不整円形	42	39	49	
S 15SK1	第19図	東側	不整楕円形	172	140	69	
S 16SK1	第21図	北隅	不整方形	126	119	30	
S 16Pit1	第21図	東隅	不整楕円形	66	43	19	
S 16Pit2	第21図	西隅	不整円形	28	25	21	
S 16Pit3	第21図	南東側	不整円形	32	26	11	
S 17Pit1	第22図	南東側	不整楕円形	67	44	10	
S 17Pit2	第22図	南東側	不整楕円形	90	69	48	
S 17Pit3	第22図	西隅	不整楕円形	99	84	10	
S 17Pit4	第22図	北隅	不整楕円形	85	70	7	
S 17Pit5	第22図	北東側	不整長方形	53	40	5	
S 17Pit6	第22図	南東壁	不整円形	26	23	13	
S 17Pit7	第22図	南東壁	不整楕円形	36	28	10	
S 17Pit8	第22図	北西壁	不整楕円形	32	29	5	
S 17Pit9	第22図	北西壁	不整楕円形	34	21	6	
S 17Pit10	第22図	北東壁	不整楕円形	31	21	5	
S 17Pit11	第22図	北東壁	不整円形	30	25	15	
S 17Pit12	第22図	東隅	不整円形	44	41	9	

遺構番号	図版番号	位置	平面形	規模（cm）			備考
				長軸	短軸	深さ	
S 18・19Pit1	第23・24図	S 19南側	不整楕円形	68	48	9	
S 18・19Pit2	第23・24図	S 18北東	不整楕円形	45	28	11	
S 18・19Pit3	第23・24図	S 18南側	不整楕円形	60	36	17	
S 18・19Pit4	第23・24図	S 18東側	不整長方形	68	50	6	
S 18・19Pit5	第23・24図	S 19南隅	不整楕円形	26	25	36	
S 18・19Pit6	第23・24図	S 18北側	不整楕円形	54	30	5	
S 18・19Pit7	第23・24図	S 19南側	不整楕円形	31	25	32	
S 18・19Pit8	第23・24図	S 18中央	不整楕円形	87	66	15	
S 18・19Pit9	第23・24図	S 19南西	不整楕円形	57	46	9	
S 18・19Pit10	第23・24図	S 19東側	不整方形	66	58	11	
S 18・19Pit11	第23・24図	S 18中央	不整楕円形	70	59	21	
S 18・19Pit12	第23・24図	S 19西側	不整楕円形	70	56	49	
S 18・19Pit13	第23・24図	S 18南側	不整楕円形	80	54	44	
S 18・19Pit14	第23・24図	S 18東側	不整長方形	53	26	41	
S 18・19Pit15	第23・24図	S 18南東	不整楕円形	80	51	10	
S 18・19Pit16	第23・24図	S 18南隅	不整楕円形	29	22	21	
S 18・19Pit17	第23・24図	S 18東隅	不整楕円形	21	14	21	
S 18・19Pit18	第23・24図	S 19西隅	不整楕円形	57	36	24	
S 18・19Pit19	第23・24図	S 18西隅	不整楕円形	33	17	13	
S 18・19Pit20	第23・24図	S 19東隅	不整楕円形	33	24	23	
S 18・19Pit21	第23・24図	S 18北隅	不整楕円形	26	22	31	
S 18・19Pit22	第23・24図	S 19南側	不整楕円形	50	25	12	土師器群収納ピット
S 20Pit1	第25図	南西壁	不整楕円形	88	50	16	
S 20Pit2	第25図	南東壁	不整円形	30	26	10	
S 21Pit1	第25図	北隅	不整円形	55	49	6	
S 21Pit2	第25図	北隅	不整楕円形	107	41	8	
S 21Pit3	第25図	北隅	不整楕円形	63	39	4	
S 21Pit4	第25図	北隅	不整楕円形	52	38	17	



第1号竪穴住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/1	
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒少量
第5層	褐色土	10YR4/4	ロームブロック多量
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、焼土粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土粒少量
第12層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第13層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒少量
第14層	褐色土	10YR4/4	ロームブロック多量
第15層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量（pit1）
第16層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土粒少量
第17層	褐色土	10YR4/4	ローム主体
第18層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第19層	黒褐色土	10YR2/3	
第20層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒微量
第21層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量
第22層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第23層	黒褐色土	10YR3/2	
第24層	にぶい褐色土	10YR7/3	月見野火山灰主体

第2号竪穴住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/3	白鶴山茂小牧火山灰混在
第2層	黒色土	10YR2/1	
第3層	にぶい黄褐色土	10YR7/3	月見野火山灰主体
第4層	灰黄褐色土	10YR4/3	焼土粒少量
第5層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒少量
第6層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	

第2号竪穴住居跡pit1

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量
第4層	黄褐色土	10YR5/6	ローム主体

第1号竪穴住居跡1号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/1	ローム粒微量、炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒微量、炭化物微量
第3層	褐色土	10YR4/6	ロームブロック多量
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック微量、炭化物微量
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック多量

第2号竪穴住居跡1号土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/1	
第2層	黒色土	10YR2/1	
第3層	黒色土	10YR2/1	ロームブロック少量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ロームブロック多量
第5層	黒色土	10YR1.7/1	

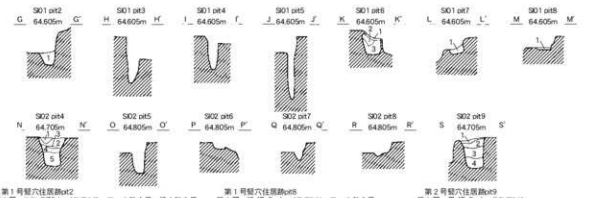
第2号竪穴住居跡pit2

第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒多量
第2層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒多量
第3層	明褐色土	7.5YR5/6	
第4層	褐色土	7.5YR4/6	ローム粒多量
第5層	褐色土	7.5YR4/3	ロームブロック中量
第6層	黒褐色土	7.5YR3/2	ロームブロック少量
第7層	黄橙色土	7.5YR7/8	月見野火山灰主体

第2号竪穴住居跡pit3

第1層	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック少量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ロームブロック少量
第3層	灰黄褐色土	10YR5/2	ローム粒微量

第7図　第1・2号竪穴住居跡（1）



第1号竪穴住居跡pit2
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒少量、焼土粒少量

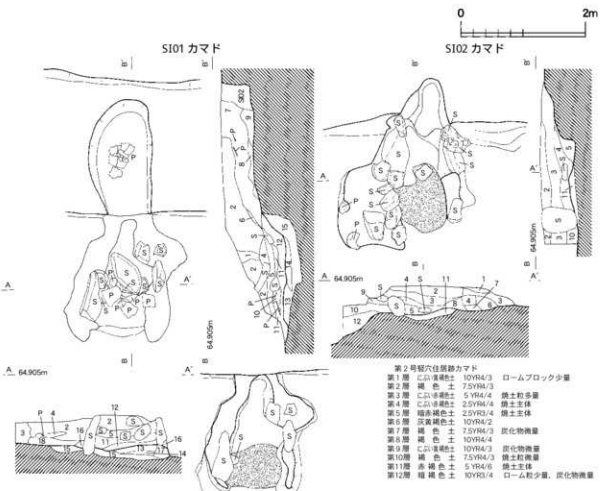
第1号竪穴住居跡pit6
第1層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック中量
第3層　暗褐色土　10YR3/4

第1号竪穴住居跡pit7
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量

第1号竪穴住居跡pit8
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量

第2号竪穴住居跡pit4
第1層　暗褐色土　10YR3/4
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ロームブロック多量
第3層　にぶい黄褐色土　10YR5/4
第4層　明黄褐色土　10YR6/8　月見野火山灰主体
第5層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　大谷火山灰主体

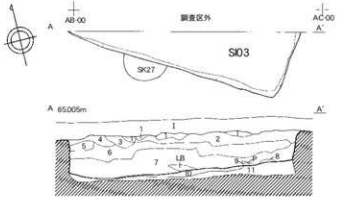
第2号竪穴住居跡pit9
第1層　黒褐色土　7.5YR3/1
第2層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ローム粒多量
第3層　明褐色土　7.5YR5/6
第4層　橙　色　土　7.5YR6/8　ローム粒少量



第2号竪穴住居跡カマド
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック少量
第2層　褐　色　土　7.5YR4/3
第3層　にぶい赤褐色土　5 YR4/4　焼土粒多量
第4層　にぶい赤褐色土　2.5YR4/4　焼土主体
第5層　暗赤褐色土　2.5YR3/4　焼土主体
第6層　灰黄褐色土　10YR4/2
第7層　褐　色　土　7.5YR4/3　炭化物微量
第8層　褐　色　土　10YR4/4
第9層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭化物微量
第10層　褐　色　土　7.5YR4/3　焼土粒微量
第11層　赤褐色土　5 YR4/6　焼土主体
第12層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量

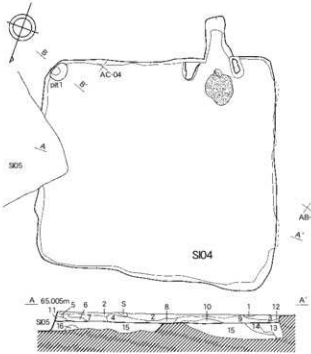
第1号竪穴住居跡カマド
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第3層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第4層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第5層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量
第6層　にぶい赤褐色土　5 YR4/4　焼土主体
第7層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量、焼土粒少量（埋蔵部）
第8層　褐　色　土　10YR4/4　ローム主体
第9層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第10層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　焼土粒微量
第11層　褐　色　土　7.5YR4/3　ローム主体
第12層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量
第13層　明赤褐色土　2.5YR5/6　焼土主体
第14層　暗赤褐色土　2.5YR3/3　焼土粒多量
第15層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物微量、焼土粒微量
第16層　褐　色　土　7.5YR4/4　ローム主体（ノア部）
第17層　褐　色　土　7.5YR4/3　ローム粒少量、炭化物微量
第18層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム主体

第8図　第1・2号竪穴住居跡（2）



第３号竪穴住居跡

第１層	褐　色　土	10YR4/4	ローム粒中量、炭化物微量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物微量
第３層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量
第４層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量
第５層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物微量
第６層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物少量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物微量
第８層	黒　色　土	10YR2/1	ローム粒微量
第９層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒微量
第10層	黄褐色土	10YR5/8	ローム粒少量、炭化物微量
第11層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒微量、炭化物微量

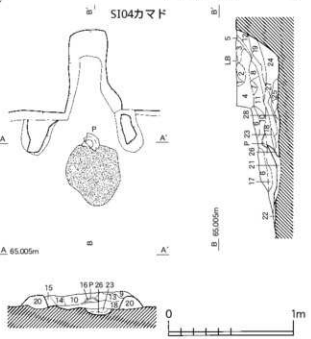


第４号竪穴住居跡pit１

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量
第２層	褐　色　土	10YR4/6	ローム粒少量、炭化物微量
第３層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒微量、炭化物微量

第４号竪穴住居跡

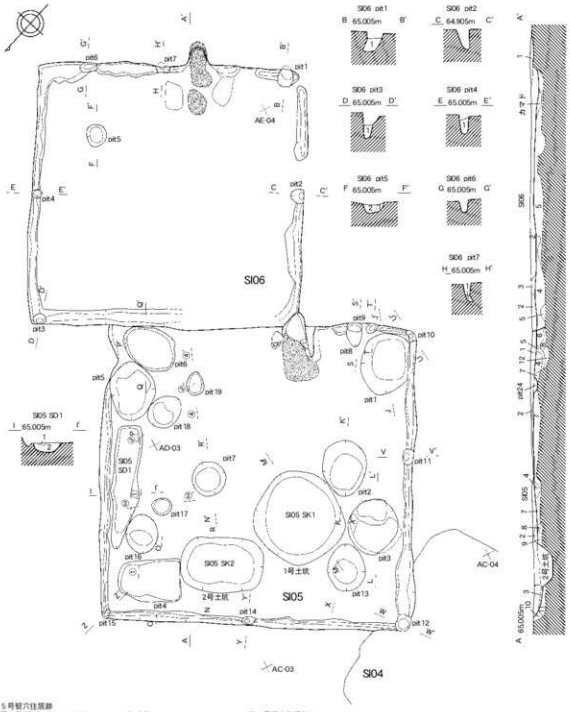
第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物少量
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物少量
第３層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量、炭化物少量
第４層	黒褐色土	10YR3/2	ロームブロック少量
第５層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物少量
第６層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒少量
第７層	黄褐色土	10YR5/6	ローム主体
第８層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土粒少量
第９層	黄褐色土	10YR5/8	焼土粒微量
第10層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒少量
第11層	褐　色　土	10YR4/4	ローム主体
第12層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量
第13層	にぶい黄褐色土	10YR6/3	炭化物少量
第14層	褐　色　土	10YR4/4	炭化物少量
第15層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第16層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物少量



第４号竪穴住居跡カマド

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第２層	にぶい黄褐色	10YR5/3	焼土粒少量
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物少量
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物少量
第５層	暗赤褐色土	5YR3/3	焼土主体
第６層	にぶい褐色	7.5YR5/3	炭化物少量
第７層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒少量
第８層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒少量
第９層	暗赤褐色土	5YR3/4	焼土ブロック多量
第10層	にぶい褐色	7.5YR5/4	炭化物少量
第11層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土ブロック多量
第12層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量、炭化物少量
第13層	暗赤褐色土	5YR3/6	ローム粒微量
第14層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第15層	褐　色　土	7.5YR4/6	炭化物微量
第16層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒少量、炭化物少量
第17層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒少量、炭化物微量
第18層	褐　色　土	7.5YR4/4	ローム粒微量、炭化物微量
第19層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物少量
第20層	褐　色　土	10YR4/6	炭化物微量
第21層	明赤褐色土	5YR5/8	焼土主体
第22層	黒　色　土	10YR2/1	炭化物多量
第23層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量
第24層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量
第25層	黒　色　土	10YR2/1	ローム粒中量
第26層	黒　色　土	10YR1.7/1	ローム粒少量、焼土粒中量
第27層	黒　色　土	10YR2/1	ローム粒多量
第28層	赤褐色土	5YR4/6	焼土主体

第９図　第３・４号竪穴住居跡



第５号竪穴住居跡
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物少量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量、炭化物少量
第４層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、焼土粒微量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物少量
第６層　にぶい黄褐土　10YR4/3　ローム主体
第７層　褐　色　10YR4/4　ロームブロック
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土粒微量
第９層　黒　色　土　10YR2/1　ローム粒中量、炭化物少量
第10層　黒　色　土　10YR1.7/1　ローム粒少量
第11層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量
第12層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量

第６号竪穴住居跡
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量
第４層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量
第５層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量

第６号竪穴住居跡pit1
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量

第６号竪穴住居跡pit3
第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量

第６号竪穴住居跡pit4
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量

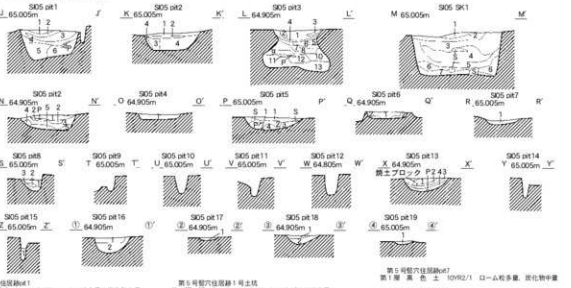
第６号竪穴住居跡pit5
第１層　褐　色　土　10YR4/6　ローム粒少量
第２層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒少量、焼土粒微量

第６号竪穴住居跡pit7
第１層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量

第５号竪穴住居跡１号溝跡
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量

0　2m

第10図　第５・６号竪穴住居跡（１）



第5号竪穴住居跡pit1
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物少量
第2層 黒 色 土 10YR2/1 ローム粒少量、炭化物少量
第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量、炭化物少量
第4層 黒褐色土 7.5YR3/1 炭化物少量、焼土粒中量
第5層 にぶい黒色土 10YR4/3 炭化物少量、焼土粒少量
第6層 灰黄褐色土 10YR4/2 炭化物少量、焼土粒少量

第5号竪穴住居跡pit2
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量、炭化物微量
第2層 黒 色 土 10YR1.7/1 ローム粒微量、炭化物微量
第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量、炭化物微量
第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物少量

第5号竪穴住居跡pit3
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量、炭化物少量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物微量
第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム ブロック微量、炭化物微量
第4層 褐 色 土 10YR4/6 ローム主体
第5層 暗赤褐色土 5YR3/6 焼土主体
第6層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量、炭化物微量
第7層 黒褐色土 7.5YR4/4 ローム粒微量、炭化物微量
第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物微量
第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物微量
第10層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物微量
第11層 褐 色 土 10YR4/3 ローム粒少量、炭化物微量
第12層 褐 色 土 7.5YR4/4 ローム粒少量、炭化物微量
第13層 褐 色 土 10YR4/4 ローム主体

第5号竪穴住居跡1号土坑
第1層 褐 色 土 10YR4/6 ローム ブロック少量
第2層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒中量、炭化物少量
第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、炭化物少量
第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量
第5層 黒 色 土 10YR2/1 ローム粒中量、炭化物少量
第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量、炭化物少量
第7層 黒 色 土 10YR2/1 ローム粒中量、炭化物少量

第5号竪穴住居跡2号土坑
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、炭化物少量
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量
第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量、炭化物少量
第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物微量
第5層 褐 色 土 10YR4/4 パミス微量

第5号竪穴住居跡pit4
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、炭化物少量

第5号竪穴住居跡pit5
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、炭化物少量
第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物微量
第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物微量
第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム ブロック微量、炭化物微量

第5号竪穴住居跡pit6
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、炭化物少量
第2層 暗褐色土 7.5YR3/2 ローム粒少量、炭化物微量

第5号竪穴住居跡pit7
第1層 黒 色 土 10YR2/1 ローム粒多量、炭化物中量

第5号竪穴住居跡pit8
第1層 褐 色 土 10YR4/4 ローム粒少量、炭化物微量
第2層 黒褐色土 10YR5/6 ローム粒微量、焼土粒微量
第3層 褐 色 土 10YR4/6 ローム粒微量

第5号竪穴住居跡pit13
第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量、炭化物少量
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量、炭化物少量
第3層 にぶい黒色土 10YR5/4 ローム主体
第4層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物少量

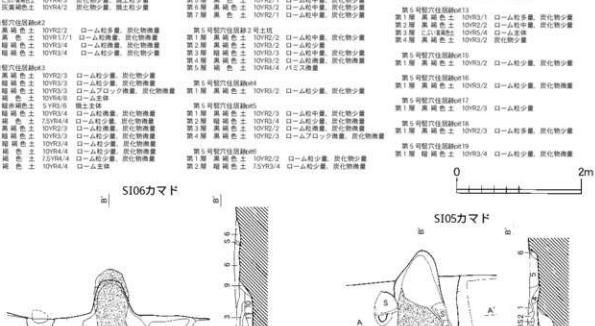
第5号竪穴住居跡pit15
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物微量

第5号竪穴住居跡pit16
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物微量

第5号竪穴住居跡pit17
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量

第5号竪穴住居跡pit18
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、炭化物少量

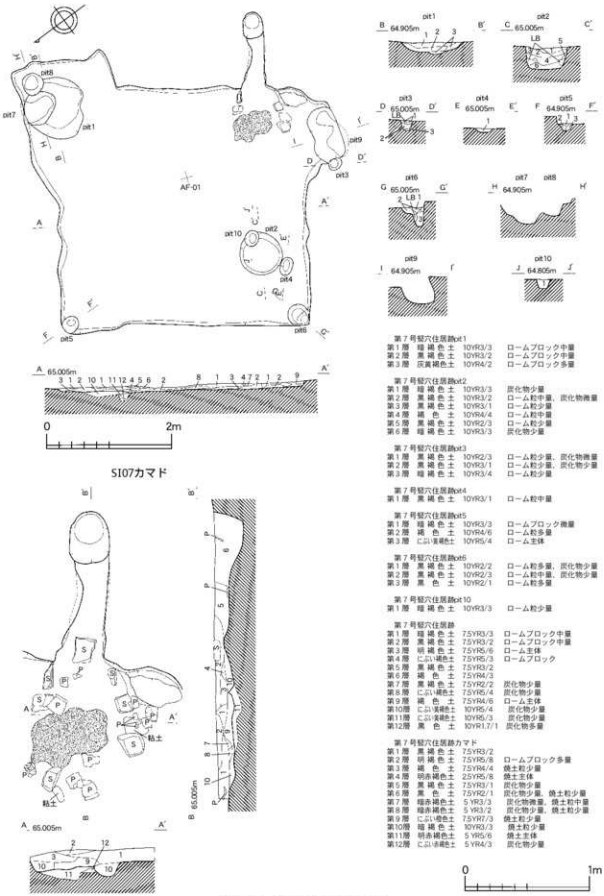
第5号竪穴住居跡pit19
第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物微量



第6号竪穴住居跡カマド
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量、炭化物少量
第2層 にぶい黒色土 10YR5/4 ローム粒中量、炭化物少量
第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量、炭化物少量
第4層 黒 色 土 10YR2/1 焼土粒中量
第5層 にぶい黒色土 10YR4/3 炭化物微量
第6層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量、炭化物少量
第7層 暗赤褐色土 5YR3/6 ローム粒微量
第8層 赤 褐 色 2.5YR4/6 焼土主体
第9層 暗赤褐色土 5YR3/6 焼土主体
第10層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒微量
第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量、炭化物微量

第5号竪穴住居跡カマド
第1層 にぶい褐色土 7.5YR5/3 ローム粒少量
第2層 にぶい褐色土 10YR5/4 ローム主体
第3層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒少量
第4層 にぶい黒色土 10YR5/3 ローム粒少量、炭化物少量
第5層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量、焼土粒少量
第6層 にぶい黒色土 10YR5/4 炭化物少量
第7層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒中量、焼土粒少量
第8層 黒褐色土 5YR3/1 焼土主体
第9層 赤褐色土 5YR4/6 焼土主体
第10層 暗赤褐色土 5YR3/2 焼土粒少量

第11図　第5・6号竪穴住居跡（2）



第 7 号竪穴住居跡pit1

第1層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ロームブロック中量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ロームブロック中量
第3層	灰黄褐色土	10YR4/2	ロームブロック多量

第 7 号竪穴住居跡pit2

第1層	暗 褐 色 土	10YR3/3	炭化物少量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物微量
第3層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒少量
第4層	褐 色 土	10YR4/4	ローム粒中量
第5層	黒 褐 色 土	10YR2/3	ローム粒少量
第6層	暗 褐 色 土	10YR3/3	炭化物少量

第 7 号竪穴住居跡pit3

第1層	黒 褐 色 土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物微量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒少量、炭化物少量
第3層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム粒少量

第 7 号竪穴住居跡pit4

第1層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒中量

第 7 号竪穴住居跡pit5

第1層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ロームブロック微量
第2層	褐 色 土	10YR4/6	ローム粒多量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム主体

第 7 号竪穴住居跡pit6

第1層	黒 褐 色 土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量
第2層	黒 褐 色 土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物少量
第3層	黒 色 土	10YR2/1	ローム粒多量

第 7 号竪穴住居跡pit10

第1層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒少量

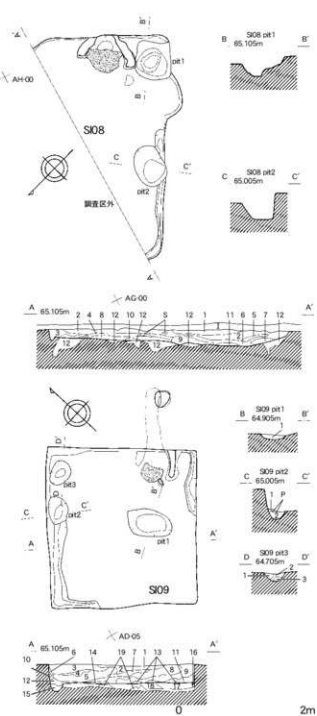
第 7 号竪穴住居跡

第1層	暗 褐 色 土	7.5YR3/3	ロームブロック中量
第2層	黒 褐 色 土	7.5YR3/2	ロームブロック中量
第3層	明 褐 色 土	7.5YR5/6	ローム主体
第4層	にぶい褐色土	7.5YR5/3	ロームブロック
第5層	黒 褐 色 土	7.5YR3/2	
第6層	褐 色 土	7.5YR4/3	
第7層	黒 褐 色 土	7.5YR2/2	炭化物少量
第8層	にぶい褐色土	7.5YR5/4	炭化物少量
第9層	褐 色 土	7.5YR4/6	ローム主体
第10層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	炭化物少量
第11層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	炭化物多量
第12層	黒 色 土	10YR1.7/1	炭化物多量

第 7 号竪穴住居跡カマド

第1層	黒 褐 色 土	7.5YR3/2	
第2層	明 褐 色 土	7.5YR5/8	ロームブロック多量
第3層	褐 色 土	7.5YR4/4	焼土粒少量
第4層	明赤褐色土	2.5YR5/6	焼土主体
第5層	黒 褐 色 土	7.5YR3/1	炭化物少量
第6層	黒 色 土	7.5YR2/1	炭化物少量、焼土粒少量
第7層	暗赤褐色土	5 YR3/3	炭化物微量、焼土粒中量
第8層	暗赤褐色土	5 YR3/2	炭化物少量、焼土粒少量
第9層	にぶい橙色土	7.5YR7/3	焼土粒少量
第10層	暗 褐 色 土	10YR3/3	焼土粒少量
第11層	明赤褐色土	5 YR5/6	焼土主体
第12層	にぶい赤褐色土	5 YR4/3	炭化物少量

第12図　第７号竪穴住居跡



第9号竪穴住居跡ell2

第1層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒中量、炭化物微量	
第2層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ローム粒多量、炭化物少量	

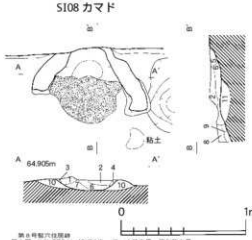
第9号竪穴住居跡ell3

第1層	にぶい黄色土	10YR7/2	炭化物少量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/2	炭化物少量
第3層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒中量、焼土粒微量

第9号竪穴住居跡カマド

第1層	黒 色 土	10YR2/1	ローム粒多量、炭化物少量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒多量
第3層	黒 色 土	10YR2/1	ローム粒中量
第4層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒多量
第5層	黒 色 土	10YR1.7/1	ローム粒中量
第6層	にぶい褐色土	10YR5/4	ローム主体
第7層	黒 褐 色 土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量
第8層	黒 色 土	10YR2/1	ローム粒少量
第9層	暗赤褐色土	5YR3/0	焼土主体
第10層	にぶい褐色土	5YR5/3	焼土主体
第11層	にぶい黄色土	10YR5/4	炭化物少量
第12層	にぶい黄色土	10YR6/3	炭化物少量
第13層	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物少量

SI08 カマド



第8号竪穴住居跡

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、炭化物少量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物少量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	ローム粒中量、炭化物少量
第4層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒中量、焼土粒微量
第5層	褐暗褐色土	5 YR3/3	焼土粒中量
第6層	黒 褐 色 土	10YR2/2	炭化物少量
第7層	にぶい褐色土	10YR6/3	炭化物少量
第8層	にぶい褐色土	10YR5/3	ローム粒中量
第9層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒少量
第10層	暗 褐 色 土	10YR3/3	炭化物少量
第11層	黒 褐 色 土	10YR2/2	炭化物少量
第12層	黒 褐 色 土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物少量

第8号竪穴住居跡カマド

第1層	黒 褐 色 土	10YR3/2	焼土ブロック
第2層	褐 色 土	7.5YR4/3	ローム主体
第3層	にぶい褐色土	2.5YR4/4	焼土ブロック
第4層	赤 褐 色 土	2.5YR4/6	焼土ブロック
第5層	褐 色 土	7.5YR4/3	焼土粒微量
第6層	にぶい褐色土	2.5YR4/4	焼土主体
第7層	にぶい褐色土	2.5YR4/3	焼土主体
第8層	褐 色 土	7.5YR4/3	
第9層	にぶい褐色土	7.5YR5/4	ローム主体
第10層	黒 色 土	7.5YR4/3	ローム粒
第11層	赤 褐 色 土	2.5YR4/6	焼土主体

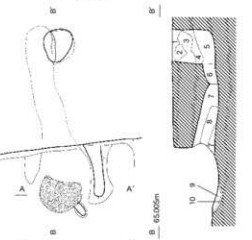
第9号竪穴住居跡

第1層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量
第2層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム ブロック多量
第3層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物少量
第4層	黒 色 土	10YR2/1	ローム粒少量、炭化物少量
第5層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒中量、炭化物少量
第6層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒少量
第7層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒多量、炭化物少量
第8層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物少量
第9層	黒 褐 色 土	10YR3/1	ローム粒中量、炭化物少量
第10層	黒 褐 色 土	10YR5/6	ローム主体
第11層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒中量、炭化物少量
第12層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒中量、炭化物少量
第13層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム主体
第14層	黒 褐 色 土	10YR2/2	ローム ブロック少量
第15層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム中量、炭化物少量
第16層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム粒少量、炭化物少量
第17層	褐 色 土	10YR4/4	炭化物微量
第18層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	炭化物少量
第19層	黒 褐 色 土	10YR5/6	ローム主体

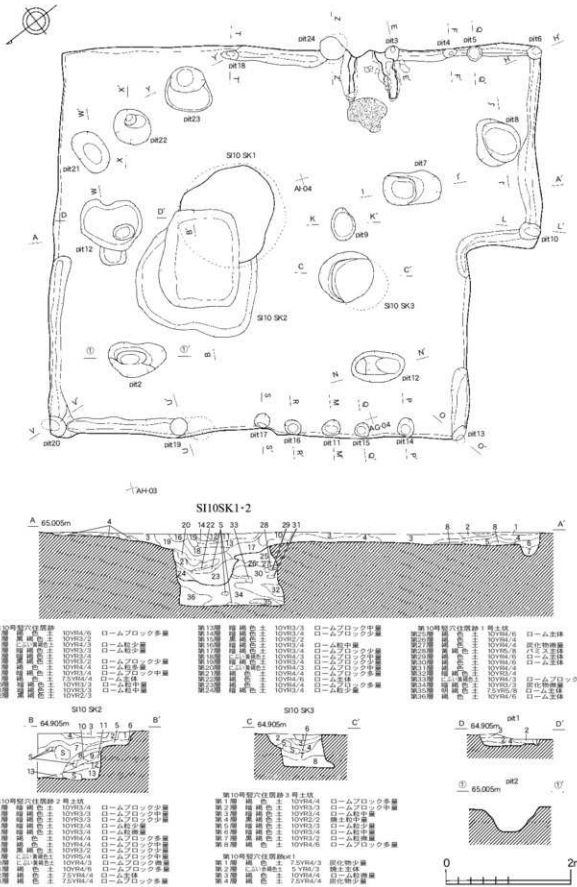
第9号竪穴住居跡ell

第1層	灰黄褐色土	10YR5/2	ローム粒中量、炭化物少量

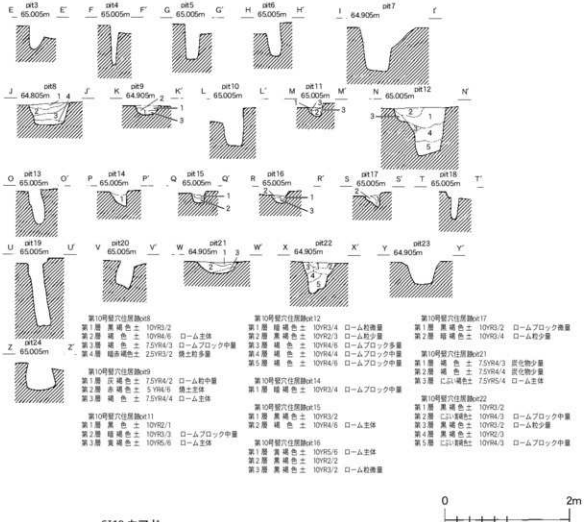
SI09 カマド



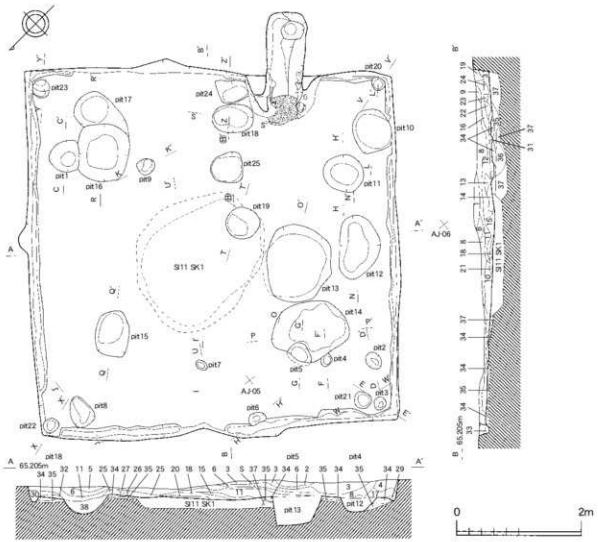
第13図　第8・9号竪穴住居跡

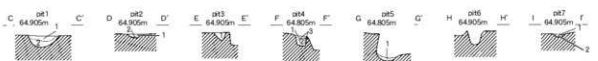


第14図　第10号竪穴住居跡（1）



第15図　第10号竪穴住居跡（2）



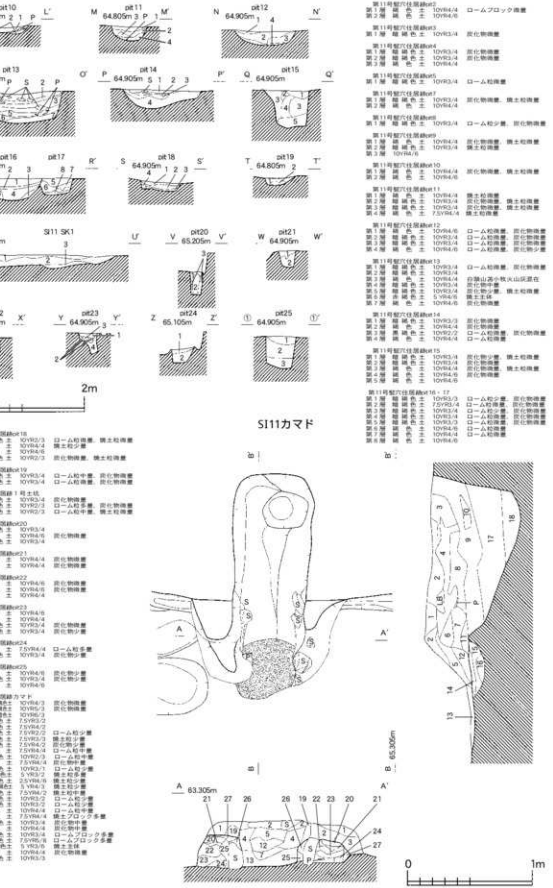


須恵器大甕検出状況

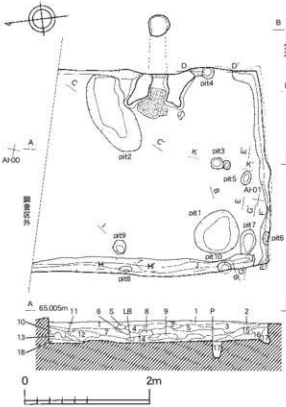
第11号竪穴住居跡

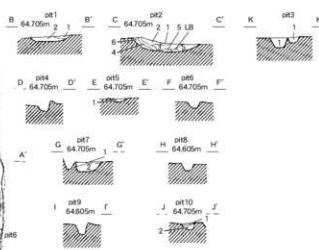
第1層	明褐灰色土	10YR7/6　炭化物微量
第2層	暗褐色土	10YR3/4　焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR3/1　焼土粒微量
第4層	褐色土	10YR4/4　炭化物微量
第5層	暗褐色土	10YR4/4　炭化物微量
第6層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物微量、焼土粒微量
第7層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物微量、特大山砂混在
第8層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物微量、焼土粒微量
第9層	褐色土	10YR4/4　炭化物微量
第10層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物微量、焼土粒微量
第11層	褐色土	10YR4/4　炭化物微量、焼土粒微量
第12層	褐色土	10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量
第13層	暗褐色土	10YR3/4　ロームブロック少量
第14層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物少量
第15層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物微量、焼土粒微量
第16層	褐色土	10YR4/6
第17層	にぶい褐色土	10YR4/3　炭化物微量
第18層	黒褐色土	10YR2/3　炭化物微量、焼土粒微量
第19層	褐色土	10YR4/4　炭化物微量
第20層	暗赤褐色土	5 YR3/6　焼土主体
第21層	暗赤褐色土	5 YR3/6　焼土主体
第22層	褐色土	10YR4/6　焼土粒少量
第23層	暗褐色土	7.5YR3/4　焼土粒微量
第24層	褐色土	10YR4/6　炭化物微量
第25層	暗褐色土	10YR3/4　炭化物中量、焼土粒少量
第26層	赤褐色	5 YR4/8　焼土主体
第27層	暗褐色土	10YR3/4　ローム粒少量、焼土粒少量
第28層	明褐色土	7.5YR5/8　焼土粒中量
第29層	暗褐色土	10YR3/4　ロームブロック中量
第30層	褐色土	10YR4/4　炭化物微量、焼土粒微量
第31層	黒褐色土	10YR2/3　炭化物微量、焼土粒微量
第32層	褐色	7.5YR4/6
第33層	暗褐色土	10YR3/4　ローム粒少量
第34層	にぶい褐色土	10YR6/3　炭化物少量
第35層	灰褐色土	10YR4/1　炭化物少量、焼土粒少量
第36層	灰黄褐色土	10YR4/2　炭化物少量、焼土粒少量
第37層	褐色土	10YR4/4　ローム主体
第38層	暗褐色土	10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量

第16図　第11号竪穴住居跡（1）



第17図　第11号竪穴住居跡（2）





第12号竪穴住居跡pit 1
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量

第12号竪穴住居跡pit 2
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量
第2層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量
第3層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物微量
第4層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物少量
第5層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量
第6層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量

第12号竪穴住居跡pit 3
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量

第12号竪穴住居跡pit 5
第1層　暗褐色土　10YR3/4

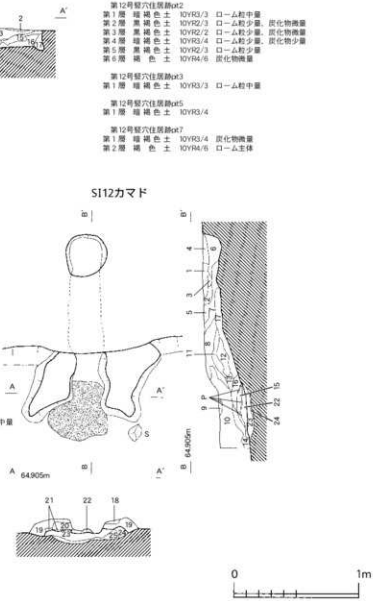
第12号竪穴住居跡pit 7
第1層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

第12号竪穴住居跡pit 10
第1層　暗褐色土　10YR3/3
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

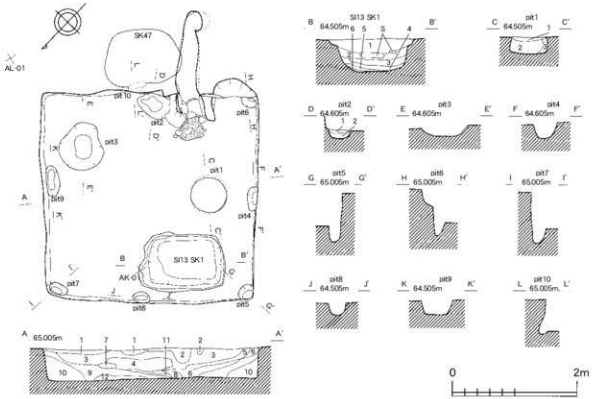
第12号竪穴住居跡
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第2層　にぶい黄橙色土　10YR4/3　ローム粒少量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量、炭化物少量
第4層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒多量、炭化物少量
第5層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物中量
第6層　にぶい黄橙色土　10YR5/4　ローム ブロック少量、炭化物少量
第7層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、炭化物少量
第8層　にぶい黄橙色土　10YR6/4　ローム ブロック多量
第9層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物少量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物少量
第11層　にぶい黄橙色土　10YR6/4　炭化物少量
第12層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物中量
第13層　にぶい黄橙色土　10YR4/3　ローム粒中量、炭化物微量
第14層　にぶい黄橙色土　10YR5/4　ローム粒中量、炭化物少量
第15層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、炭化物少量
第16層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒中量
第17層　黒褐色土　10YR2/3　ローム ブロック少量、炭化物少量
第18層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量

第12号竪穴住居跡カマド
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量、炭化物少量
第3層　にぶい黄橙色土　10YR4/3　ローム粒微量、炭化物微量
第4層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物少量
第5層　にぶい黄橙色土　10YR5/3
第6層　黒褐色土　5 YR3/1　ローム粒中量、炭化物中量
第7層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物中量
第8層　黒褐色土　10YR3/1　ローム ブロック中量、焼土ブロック中量
第9層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土粒少量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量
第11層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量
第12層　にぶい黄橙色土　10YR5/3
第13層　にぶい赤褐色土　5 YR4/4
第14層　にぶい黄橙色土　10YR6/3　炭化物微量
第15層　暗赤褐色土　5 YR3/4　炭化物微量
第16層　にぶい黄橙色土　10YR6/4　焼土粒微量
第17層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物中量
第18層　にぶい黄橙色土　10YR6/3　焼土ブロック少量
第19層　にぶい黄橙色土　10YR6/3　焼土粒少量
第20層　にぶい褐色土　7.5YR5/3　炭化物微量、焼土粒中量
第21層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　焼土粒少量
第22層　にぶい橙色土　7.5YR7/4　炭化物少量
第23層　にぶい赤褐色土　5 YR4/4　炭化物少量
第24層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量、炭化物少量
第25層　にぶい黄橙色土　10YR7/3　焼土粒少量

S12カマド



第18図　第12号竪穴住居跡



第13号竪穴住居跡

第1層　にぶい黒褐土　10YR4/3　ロームブロック多量
第2層　暗 褐 色 土　10YR3/4　ロームブロック中量
第3層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量
第4層　褐 色 土　10YR4/6　ロームブロック中量，炭化物少量
第5層　暗 褐 色 土　10YR3/4　ロームブロック中量，炭化物少量
第6層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第7層　褐 色 土　7.5YR4/6　ローム主体
第8層　褐　色　土　10YR4/4　ローム主体
第9層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量，炭化物少量
第10層　にぶい黒褐土　10YR4/3　ロームブロック多量
第11層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第12層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック多量

第13号竪穴住居跡1号土坑

第1層　にぶい黒褐土　10YR4/3　ロームブロック多量
第2層　黒 褐 色 土　10YR3/2　ロームブロック少量
第3層　褐　色　土　7.5YR4/3　ローム主体
第4層　黒 褐 色 土　10YR3/2　ロームブロック微量
第5層　黒 褐 色 土　10YR2/2
第6層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ローム主体

第13号竪穴住居跡pit1

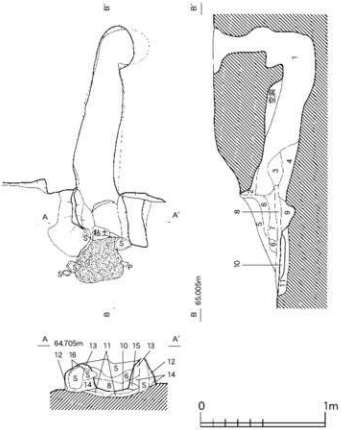
第1層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ロームブロック中量
第2層　褐　色　土　7.5YR4/4　ロームブロック中量
第3層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ローム主体

第13号竪穴住居跡pit2

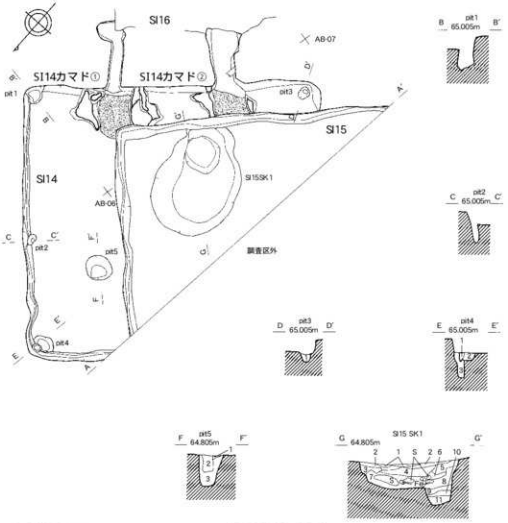
第1層　黒 褐 色 土　10YR3/2　焼土粒少量
第2層　暗 褐 色 土　10YR3/3　焼土粒少量

第13号竪穴住居跡カマド

第1層　黒　色　土　7.5YR2/1　焼土粒少量，炭化物少量
第2層　赤 褐 色 土　5 YR4/6　焼土主体
第3層　暗 褐 色 土　10YR3/4　炭化物少量，焼土粒微量
第4層　褐　色　土　7.5YR4/4　ロームブロック中量
第5層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒微量
第6層　黒　色　土　10YR2/1
第7層　黒 褐 色 土　10YR3/2
第8層　褐　色　土　7.5YR4/4　焼土粒中量
第9層　黒 褐 色 土　10YR3/2　炭化物少量
第10層　赤 褐 色 土　2.5YR4/6　焼土主体
第11層　にぶい褐色土　5 YR4/4　焼土主体
第12層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体（ソデ部）
第13層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体（ソデ部）
第14層　にぶい褐色土　5 YR4/4　焼土粒少量
第15層　褐　色　土　7.5YR4/4　焼土粒少量
第16層　赤 褐 色 土　5 YR4/8　焼土ブロック主体（ソデ部）



第19図　第13号竪穴住居跡

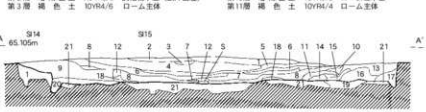


第14号竪穴住居跡pit3
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量

第14号竪穴住居跡pit4
第1層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量

第14号竪穴住居跡pit5
第1層　褐　色　土　7.5YR4/3　焼土粒少量
第2層　暗褐色土　7.5YR3/3　炭化物中量（鉄津混在）
第3層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

第15号竪穴住居跡１号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒多量，炭化物微量
第3層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第4層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量，炭化物微量
第5層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量，炭化物微量
第6層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量，炭化物微量
第7層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量，焼土粒微量
第8層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量
第9層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量，炭化物少量
第10層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量
第11層　褐　色　土　10YR4/4　ローム主体



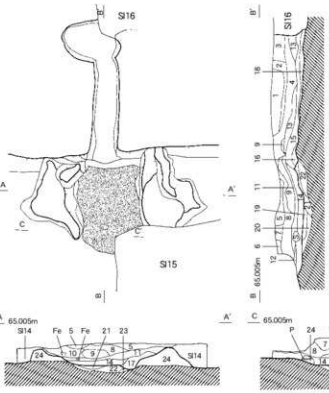
第14号竪穴住居跡
第1層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物少量（鉄津混在）

第15号竪穴住居跡
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック多量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量
第3層　炭黒褐色土　10YR4/2　ロームブロック多量
第4層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　ロームブロック多量
第5層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第6層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第7層　にぶい黒褐色土　10YR4/3
第8層　にぶい黒褐色土　10YR6/4　白頭山苫小牧火山灰混在
第9層　褐　色　土　10YR4/4
第10層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック多量
第11層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量
第12層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量
第13層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量
第14層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量
第15層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第16層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量
第17層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　ローム粒中量
第18層　黒褐色土　10YR5/6　ローム主体
第19層　暗赤褐色土　5YR3/4　焼土粒多量
第20層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒中量
第21層　褐　色　土　10YR4/6　ロームブロック

0　2m

第20図　第14・15号竪穴住居跡（１）

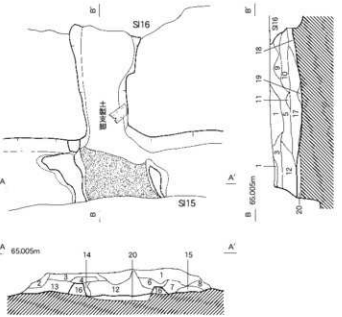
SI14カマド①



第14号竪穴住居跡カマド①

第1層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第2層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第3層	暗 褐 色 土	7.5YR3/4	焼土ブロック多量
第4層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム粒少量、焼土粒少量
第5層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第6層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第7層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム粒中量、炭化物微量
第8層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物微量
第9層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第10層	暗 褐 色 土	10YR3/4	ローム粒中量
第11層	黒 褐 色 土	10YR3/2	ローム粒微量、焼土粒微量
第12層	褐　色　土	7.5YR4/4	焼土主体
第13層	暗赤褐色土	5 YR3/4	焼土主体
第14層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第15層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第16層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第17層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第18層	暗 褐 色 土	10YR3/3	焼土粒微量
第19層	赤 褐 色 土	5 YR4/8	焼土主体
第20層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第21層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第22層	暗赤褐色土	5 YR3/6	焼土主体
第23層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第24層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体（ソデ部）

SI14カマド②

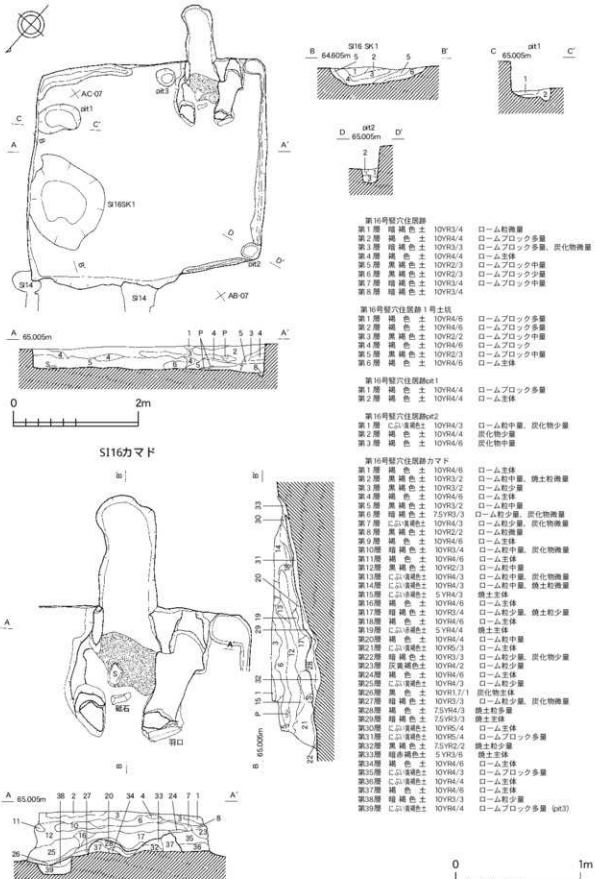


第14号竪穴住居跡カマド②

第1層	暗 褐 色 土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物少量
第2層	褐　色　土	10YR4/4	ローム・ブロック多量、焼土粒微量
第3層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第4層	褐　色　土	10YR4/4	ローム粒中量
第5層	褐　色　土	10YR4/4	ローム・ブロック中量
第6層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒多量、炭化物微量
第7層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム・ブロック
第8層	褐　色　土	10YR4/6	ローム・ブロック
第9層	褐　色　土	7.5YR4/4	焼土ブロック多量
第10層	黒 褐 色 土	7.5YR3/2	焼土粒中量
第11層	にぶい赤褐色土	5 YR4/4	焼土主体
第12層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第13層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第14層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体
第15層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒少量
第16層	褐　色　土	10YR4/6	ローム主体（ソデ部）
第17層	暗赤褐色土	5 YR3/2	焼土主体
第18層	暗赤褐色土	5 YR3/4	焼土主体
第19層	赤 褐 色 土	5 YR4/6	焼土主体
第20層	にぶい赤褐色土	5 YR4/4	焼土主体

0　1m

第21図　第14・15号竪穴住居跡（2）



第16号竪穴住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量	
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム ブロック多量	
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム ブロック多量、炭化物微量	
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム主体	
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム ブロック中量	
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム ブロック少量	
第7層	暗褐色土	10YR3/4	ローム ブロック中量	
第8層	暗褐色土	10YR3/4		

第16号竪穴住居跡 1号土坑

第1層	褐色土	10YR4/6	ローム ブロック多量
第2層	褐色土	10YR4/6	ローム ブロック多量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム ブロック中量
第4層	褐色土	10YR4/6	ローム ブロック
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム ブロック中量
第6層	褐色土	10YR4/6	ローム主体

第16号竪穴住居跡pit1

第1層	褐色土	10YR4/4	ローム ブロック多量
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム主体

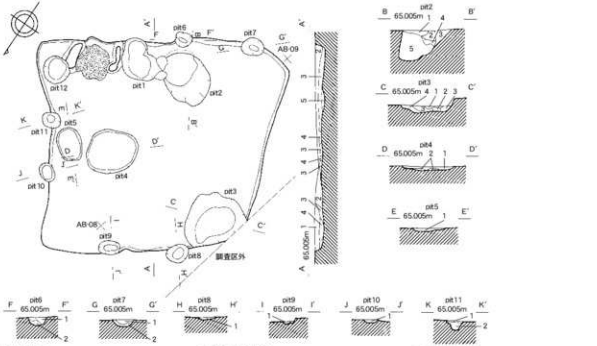
第16号竪穴住居跡pit2

第1層	にぶい褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、炭化物少量
第2層	褐色土	10YR4/4	炭化物少量
第3層	褐色土	10YR4/6	炭化物中量

第16号竪穴住居跡カマド

第1層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量
第4層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量
第6層	暗褐色土	7.5YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量
第7層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ローム粒少量、炭化物微量
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量
第9層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量、炭化物微量
第11層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量
第13層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、炭化物微量
第14層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、焼土粒微量
第15層	にぶい赤褐色土	5YR4/3	焼土主体
第16層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第17層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒少量、焼土粒少量
第18層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第19層	にぶい赤褐色土	5YR4/4	焼土主体
第20層	褐色土	10YR4/4	ローム粒中量
第21層	にぶい黒褐色土	10YR5/3	ローム主体
第22層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物少量
第23層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒少量
第24層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第25層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ローム粒少量
第26層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物主体
第27層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、炭化物微量
第28層	褐色土	7.5YR4/3	焼土粒多量
第29層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土主体
第30層	にぶい黒褐色土	10YR5/4	ローム主体
第31層	にぶい黒褐色土	10YR5/4	ローム ブロック多量
第32層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土粒少量
第33層	暗赤褐色土	5YR3/6	焼土主体
第34層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第35層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ローム ブロック多量
第36層	にぶい黒褐色土	10YR4/4	ローム主体
第37層	褐色土	10YR4/6	ローム主体
第38層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量
第39層	にぶい黒褐色土	10YR4/4	ローム ブロック多量 (pit3)

第22図　第16号竪穴住居跡



第17号竪穴住居跡

第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム ブロック中量
第2層　黒褐色土　10YR3/1　ローム ブロック中量
第3層　暗褐色土　10YR3/3
第4層　にぶい褐色土　10YR5/3　ローム ブロック多量
第5層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

第17号竪穴住居跡pit2

第1層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　ローム粒少量、炭化物少量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量、炭化物少量
第3層　にぶい黒褐色土　10YR5/3　ローム粒少量
第4層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量
第5層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量

第17号竪穴住居跡pit3

第1層　褐　色　土　10YR4/6　ローム ブロック
第2層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量
第3層　黒褐色土　10YR3/2　ローム ブロック多量
第4層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物少量

第17号竪穴住居跡pit4

第1層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　炭化物中量
第2層　にぶい黒褐色土　10YR5/3　炭化物少量

第17号竪穴住居跡pit5

第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物少量

第17号竪穴住居跡pit6

第1層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量
第2層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　ローム粒少量

第17号竪穴住居跡pit7

第1層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量
第2層　にぶい黒褐色土　10YR4/3　ローム粒中量

第17号竪穴住居跡pit9

第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量

第17号竪穴住居跡pit9

第1層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、炭化物微量

第17号竪穴住居跡pit10

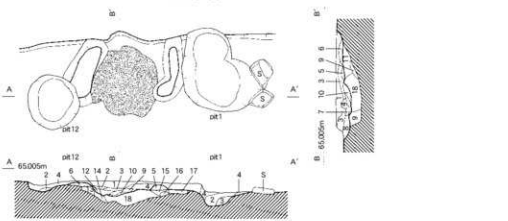
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量

第17号竪穴住居跡pit11

第1層　褐　色　土　10YR4/4　ローム ブロック
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量

0　2m

S17カマド

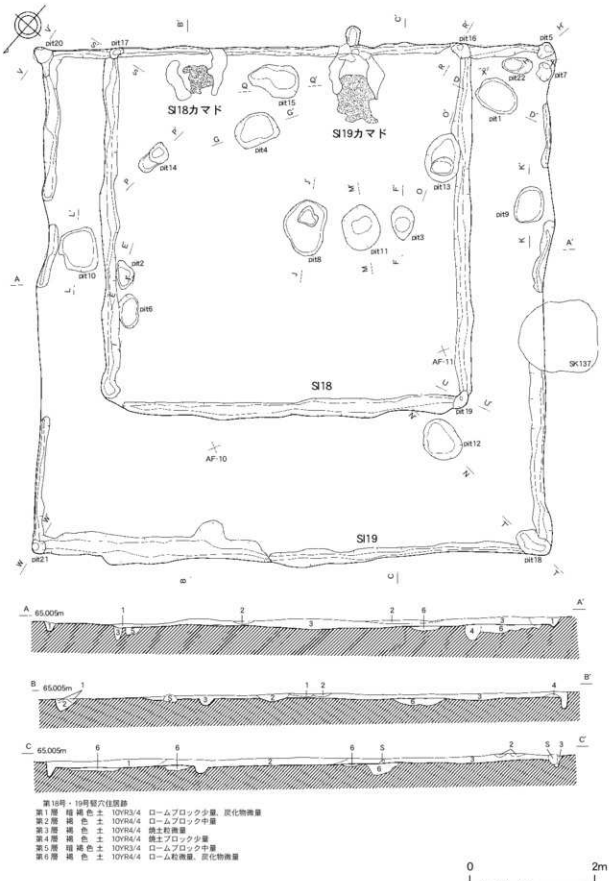


第17号竪穴住居跡カマド

第1層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、炭化物少量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物少量
第4層　にぶい赤褐色土　5.YR5/3　焼土主体
第5層　黒褐色土　10YR3/1　ローム ブロック少量
第6層　灰黄褐色土　10YR4/2　焼土粒中量
第7層　にぶい赤褐色土　5.YR4/4　焼土主体
第8層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第9層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、炭化物微量
第10層　橙　色　土　7.5YR6/6　焼土主体
第11層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　焼土粒中量
第12層　灰褐色土　7.5YR4/2　焼土粒少量
第13層　にぶい黒褐色土　10YR5/4　焼土粒微量
第14層　灰褐色土　7.5YR4/2　ローム粒中量
第15層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物微量
第16層　にぶい黒褐色土　10YR5/3　ローム主体
第17層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第18層　明赤褐色土　2.5YR5/8　焼土主体

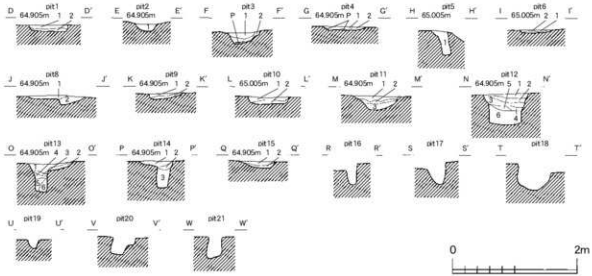
0　1m

第23図　第17号竪穴住居跡



第18号・19号竪穴住居跡
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量、炭化物微量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量
第3層　褐　色　土　10YR4/4　焼土粒微量
第4層　褐　色　土　10YR4/4　焼土ブロック少量
第5層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック中量
第6層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量

第24図　第18・19号竪穴住居跡（1）



第18号・19号竪穴住居跡pit1
第1層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物少量

第18号・19号竪穴住居跡pit2
第1層　黒褐色土　10YR2/2

第18号・19号竪穴住居跡pit3
第1層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物微量

第18号・19号竪穴住居跡pit4
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　暗褐色土　7.5YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量

第18号・19号竪穴住居跡pit5
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量

第18号・19号竪穴住居跡pit6
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/6　ローム粒微量、炭化物微量

第18号・19号竪穴住居跡pit8
第1層　暗褐色土　7.5YR3/3　ローム粒少量
第2層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ローム ブロック少量

第18号・19号竪穴住居跡pit9
第1層　暗褐色土　7.5YR3/3　ローム粒少量
第2層　にぶい褐色土　7.5YR5/4　ローム ブロック少量

第18号・19号竪穴住居跡pit10
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第2層　褐色土　7.5YR4/6　ローム粒少量、炭化物微量

第18号・19号竪穴住居跡pit11
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量
第2層　にぶい褐色土　10YR5/3　炭化物少量
第3層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物中量

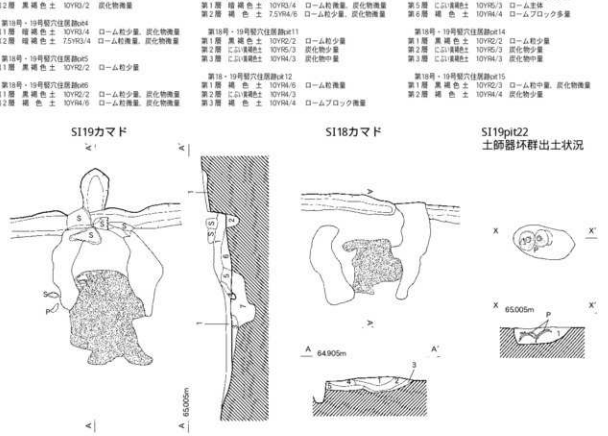
第18・19号竪穴住居跡pit12
第1層　褐色土　10YR4/6　ローム粒微量
第2層　にぶい褐色土　10YR4/3
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム ブロック微量

第4層　黒褐色土　10YR2/2　ローム ブロック少量
第5層　にぶい褐色土　10YR5/4
第6層　黒褐色土　10YR5/6　ローム ブロック多量

第18号・19号竪穴住居跡pit13
第1層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量
第2層　褐色土　10YR4/6　ローム粒微量
第3層　にぶい褐色土　10YR4/3　ローム粒微量
第4層　黒褐色土　10YR2/2　ローム ブロック少量
第5層　にぶい褐色土　10YR5/3　ローム主体
第6層　褐色土　10YR4/4　ローム ブロック多量

第18号・19号竪穴住居跡pit14
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量
第2層　にぶい褐色土　10YR5/3　炭化物少量
第3層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物中量

第18号・19号竪穴住居跡pit15
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/4　炭化物少量

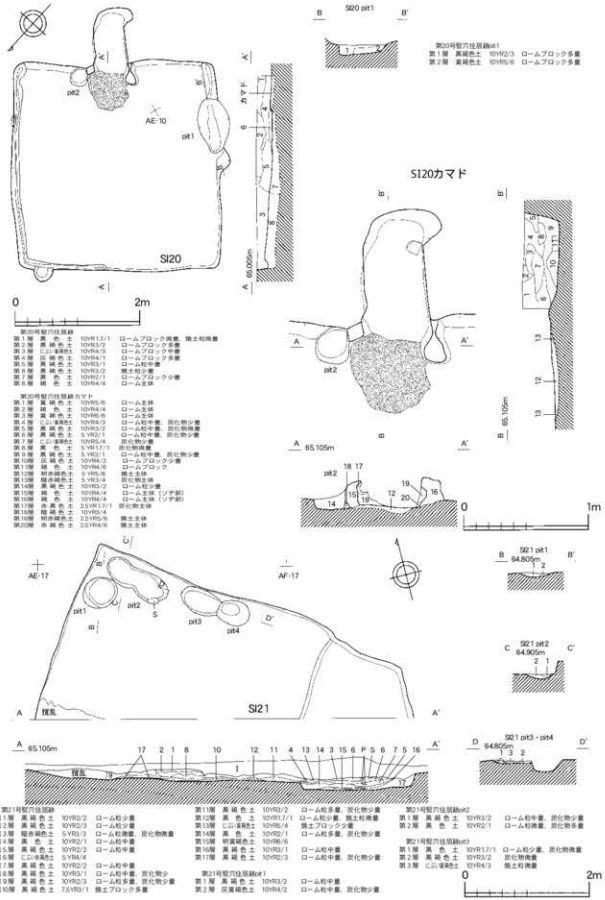


第19号竪穴住居跡カマド
第1層　暗赤灰色土　2.5YR3/1　焼土粒少量
第2層　褐色土　7.5YR4/4
第3層　赤黒色土　2.5YR1.7/1　炭化物少量
第4層　赤褐色土　2.5YR4/8　焼土ブロック
第5層　赤褐色土　2.5YR4/8　焼土主体
第6層　にぶい褐色土　7.5YR5/4
第7層　明赤褐色土　2.5YR5/6　焼土主体

第18号竪穴住居跡カマド
第1層　赤褐色土　2.5YR4/8　焼土主体
第2層　赤褐色土　2.5YR4/6　焼土主体
第3層　黄褐色土　10YR5/6　ローム主体
第4層　にぶい褐色土　10YR5/3　ローム ブロック多量
第5層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量

第18号・19号竪穴住居跡pit22
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量

第25図　第18・19号竪穴住居跡（2）



第26図　第20・21号竪穴住居跡

第２節　土坑（ＳＫ）

土坑は172基検出された（第27～38図）。出土遺物からは、概ね縄文時代後期前半の所産時期を推定できるが、遺物のないものもあり明らかでない。計測値等は観察表（第３表）に纏めたが、底面に小ピットを有する袋状土坑や溝を持つ袋状土坑、白灰色粘土埋納土坑、陥穴土坑など特筆すべき土坑も数多い。なお、紙幅の関係上、周囲に遺構の少ない土坑は別図に纏めた（第36～38図）。

袋状土坑は23基検出されたが、中でも第９・71・116・137・149号土坑は比較的規模が大きく、底面に小ピットが検出された。底面小ピットは土坑底面のほぼ中央に位置し、径30㎝内外の円形で、深さは10㎝程度に限定される。底面小ピットにつながる放射状の溝を持つ第149号土坑のみは、底面小ピットの径が60㎝と大きいが、他の袋状土坑とは若干異なる機能を持っていた可能性もあろう。第149号土坑の底面溝は、底面の壁際を巡る環状溝と中央の底面小ピットをつなぐように四本の放射状溝が掘られており、さらには環状溝内に10基の小ピットが確認される。かかる10基の小ピットは、ほぼ等間隔に並んでおり、径は10㎝内外である。その用途・機能は判然としないが、袋状土坑の形状を考慮すると、土坑入口に向かって斜めに細い柱などを組み合わせて建てたかもしれない。なお、底面西側の２基の小ピット間には、さらに小さな極小ピット（径４㎝内外）が２つ検出されたが、果たして遺構であるのかどうかもよく分からず、その性格は不明であると言わざるをえない。

第62号土坑は白灰色粘土埋納土坑と思われ、類例は青森市小牧野遺跡（青森市教育委員会2002）でも確認されている。土坑底面直上より鏡餅状の白灰色粘土塊が検出され（写真３参照）、粘土は径30㎝弱、厚さ８㎝内外を測る。本粘土には、土器素地としての用途が想定されている。

第114号土坑は、縦長で、底面に向かって徐々に幅が狭くなる特徴的な溝状土坑であり、狩猟等に使用された陥穴と推定される。同様の事例は、青森県域などにおいて縄文時代前期から確認されている。本土坑の時期比定は不明であるが、周辺より縄文中期末から後期初頭にかけての土器群が多く出土しており、本土坑も該期の所産である可能性が考えられよう。

第３節　小ピット（ＳＰ）

小ピットは127基検出された（第27～38図）。土坑に比して小規模なものを小ピットに分類しただけであり、その性格は判然としない。縄文土坑の周辺に分布する例が多いが、所産時期も不明である。柱穴状を呈するものもあるが、明確な配置は確認できなかった。計測値等は観察表（第４表）に纏めた。

（野坂　知広）

第3表　土坑観察一覧

遺構番号	調査区番号	位置	平面形	規模（cm）長軸	短軸	深さ	時期	備考
S K 01	第27図	A A－01	不整楕円形	96	88	21	縄文後期	横穴土器、装身具出土
S K 02	第27図	A A－01	隅丸方形	64	58	56	縄文後期	
S K 03	第27図	A A－01	不整円形	54	50	47	不明	
S K 04	第30図	A B－01	不整楕円形	86	60	54	縄文後期	
S K 05	第27図	A B－01	不整円形	52	42	70	不明	
S K 06	第27・32図	A C－01	不整楕円形	160	115	65	縄文後期	
S K 07	第27図	A B－01	不整楕円形	130	126	36	縄文後期	
S K 08	第27図	A B－01	不整楕円形	154	136	85	縄文後期	貼状土坑
S K 09	第35図	A D－17	不整楕円形	142	125	107	縄文後期	貼状土坑（祭祀ピット）
S K 10	第35図	A A－03	不整円形	94	72	27	平安期	S I 切を切っている
S K 11	第35図	A C－02	不整円形	54	52	55	縄文後期	
S K 12	第35図	A D－17	不整楕円形	146	136	16	縄文後期	小型磨製石斧出土
S K 13	第27図	A C－03	不整円形	126	110	41	縄文後期	
S K 14	第27図	A B－03	不整円形	86	76	5	縄文後期	
S K 15	第27図	A C－01	不整楕円形	66	44	20	不明	
S K 16	第27図	A C－01	隅丸方形	44	42	20	不明	
S K 17	第27図	A C－01	不整楕円形	56	41	43	不明	
S K 18	第27図	A C－01	不整円形	63	42	20	不明	
S K 19	第27図	A D－03	不整円形	51	36	20	不明	
S K 20	第27図	A D－03	不整円形	64	60	59	縄文後期	
S K 21	第27図	A D－03	不整楕円形	96	50	106	縄文後期	
S K 22	第27図	A E－01	不整円形	52	50	37	縄文後期	貼状土坑
S K 23	第27図	A E－02	不整円形	53	48	20	不明	
S K 24	第30図	A B－05	不整楕円形	93	78	56	縄文後期	貼状土坑
S K 25	第30図	A B－05	不整楕円形	52	47	45	不明	
S K 26	第30図	A E－03	不整円形	167	164	113	縄文後期	貼状土坑
S K 27	第27図	A B－03	不整円形	72	26	11	縄文後期	
S K 28	第27図	A B－03	不整円形	71	62	56	不明	
S K 29	第27図	A C－02	不整円形	27	26	77	不明	
S K 30	第27図	A C－01	不整円形	57	46	52	縄文後期	
S K 31	第30図	A G－03	不整円形	92	91	137	縄文後期	貼状土坑
S K 32	第28図	A 1－09	不整楕円形	96	62	20	縄文後期	
S K 33	第27図	A F－02	不整円形	58	39	16	縄文後期	
S K 34	第27図	A H－03	不整円形	68	52	12	縄文後期	
S K 35	第27図	A G－01	不整円形	103	97	48	縄文後期	
S K 36	第27図	A G－03	不整楕円形	130	65	72	縄文後期	貼状土坑
S K 37	第27図	A F－03	不整円形	63	52	82	縄文後期	貼状土坑
S K 38	第27図	A F－05	不整楕円形	110	89	82	縄文後期	貼状土坑
S K 39	第27図	A H－02	不整円形	65	48	8	縄文後期	
S K 40	第28図	A J－02	不整円形	124	122	13	縄文後期	小ピットあり
S K 41	第28図	A J－03	不整楕円形	125	90	36	縄文後期	
S K 42	第28図	A J－03	不整円形	52	48	26	不明	
S K 43	第28図	A J－03	不整円形	52	36	19	不明	
S K 44	第28図	A J－04	不整楕円形	68	44	29	不明	
S K 45	第28図	A K－04	不整楕円形	92	82	18	縄文後期	
S K 46	第28図	A K－02	不整楕円形	71	46	21	縄文後期	
S K 47	第28図	A K－02	不整楕円形	126	89	133	縄文後期	貼状土坑
S K 48	第28図	A L－04	不整円形	141	108	31	縄文後期	
S K 49	第28図	A L－04	不整円形	148	130	32	縄文後期	
S K 50	第28図	A L－05	不整円形	110	102	20	縄文後期	
S K 51	第28図	A L－05	不整円形	125	92	37	縄文後期	
S K 52	第28図	A L－05	不整円形	50	44	15	縄文後期	
S K 53	第28図	A J－07	不整円形	98	81	26	縄文後期	
S K 54	第28図	A J－07	不整楕円形	68	58	83	縄文後期	貼状土坑
S K 55	第28図	A J－07	不整楕円形	139	92	26	縄文後期	
S K 56	第28図	A L－09	不整楕円形	121	92	26	縄文後期	
S K 57	第28図	A K－09	不整楕円形	154	124	48	縄文後期	
S K 58	第28図	A L－10	不整楕円形	121	90	35	縄文後期	
S K 59	第28図	A K－09	不整円形	240	100	27	縄文後期	
S K 60	第28図	A K－10	不整楕円形	110	81	14	縄文後期	
S K 61	第30図	A J－09	不整方形	140	130	22	縄文後期	
S K 62	第30図	A J－09	不整楕円形	112	76	44	縄文後期	白坏色粘土埋納土坑
S K 63	第30図	A J－09	楕円形	130	92	25	縄文後期	
S K 64	第30図	A J－08	不整円形	70	68	36	不明	
S K 65	第30図	A J－08	不整円形	74	68	68	縄文後期	
S K 66	第30図	A J－08	不整円形	70	68	29	縄文後期	
S K 67	第30図	A H－08	不整楕円形	150	124	125	縄文後期	貼状土坑
S K 68	第30図	A H－09	不整円形	72	41	51	縄文後期	
S K 69	第30図	A H－08	不整円形	66	30	25	縄文後期	
S K 70	第30図	A H－08	不整円形	86	66	31	縄文後期	貼状土坑
S K 71	第30図	A H－08	不整楕円形	126	106	122	縄文後期	貼状土坑（祭祀ピット）
S K 72	第30図	A H－08	不整円形	60	54	15	不明	
S K 73	第30図	A H－08	不整円形	88	74	40	縄文後期	
S K 74	第30図	A H－08	不整楕円形	99	40	52	縄文後期	
S K 75	第30図	A H－09	不整円形	86	73	12	縄文後期	
S K 76	第30図	A H－09	不整円形	78	60	44	縄文後期	
S K 77	第30図	A H－09	不整円形	48	46	－	不明	

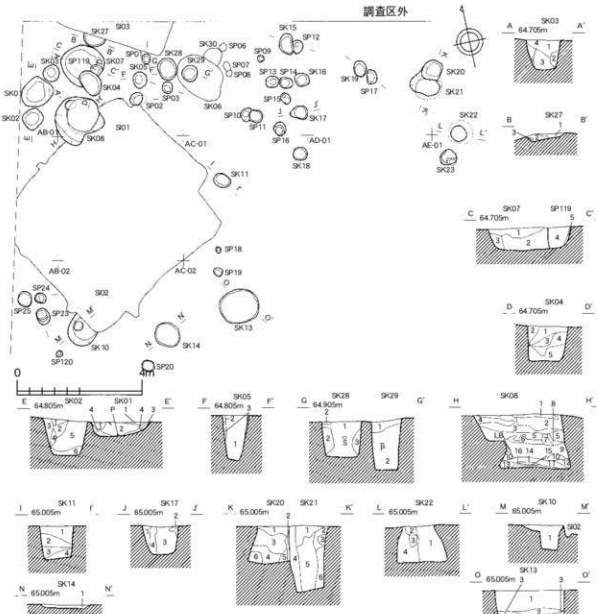
遺構番号	調査区番号	位置	平面形	規模（cm）長軸	短軸	深さ	時期	備考
S K 78	第30図	A H－09	不整円形	48	44	7	不明	
S K 79	第30図	A H－09	不整円形	50	43	20	不明	
S K 80	第30図	A I－09	不整楕円形	90	60	8	縄文後期	
S K 81	第30図	A I－09	不整楕円形	91	76	76	縄文後期	
S K 82	第30図	A I－09	不整楕円形	60	52	21	縄文後期	
S K 83	第30図	A I－09	不整楕円形	81	78	24	縄文後期	
S K 84	第30図	A I－10	不整方形	65	60	58	不明	
S K 85	第30図	A I－10	不整長方形	132	108	18	不明	
S K 86	第31図	A K－11	不整円形	160	124	66	縄文後期	
S K 87	第31図	A K－11	不整方形	72	68	23	縄文後期	
S K 88	第30図	A F－09	不整円形	64	60	16	不明	
S K 89	第30図	A I－10	不整方形	74	66	26	不明	
S K 90	第30図	A I－10	不整円形	84	59	32	縄文後期	
S K 91	第30図	A J－09	不整楕円形	120	94	10	縄文後期	
S K 92	第30図	A I－10	不整楕円形	110	58	34	縄文後期	
S K 93	第30図	A I－10	不整円形	70	55	24	縄文後期	
S K 94	第30図	A I－10	不整円形	80	72	67	縄文後期	
S K 95	第30図	A I－10	不整円形	48	46	20	不明	
S K 96	第30図	A I－10	不整円形	66	60	35	縄文後期	
S K 97	第30図	A I－10	不整円形	72	64	93	縄文後期	
S K 98	第30図	A I－10	不整楕円形	58	52	－	縄文後期	
S K 99	第30図	A H－09	不整円形	66	51	31	縄文後期	
S K 100	第30図	A G－09	不整円形	94	78	12	縄文後期	
S K 101	第30図	A H－10	不整楕円形	91	84	14	縄文後期	
S K 102	第30図	A H－10	不整楕円形	78	74	82	縄文後期	
S K 103	第30図	A H－10	不整楕円形	60	36	10	不明	
S K 104	第30図	A H－10	不整円形	56	51	12	不明	
S K 105	第30図	A H－10	不整楕円形	50	32	20	不明	
S K 106	第31図	A H－10	不整楕円形	50	44	42	縄文後期	
S K 107	第31図	A H－10	不整楕円形	66	56	60	縄文後期	
S K 108	第31図	A H－11	不整楕円形	68	60	20	縄文後期	
S K 109	第31図	A H－11	不整楕円形	126	80	60	縄文後期	
S K 110	第31図	A H－11	不整楕円形	60	48	61	縄文後期	貼状土坑
S K 111	第31図	A I－11	不整円形	43	40	20	縄文後期	
S K 112	第31図	A K－12	楕円形	66	64	12	縄文後期	
S K 113	第31図	A I－11	楕円形	72	56	30	縄文後期	
S K 114	第31図	A I－12	長楕円形	244	76	103	縄文後期	貼状土坑
S K 115	第32図	A I－12	不整楕円形	72	68	60	縄文後期	
S K 116	第32図	A I－12	不整楕円形	76	65	165	縄文後期	貼状土坑（祭祀ピット）
S K 117	第31図	A H－12	不整円形	64	61	81	縄文後期	貼状土坑
S K 118	第31図	A H－12	不整楕円形	92	46	20	縄文後期	
S K 119	第31図	A H－11	不整円形	72	70	52	縄文後期	
S K 120	第31図	A I－11	不整円形	50	44	34	縄文後期	貼状土坑
S K 121	第31図	A H－11	不整楕円形	52	50	83	縄文後期	貼状土坑
S K 122	第31図	A H－11	不整円形	50	47	21	縄文後期	貼状土坑
S K 123	第32図	A G－12	不整楕円形	76	52	10	縄文後期	
S K 124	第32図	A H－12	不整円形	86	59	40	縄文後期	
S K 125	第32図	A H－12	不整円形	56	52	50	縄文後期	
S K 126	第32図	A H－13	不整楕円形	96	61	47	縄文後期	
S K 127	第32図	A H－13	不整楕円形	60	58	11	縄文後期	
S K 128	第32図	A H－12	不整円形	50	48	20	不明	
S K 129	第32図	A I－12	不整楕円形	92	48	50	縄文後期	
S K 130	第32図	A I－12	不整楕円形	116	100	27	縄文後期	
S K 131	第32図	A I－13	不整楕円形	54	42	36	縄文後期	
S K 132	第32図	A I－13	不整楕円形	60	50	43	縄文後期	
S K 133	第32図	A I－13	不整楕円形	60	50	81	不明	
S K 134	第32図	A I－13	不整楕円形	54	43	55	縄文後期	
S K 135	第32図	A I－13	不整楕円形	62	46	26	縄文後期	
S K 136	第32図	A I－14	不整円形	60	59	40	縄文後期	
S K 137	第36図	A E－12	不整楕円形	125	112	160	縄文後期	貼状土坑（祭祀ピット）
S K 138	第37図	A F－09	不整楕円形	84	67	7	縄文後期	
S K 139	第37図	A F－14	不整円形	62	55	11	縄文後期	
S K 140	第38図	A C－08	不整楕円形	72	60	14	縄文後期	
S K 141	第32図	A I－14	不整円形	72	50	71	縄文後期	貼状土坑
S K 142	第32図	A H－14	不整楕円形	141	140	25	縄文後期	
S K 143	第33図	A H－14	不整円形	48	46	50	不明	
S K 144	第33図	A A－10	不整楕円形	184	103	42	縄文後期	
S K 145	第33図	A B－10	不整円形	90	88	14	縄文後期	
S K 146	第33図	A C－10	不整円形	97	84	24	縄文後期	
S K 147	第33図	A C－10	不整円形	114	89	26	縄文後期	
S K 148	第33図	A B－11	不整楕円形	112	94	24	縄文後期	
S K 149	第33図	A B－11	不整楕円形	88	75	168	縄文後期	貼状土坑（祭祀ピット・鍛）
S K 150	第33図	A A－11	不整円形	78	76	8	縄文後期	
S K 151	第33図	A C－12	不整楕円形	128	124	15	縄文後期	
S K 152	第33図	A C－12	不整円形	100	94	20	縄文後期	
S K 153	第33図	A A－13	不整円形	68	40	40	縄文後期	
S K 154	第34図	A B－13	不整円形	54	53	37	縄文後期	

遺構番号	図版番号	位　置	平面形	規模（cm）			時　期	備　考
				長軸	短軸	深さ		
S K155	第34図	A A－13	不整楕円形	120	79	30	縄文後期	
S K156	第34図	A B－14	不整楕円形	40	36	20	縄文後期	
S K157	第34図	A B－14	不整楕円形	96	91	32	縄文後期	
S K158	第34図	A B－14	不整楕円形	82	64	21	縄文後期	
S K159	第34図	A C－14	不整楕円形	60	48	25	縄文後期	
S K160	第34図	A D－13	不整円形	68	66	23	縄文後期	
S K161	第34図	A D－13	不整楕円形	128	80	17	縄文後期	
S K162	第34図	A D－13	不整楕円形	156	127	31	縄文後期	
S K163	第34図	A D－14	不整円形	65	63	10	不明	
S K164	第34図	A C－14	不整円形	56	51	23	不明	
S K165	第34図	A C－14	不整円形	52	44	31	不明	
S K166	第34図	A B－14	不整円形	80	76	38	縄文後期	
S K167	第34図	A A－13	不整円形	71	70	8	縄文後期	
S K168	第35図	A 1－09	不整楕円形	130	96	50	縄文後期	
S K169	第35図	A 1－09	不整楕円形	124	116	12	縄文後期	
S K170	第35図	A 1－09	不整楕円形	70	56	24	縄文後期	
S K171	第35図	A 1－09	不整楕円形	100	64	58	縄文後期	
S K172	第35図	A 1－09	不整楕円形	81	54	20	縄文後期	
S K173	第35図	A D－15	不整円形	65	65	90	縄文後期	
S K174	第35図	A D－16	不整楕円形	85	70	50	縄文後期	

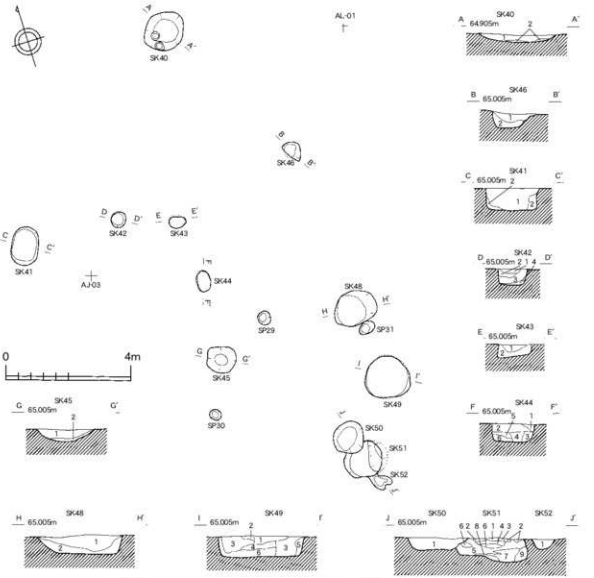
第４表　小ピット観察一覧

遺構番号	図版番号	位　置	平面形	規模（cm）			備　考
				長軸	短軸	深さ	
S P02	第27図	A B－08	不整円形	31	28	14	
S P02	第27図	A B－08	不整円形	42	38	20	
S P03	第27図	A B－08	不整円形	36	32	15	
S P04	第27図	A C－08	不整円形	38	34	16	
S P05	第27図	A C－08	不整円形	37	33	10	
S P06	第27・37図	A C－08	不整円形	25	23	14	
S P07	第27・37図	A C－08	不整形	31	22	15	
S P08	第27・37図	A C－08	不整円形	22	15	8	
S P09	第27図	A C－08	不整円形	21	20	24	
S P10	第27図	A C－08	不整円形	44	26	34	
S P11	第27図	A C－08	不整方形	42	38	30	
S P12	第27図	A C－08	不整形	44	32	15	
S P13	第27図	A C－08	不整方形	42	36	66	
S P14	第27図	A C－08	不整方形	40	34	12	
S P15	第27図	A C－08	不整形	36	35	15	
S P16	第27図	A C－08	不整方形	40	35	74	
S P17	第27図	A D－08	不整方形	46	22	46	
S P18	第27図	A C－07	不整方形	18	16	10	
S P19	第27図	A C－07	不整方形	30	29	31	
S P20	第27図	A B－07	不整方形	41	32	52	
S P21	第41図	A B－04	不整円形	40	30	11	
S P22	第41図	A B－04	不整円形	43	39	34	
S P23	第27図	A A－03	不整方形	50	41	40	
S P24	第27図	A A－03	不整円形	36	30	21	
S P25	第27図	A A－03	不整方形	46	42	65	
S P26	第41図	A B－05	不整円形	41	36	41	
S P27	第41図	A B－04	不整楕円形	61	42	21	
S P28	第27図	A B－02	不整形	45	30	10	
S P29	第28図	A K－04	不整円形	42	40	32	
S P30	第28図	A K－05	不整方形	40	32	19	
S P31	第28図	A L－04	不整形	54	39	30	
S P32	第28図	A K－09	不整方形	40	34	10	
S P33	第28図	A J－09	不整形	49	41	10	
S P34	第28図	A J－09	不整形	48	32	20	
S P35	第28図	A J－09	不整形	28	24	21	
S P36	第28図	A J－09	不整方形	36	30	12	
S P37	第28図	A J－09	不整形	52	34	35	
S P38	第30図	A J－09	不整楕円形	32	21	47	
S P39	第30図	A J－10	不整円形	38	36	20	
S P40	第30図	A J－10	不整円形	32	29	17	
S P41	第30図	A J－09	不整円形	29	36	10	
S P42	第30図	A J－10	不整形	48	46	10	
S P43	第30図	A J－10	不整円形	30	28	20	
S P44	第30図	A J－10	不整方形	44	34	26	
S P45	第30図	A J－10	不整方形	46	42	18	
S P46	第30図	A I－11	不整方形	19	16	6	
S P47	第30図	A I－11	不整方形	24	21	6	
S P48	第30図	A I－11	不整円形	22	18	10	
S P49	第30図	A I－11	不整円形	29	26	12	
S P50	第30図	A I－10	不整楕円形	30	20	20	
S P51	第30図	A I－10	不整方形	47	43	10	
S P52	第31図	A H－10	不整楕円形	36	32	20	

遺構番号	図版番号	位　置	平面形	規模（cm）			備　考
				長軸	短軸	深さ	
S P53	第31図	A G－10	不整方形	28	26	10	
S P54	第31図	A I－11	不整円形	28	26	10	
S P55	第30図	A I－09	不整円形	28	26	14	
S P56	第31図	A H－11	不整形	40	31	20	
S P57	第31図	A I－11	不整円形	32	26	13	
S P58	第31図	A H－11	不整方形	40	36	10	
S P59	第31図	A H－11	不整円形	36	32	28	
S P60	第31図	A H－11	不整方形	42	36	20	
S P61	第31図	A H－11	不整方形	32	30	10	
S P62	第31図	A H－11	不整円形	36	30	20	
S P63	第31図	A H－11	不整形	30	22	20	
S P64	第31図	A H－11	不整楕円形	28	26	29	
S P65	第32図	A H－12	不整円形	36	34	38	
S P66	第32図	A H－12	不整方形	48	46	42	
S P67	第31図	A I－11	不整円形	30	26	18	
S P68	第31図	A I－11	不整円形	30	25	15	
S P69	第31図	A I－12	不整楕円形	40	30	25	
S P70	第31図	A I－12	不整円形	34	21	22	
S P71	第31図	A I－11	不整円形	18	16	12	
S P72	第31図	A I－11	不整円形	29	24	20	
S P73	第31図	A I－11	不整円形	22	19	20	
S P74	第31図	A I－11	不整円形	28	20	20	
S P75	第31図	A I－12	不整円形	34	30	11	
S P76	第31図	A I－12	不整円形	28	22	10	
S P77	第31図	A I－12	不整円形	30	28	23	
S P78	第31図	A I－12	不整円形	34	32	18	
S P79	第32図	A I－12	不整円形	40	34	42	
S P80	第32図	A I－12	不整円形	30	26	13	
S P81	第32図	A I－12	不整円形	28	26	14	
S P82	第32図	A I－12	不整円形	26	20	19	
S P83	第32図	A I－12	不整円形	20	16	10	
S P84	第31図	A H－12	不整楕円形	32	24	22	
S P85	第31図	A H－12	不整円形	28	26	37	
S P86	第32図	A I－13	不整円形	40	36	33	
S P87	第32図	A I－13	不整円形	38	34	25	
S P88	第32図	A I－13	不整円形	30	26	17	
S P89	第32図	A H－13	不整円形	30	26	10	
S P90	第32図	A H－13	不整円形	50	40	20	
S P91	第32図	A I－13	不整円形	26	25	23	
S P92	第32図	A H－13	不整円形	32	26	10	
S P93	第32図	A H－13	不整円形	25	22	14	
S P94	第32図	A H－13	不整長方形	48	26	10	
S P95	第32図	A H－13	不整円形	30	26	17	
S P96	第32図	A G－13	不整円形	24	24	24	
S P97	第32図	A H－13	不整円形	30	24	24	
S P98	第32図	A G－12	不整円形	30	26	29	
S P99	第32図	A G－13	不整円形	30	26	42	
S P100	第32図	A G－13	不整円形	38	34	26	
S P101	第32図	A G－12	不整円形	38	34	12	
S P102	第32図	A G－12	不整円形	34	32	10	
S P103	第32図	A G－12	不整円形	24	22	23	
S P104	第32図	A G－12	不整方形	32	27	10	
S P105	第32図	A G－12	不整形	46	36	34	断面鉄状
S P106	第32図	A G－13	不整方形	36	32	26	
S P107	第32図	A G－13	不整方形	28	26	14	
S P108	第31図	A H－11	不整円形	36	28	42	
S P109	第34図	A C－14	不整円形	36	32	35	
S P110	第34図	A B－14	不整円形	40	38	16	
S P111	第34図	A B－15	不整円形	30	27	18	
S P112	第34図	A D－14	不整円形	32	30	36	
S P113	第34図	A D－14	不整円形	34	31	5	
S P114	第34図	A D－15	不整円形	30	24	11	
S P115	第35図	A E－15	不整楕円形	30	22	10	
S P116	第35図	A E－17	不整形	40	44	20	
S P117	第35図	A E－18	不整方形	40	32	10	
S P118	第35図	A C－17	不整方形	36	30	20	
S P119	第27図	A B－03	不整方形	39	26	34	
S P120	第27図	A B－03	不整円形	20	19	10	
S P121	第30図	A J－09	不整形	34	33	20	
S P122	第31図	A J－12	不整円形	30	26	11	
S P123	第31図	A H－12	不整方形	32	31	10	
S P124	第32図	A I－14	不整方形	44	40	95	
S P125	第32図	A H－12	不整形	54	40	45	
S P126	第32図	A H－13	不整円形	28	26	－	
S P127	第32図	A H－13	不整円形	46	44	－	



第27図　土坑・小ピット（1）



第40号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　ローム主体

第45号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　炭化物微量

第41号土坑
第1層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック少量
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

第42号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒微量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量
第3層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒微量
第4層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

第43号土坑
第1層　褐　色　土　10YR4/4
第2層　褐　色　土　10YR4/6　炭化物微量

第44号土坑
第1層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
第3層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物微量
第4層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック微量
第5層　褐　色　土　10YR4/4
第6層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ロームブロック少量

第48号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
第2層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体

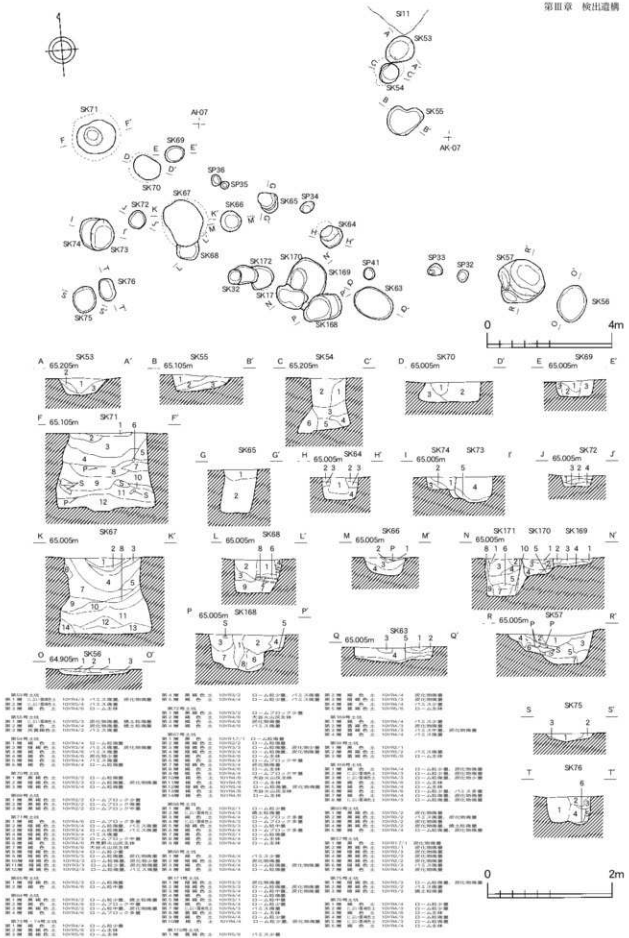
第49号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック中量
第3層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量
第4層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物微量
第5層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック微量
第6層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物微量

第50号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量

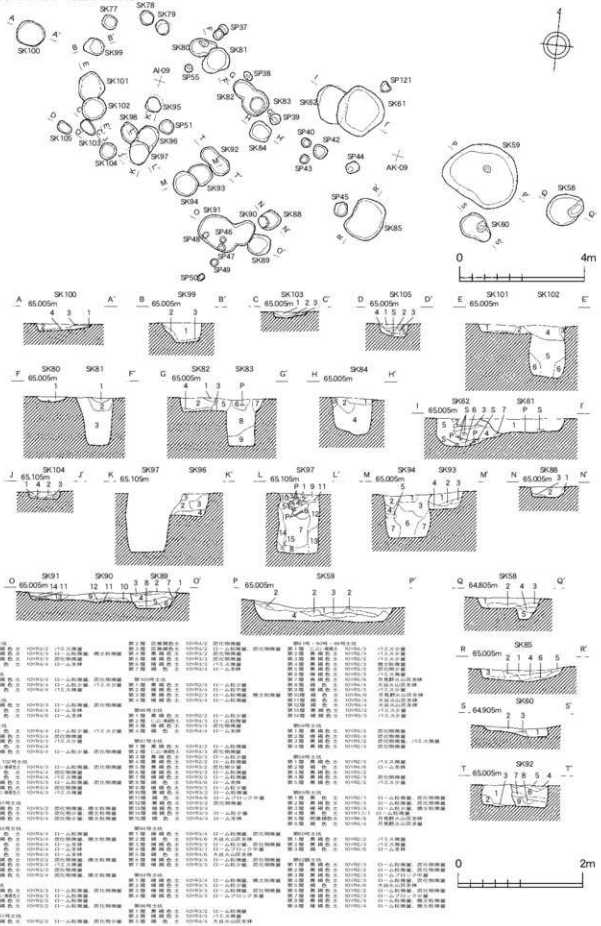
第51号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭化物少量
第2層　暗褐色土　10YR3/3
第3層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量
第4層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物中量
第5層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量
第6層　暗褐色土　10YR3/4　パミス少量
第7層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物少量
第8層　黒　色　土　10YR2/1　炭化物中量
第9層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量

第52号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3

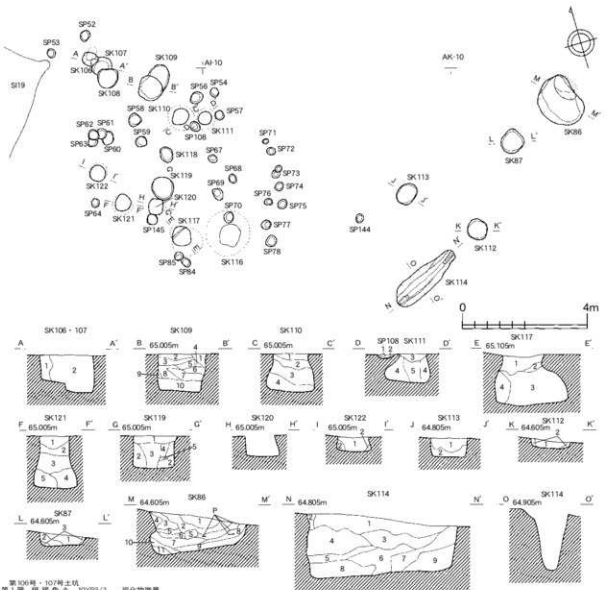
第28図　土坑・小ピット（2）



第29図　土坑・小ピット（3）



第30図　土坑・小ピット（4）



第106号・107号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量
第2層	褐　色土	10YR4/4	ローム主体

第109号土坑

第1層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒微量、炭化物微量
第2層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒少量、炭化物微量
第3層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒中量、炭化物微量
第4層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒少量、炭化物微量
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量、炭化物微量
第6層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒少量、炭化物微量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量、炭化物微量
第8層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量、炭化物微量
第9層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量
第10層	暗褐色土	10YR4/6	ローム粒微量

第110号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量、炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物少量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量、炭化物微量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量、炭化物微量

第111号土坑・第106号ピット

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量
第2層	褐　色土	10YR4/4	
第3層	暗褐色土	10YR3/3	
第4層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物少量
第5層	暗褐色土	10YR3/4	パミス微量

第117号土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量、焼土粒少量
第2層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	ロームブロック多量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量、炭化物少量
第4層	褐　色土	10YR4/4	炭化物微量

第121号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量
第2層	にぶい黒褐色土	10YR4/3	炭化物微量
第3層	褐　色土	10YR4/4	炭化物微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	
第5層	褐　色土	7.5YR4/4	

第119号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒微量
第2層	褐　色土	10YR4/4	ロームブロック中量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第5層	褐　色土	7.5YR4/3	

第122号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量、炭化物微量
第2層	褐　色土	10YR4/6	ローム粒微量、炭化物微量

第113号土坑

第1層	黒褐色土	10YR3/1	ロームブロック微量、炭化物微量
第2層	黒　色土	10YR2/1	ロームブロック微量、炭化物微量

第112号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量

第87号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量、炭化物微量
第2層	黒　色土	10YR1.7/1	ローム粒微量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量

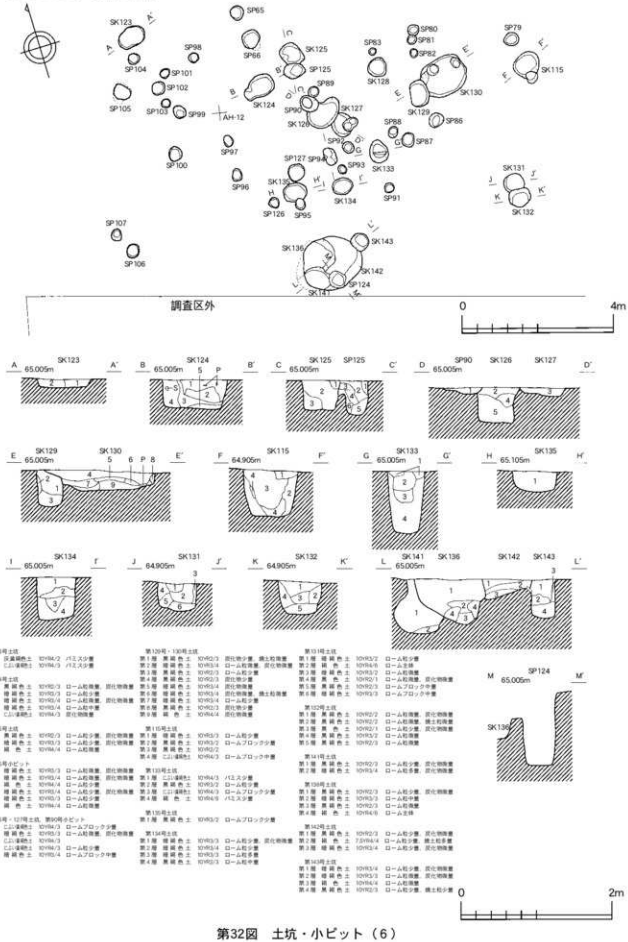
第86号土坑

第1層	黒　色土	10YR2/1	ローム粒微量、炭化物微量
第2層	黒　色土	10YR2/1	ローム粒微量、炭化物微量
第3層	黒　色土	10YR2/1	ローム粒微量、焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物少量
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物少量
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物中量
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物微量
第10層	黒　色土	10YR2/1	ローム粒少量、焼土粒微量
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物微量

第114号土坑

第1層	黒　色土	10YR1.7/1	ローム粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量
第4層	黒　色	10YR2/1	ローム粒少量
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量

第31図　土坑・小ピット（5）



第23号土坑
第1層　灰黄褐色土　10YR4/2　パミス少量
第2層　にぶい褐色土　10YR4/3　パミス少量

第24号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/3　ローム粒少量
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量　炭化物微量
第4層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量
第5層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物微量

第25号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/3　ローム粒少量　炭化物微量
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量

第26号・27号ピット
第1層　褐色土　10YR4/3　ローム粒微量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量　炭化物微量
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量
第4層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量　炭化物微量
第5層　褐色土　10YR4/3　ローム粒少量
第6層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量

第28号・130号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量　焼土粒微量
第2層　褐色土　10YR3/4　ローム粒微量　炭化物微量
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量
第5層　褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第6層　黒褐色土　10YR3/4　炭化物微量　焼土粒微量
第7層　黒褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第8層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物少量
第9層　褐色土　10YR4/4　炭化物微量

第115号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/3　ローム粒少量
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック少量
第3層　黒褐色土　10YR2/2
第4層　にぶい褐色土　10YR4/3　ロームブロック中量

第116号土坑
第1層　褐色土　10YR4/3　パミス少量
第2層　にぶい褐色土　10YR4/3　パミス少量
第3層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第4層　にぶい褐色土　10YR4/3　ロームブロック少量
第5層　褐色土　10YR4/6　パミス少量

第135号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック少量

第134号土坑
第1層　褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/3　ローム粒少量
第3層　褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量
第5層　褐色土　10YR3/3　ローム粒少量
第6層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量

第131号土坑
第1層　褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第2層　褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック中量

第132号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量　焼土粒微量
第3層　黒　色　土　10YR2/1　ローム粒少量　炭化物微量
第4層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第5層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量

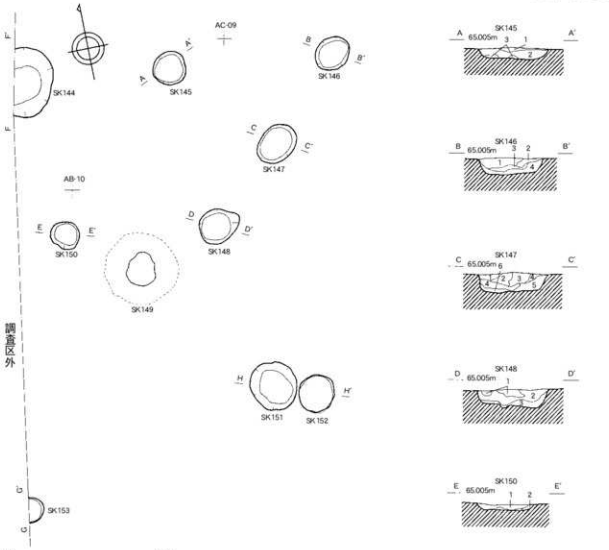
第141号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量

第136号土坑
第1層　褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量
第4層　褐色土　10YR4/6　ローム土体

第142号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　2.5YR4/4　ローム粒少量　焼土粒多量
第3層　褐色土　10YR3/4　ローム粒少量　炭化物微量

第143号土坑
第1層　褐色土　10YR3/3　ローム粒少量　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム粒微量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量　焼土粒少量

第32図　土坑・小ピット（6）



第145号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック中量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量

第146号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　褐　色　土　10YR4/4　黒色土（10YR2/1）混在
第4層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量

第147号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
第2層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量
第3層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第4層　褐　色　土　10YR4/4
第5層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック多量
第6層　黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック少量

第148号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック多量
第2層　黒　色　土　10YR1.7/1　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　褐　色　土　10YR4/6　ロームブロック中量

第150号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ロームブロック少量

第144号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量、炭化物微量
第4層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒微量

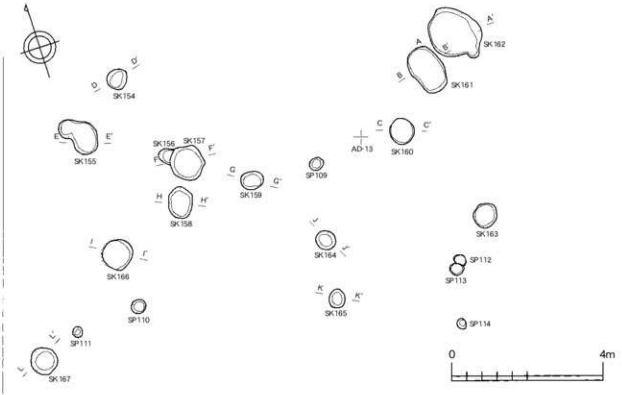
第153号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、炭化物少量
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物少量
第4層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒少量

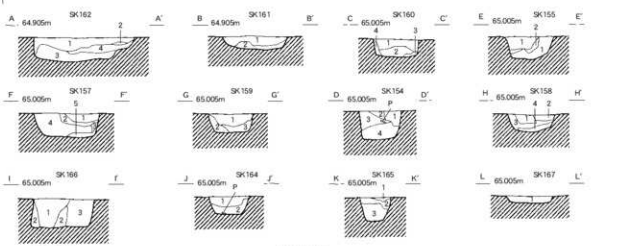
第151号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ロームブロック少量
第2層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック多量
第3層　暗褐色土　10YR3/4
第4層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量

第152号土坑
第1層　暗褐色土　10YR4/4　ローム粒微量
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第3層　褐　色　土　10YR4/4　ロームブロック中量
第4層　暗褐色土　10YR3/4
第5層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第6層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック微量

0　2m

第33図　土坑・小ピット（7）





第162号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物多量
第3層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒少量、炭化物少量
第4層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック中量

第161号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ロームブロック少量
第2層　褐色土　10YR4/4　パミス少量

第160号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量、炭化物少量
第3層　黒褐色土　10YR2/2
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量

第155号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量
第2層　褐色土　10YR4/4　パミス少量

第157号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量、炭化物少量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第3層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
第4層　褐色土　10YR4/4
第5層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量

第159号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
第3層　褐色土　10YR4/4　ローム主体

第154号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　パミス少量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量
第4層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物少量

第158号土坑
第1層　褐色土　10YR4/4
第2層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量
第4層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量

第166号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物中量
第2層　褐色土　10YR4/4　ロームブロック多量
第3層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量

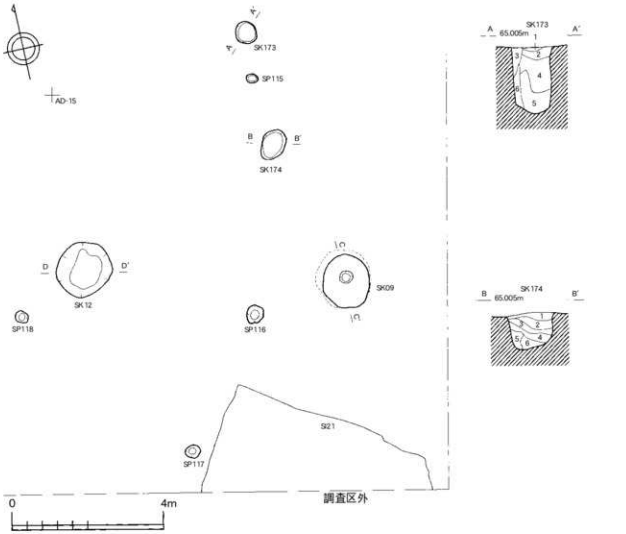
第164号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量、炭化物中量
第2層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量、炭化物中量

第165号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/1
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物中量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物中量

第167号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　炭化物中量

0　2m

第34図　土坑・小ピット（8）



第173号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物中量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物中量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物中量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物中量
第5層	褐色土	10YR4/4	炭化物少量
第6層	褐色土	10YR4/6	ローム主体

第174号土坑

第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量、炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量、炭化物少量
第4層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量、炭化物少量
第5層	暗褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物少量
第6層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量、炭化物少量

第9号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物少量
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒多量、炭化物少量
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒中量
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量
第6層	褐色土	10YR4/4	
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量
第8層	明褐色土	7.5YR5/6	ローム粒少量、炭化物微量
第9層	褐色土	7.5YR4/4	ローム主体
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ロームブロック少量
第11層	褐色土	7.5YR4/6	ローム主体
第12層	褐色土	10YR4/6	ロームブロック多量
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物微量
第14層	明褐色土	7.5YR5/8	ローム主体
第15層	黒褐色土	10YR5/6	ローム主体
第16層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、炭化物少量
第17層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量

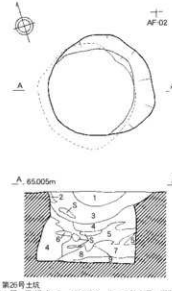
第12号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物中量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、炭化物中量

0　2m

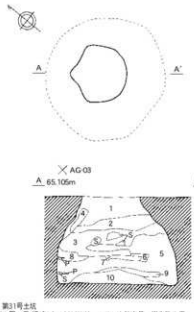
第35図　土坑・小ピット（9）

第26号土坑



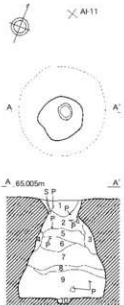
第26号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　ローム粒中量
第3層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量、炭化物中量
第4層　褐色土　10YR4/4　ローム粒少量、炭化物中量
第5層　暗褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、炭化物少量
第6層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量
第7層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒中量、炭化物少量
第8層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム粒少量
第9層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量

第31号土坑



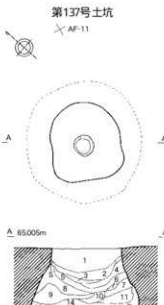
第31号土坑
第1層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、炭化物中量
第2層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物少量
第3層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量、炭化物中量
第4層　褐色土　10YR4/6　ロームブロック
第5層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、炭化物中量
第6層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量
第7層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒少量
第8層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物少量
第9層　黒色土　10YR2/1　ローム粒中量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量

第116号土坑



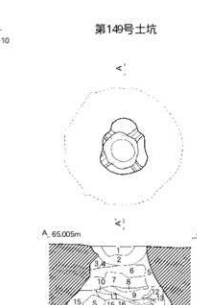
第116号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック中量
第4層　褐色土　10YR4/4　ローム主体
第5層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量
第6層　褐色土　10YR4/6　ローム主体
第7層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第8層　黒褐色土　10YR2/2　焼土ブロック多量
第9層　黒褐色土　10YR2/2　ロームブロック少量、炭化物微量
第10層　黒褐色土　10YR2/2

第137号土坑



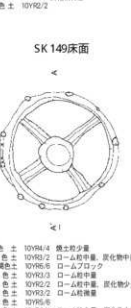
第137号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第4層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第5層　褐色土　10YR4/6　ローム主体
第6層　にぶい褐色土　10YR4/3　ローム粒微量、炭化物微量
第7層　にぶい褐色土　10YR4/3　ローム粒少量
第8層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量、炭化物微量
第9層　暗褐色土　10YR3/3　ロームブロック少量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物微量
第11層　にぶい褐色土　10YR4/3　ロームブロック少量
第12層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第13層　黒褐色土　10YR2/6　焼土ブロック多量
第14層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、焼土ブロック中量
第15層　にぶい褐色土　10YR4/3　ロームブロック少量
第16層　黒褐色土　10YR2/3　ロームブロック少量
第17層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量
第18層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第19層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、炭化物微量
第20層　褐色土　10YR5/6　ロームブロック多量
第21層　黒色土　10YR2/1　ロームブロック多量
第22層　黒色土　10YR2/1　ロームブロック中量
第23層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量

第149号土坑



第149号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、炭化物微量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物少量
第3層　にぶ褐色土　10YR4/3　ローム粒少量、炭化物少量
第4層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量、炭化物微量
第5層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量
第6層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物少量
第7層　黒褐色土　10YR3/2　炭化物少量

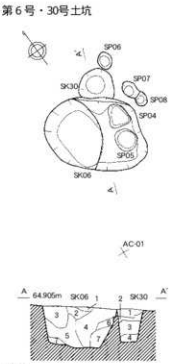
SK 149床面



第8層　褐色土　10YR4/4　焼土粒少量
第9層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物中量
第10層　暗褐色土　10YR5/6　ロームブロック
第11層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量
第12層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第13層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第14層　黒褐色土　10YR5/6
第15層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物少量
第16層　にぶ褐色土　10YR5/4
第17層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第18層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第19層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物中量
第20層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第21層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第22層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物少量
第23層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量
第24層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量
第25層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第26層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量
第27層　黒褐色土　10YR5/6
第28層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、炭化物微量
第29層　黒色土　10YR2/1　ロームブロック少量

第36図　土坑・小ピット（10）

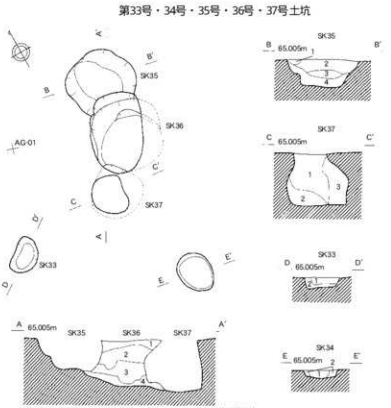
第６号・30号土坑



第６号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物少量
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、炭化物微量
第６層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量
第７層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量、炭化物微量

第30号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化物少量
第２層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量、炭化物微量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒少量、炭化物微量

第33号・34号・35号・36号・37号土坑



第36号土坑
第１層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第３層　暗褐色土　10YR3/4　ロームブロック少量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量

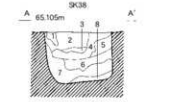
第35号土坑
第１層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、炭化物微量
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量
第４層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒微量、炭化物微量

第37号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　褐　色　土　10YR4/6　ローム主体
第３層　黄褐色土　10YR5/6　ローム主体

第33号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　褐　色　土　10YR4/4　炭化物微量

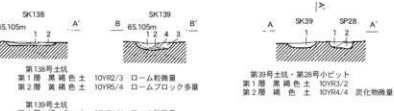
第34号土坑
第１層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒微量、炭化物微量
第２層　褐　色　土　10YR4/4　ローム主体

第38号土坑



第38号土坑
第１層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒中量、炭化物少量
第２層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒多量、炭化物少量
第３層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　ローム粒中量、炭化物中量
第４層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　ローム粒多量、炭化物中量
第５層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム粒少量、炭化物少量
第６層　褐　色　土　10YR4/6　炭化物少量
第７層　褐　色　土　10YR4/4
第８層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量、炭化物少量

第138号・139号土坑



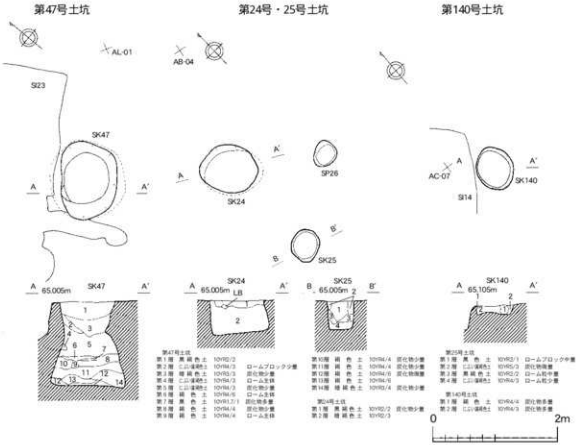
第138号土坑
第１層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量
第２層　黄褐色土　10YR5/4　ロームブロック多量

第139号土坑
第１層　褐　色　土　10YR4/4　ローム粒微量
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量
第４層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒微量、炭化物微量

第39号土坑

第39号土坑・第28号小ピット
第１層　黒褐色土　10YR3/2
第２層　褐　色　土　10YR4/4　炭化物微量

第37図　土坑・小ピット（11）

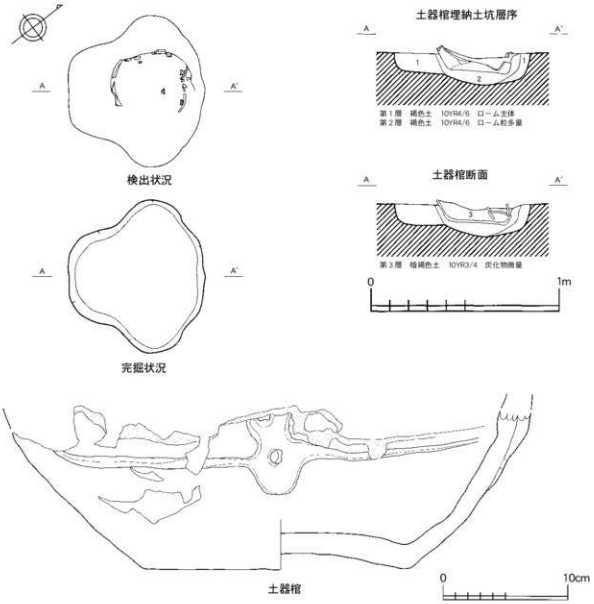


第38図　土坑・小ピット（12）

第４節　土器棺墓（ＳＣ）

土器棺墓が１基検出されている（第39図）。本遺跡からは昭和53年（1978）度の調査においても人骨の納められた土器棺が出土しており（第Ⅱ章第１節参照）、その発見が期待されていた。残念ながら土器棺上半の大部分はグラウンド造成により欠失しており、人骨は確認できなかった。土器棺を埋納した土坑は、長軸80cm、短軸73cm、深さ15cmを測り、平面形は不整楕円形を呈する。土器棺は、底径21.3cm、残存高13.1cmを測り、大型の壺形土器である。所産期は縄文時代後期前葉に比定され、本調査における第Ⅲ群土器４類に相当する。

（野坂　知広）



第39図　第１号土器棺墓

第Ⅳ章　出土遺物

第１節　縄文時代の遺物

１．土器

本遺跡出土の縄文土器は、以下のように分類した。

第Ⅰ群土器：縄文時代前期の土器
第Ⅱ群土器：縄文時代中期の土器
第Ⅲ群土器：縄文時代後期の土器

ほとんどが第Ⅲ群土器であるが、ダンボール箱換算で約30箱分と多量であったために、代表的なものを掲載した。掲載した土器の詳細は、観察表（第５表）を参照されたい。

第Ⅰ群土器

僅少ではあるが、縄文前期の土器が１点、遺構外（ＡＬ－13）より出土している（第45図45）。円筒形を呈す深鉢形土器の口縁部資料であり、横位および斜位に縄を押捺して施文されたものと思われる。円筒下層ｄ₁式土器に比定される。

第Ⅱ群土器

縄文中期の土器を一括した（第43図25・27、第45図48・51、第46図60・63）。第43図27は、口縁の外反する深鉢形土器であり、口縁直下に幅広の沈線を三本巡らせ、胴部文様帯には、二本沈線によって蛇行状文を作出している。沈線間には縄文が残され、周囲の磨消部との差異を際立たせている。東北南部における大木10式並行期の土器と思われる。第43図25、第46図60・63は大ぶりの単節・複節縄文が施文された深鉢形土器の破片資料であり、土器型式の詳細は不明だが、概ね縄文中期後半に比定されるものであろう。

第Ⅲ群土器

本遺跡出土の主体を占めるのが縄文後期の土器である。本群の土器文様に関する用語や時期区分は、該期の良好な一括資料に恵まれた『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』（青森市教育委員会2004）に概ね準拠した。

出土した土器は、文様の特徴などから１～８類に分類され、特に１～５類は、以下に示す１～５期の時期区分に対応している。

（１）時期区分

１期　稲山１期に相当する土器であり、従来、弥栄平（２）式（成田1989）とされてきたものである。また、次の２期の土器とともに蛍沢式（本間1988）、馬立式（鈴木1998）として型式設定されている。

２期　稲山２期に相当し、蛍沢第３群（葛西1979）、沖附（２）式（成田1989）とされてきたものである。その内容は、小牧野２期（児玉1999）と同じであろうと思われる。

3期　稲山３期に相当し、２期と４期の間を繋ぐ土器と想定されているものである。小牧野３期（児玉1999）として知られる土器群でもある。

4期　稲山４期に相当し、これまで十腰内ⅠＡ式（成田1989）、十腰内Ⅰ式（古）（葛西2002）とされてきた土器である。本遺跡における出土土器の主体を占める。

5期　稲山５期に相当する。概ね十腰内ⅠＡ式土器の範疇で理解される土器群であるが、三本組沈線手法によるものを分離し、十腰内ⅠＡ式と十腰内ⅠＢ式を繋ぐ土器と認識されているものである（児玉1999）。小牧野４～５期とほぼ同じ内容を持つ。

（２）土器分類

１類

１本～３本組みの沈線文を主体とする土器で構成され、沈線幅が２類に比して幅広で、地文に縄文を多く残すもの（第40図４、第43図26、第45図47・49・50・52～55）である。

深鉢形土器は、波状口縁を持つものが多いが、平縁の資料（第45図47）もある。口縁部に二本沈線を巡らせ口縁部文様帯を作り出し、胴部文様帯には他の沈線と結合する連携三角形文や連携渦巻文、単線による渦巻文が施されるもの（第45図54）、連携弧状文や連携曲線文が施されるもの（第45図49・52）が見られる。また、胴部文様帯を二本沈線によって上下に区切り、上半部に連携渦巻文や単線による渦巻文を施すものもある（第45図50・55）。

鉢形土器は、波状口縁を持ち胴部から口縁部にかけて内湾する資料が多い。波状口縁直下に渦巻状文を配置する幅広の沈線を口縁部文様帯に巡らし、口唇近くには竹管状文を施文するもの（第43図26）や口縁部に隆帯を巡らし、端部となる波状口縁に隆沈線と刺突で二重円形文を作出するもの（第40図４）などが見られる。

壺形土器は、長頸壺とも呼称できる器形を呈し、該期の資料としては珍しいものであろう（第45図53）。波状口縁の口唇部に複数の刻みを持つ。口縁直下に幅広の沈線を一条巡らせ、口頸部には地文の縄文が見られない。波状口縁下には沈線による縦長のＳ字状文が置かれ、渦巻文とセットになっている。胴部上半には円形文を付加して基点とする楕円形文が巡り、楕円形文内部には二本組みの沈線文が空間を埋めるように配置されている。胴部下半には複節斜縄文（ＬＲＬ）が施される。

２類

１類に比して沈線幅が狭く、隆帯状を呈す沈線間に縄文を残し、周囲の磨消部との差異を際立たせる資料が多い（第40図１～３・７、第42図19・24）。

深鉢形土器は、波状口縁を持つものが多く、縄文を充填した隆沈線で区画文を構成するもの（第40図１・２、第42図19・24）が主体を占める。波状口縁直下や区画文の基点に方形あるいは円形文を配置する例が多いようである。また、口唇部にまで施文されることもある。

鉢形土器は、隆帯状となった貼付口縁に縄文を充填し、直下の磨消部と峻別させるものがある（第40図７）。

壺形土器は、口縁部文様帯に縄文を充填した隆沈線で区画文を形成し、口頸部文様帯を無文帯として、胴部文様帯上半にも区画文を配置している（第40図２）。

3類

本類の土器群は、２類と４類を繋ぐ編年的位置を与えられているように、２類の文様構成を継承しつつも、大きく見れば４類の範疇に収まるような単位文様の幅狭化が著しい過渡期の土器と理解されるものであろう。２本組みの沈線文を主体とし、沈線間が隆帯状となり縄文を充填させるものが多い（第42図21・23、第44図42・43）。

深鉢形土器は、波状口縁を呈し、特に口縁部が肥厚する傾向にある。胴部文様帯に縄文を充填させた隆沈線によって口縁部より垂下するメガネ状文が配置されるもの（第44図43）やウロコ状文を展開させるもの（第44図42）がある。

壺形土器は、口縁部資料のみであるが（第42図23）、浮彫状の隆沈線がより曲線的になっている。

4類

両端が連結する１本組沈線文を主体とする土器群であり、深鉢形・壺形土器には独立する単位文様が多く、鉢形・浅鉢形土器には連携する単位文様が多い傾向にある（第40図５・８・９、第41図10・12・14・16～18、第42図22、第43図28～32・34～36、第44図41、第46図58）。また、浮彫的な隆沈線が確立する時期でもある。

深鉢形土器は、波状口縁を持つものがほとんどで、口縁部文様帯（口縁直下）と胴部文様帯の区別が明瞭となる。口縁部文様帯に長楕円形文を展開させるもの（第44図41）、８字状（リボン状）隆帯と長楕円形文を配置するもの（第42図22）、８字状（リボン状）隆帯を付した橋状把手を持ち長楕円形文を配するもの（第43図34）がある。胴部文様帯には、円形文・楕円形文・長楕円形文・三角形文などが展開し（第40図５）、円形文を基点にＸ字状に単位文様が配置されるもの（第42図22）や連結弧線文を配するもの（第44図41）がある。

鉢形土器は、隆沈線によって区画文風の不整楕円形文が展開するもの（第43図32）があり、やはり円形文が基点として配置されている。

浅鉢形土器は、波状口縁と平縁の二種類があり、器高も高いものと低いものがある（第41図10・14・16、第43図30・31・35）。口縁部は若干肥厚する傾向にあり、内湾するものがほとんどであるが、外反するもの（第43図30）もある。波状口縁に組紐状の隆帯が付されるもの（第43図35）があり、胴部には細い二本沈線を基調とした連携渦巻状文が見られる。また、口縁直下には沈線が一条巡り、胴部文様帯には二本沈線を基調とした弧線・曲線の組み合わせによって連携渦巻文や楕円形文が配置される（第41図14、第43図31）。第41図16の浅鉢形土器は、内面が丁寧に研磨され黒色を呈し、口縁直下と底部に沈線を一条巡らすのみであるが、第41図14の土器と同遺構（ＳＫ51）内出土の一括資料であり、ほぼ同じ所産時期が想定されよう。

壺形土器は、口縁が屈曲または橋状把手を配す例があり、口縁部文様帯・口頸部文様帯・胴部文様帯の三段構成になるものがほとんどである（第40図８・９、第41図12・17・18、第43図29・36）。口縁部資料は一点のみであるが、波状口縁に捻った粘土紐を貼付して長楕円形文を展開させている（第43図36）。胴部下半に沈線を巡らせ、胴部上半の文様帯と峻別させるもの（第41図12、第43図29）が多いが、胴部下半にまで文様を展開するもの（第41図17・18）もある。ちなみに、土器棺（第39図）も本類の土器と理解される。胴部文様帯に配置される単位文様は、円形文・楕円形文・長楕円形文・三角形文を主体とし、楕円形文が横位・斜位・縦位に展開するなど複雑な文様構成を持つ。円形文が基点として配置され

る傾向は、深鉢形土器の胴部文様帯とも共通する。また、底部に胴部文様帯と同様の円形文や長楕円形文が配されるのも該期の特徴とされる。

5類

文様構成は概ね4類の範疇に含まれるものであるが、本類の次段階に位置すると推定される稲山6期（十腰内ⅠB式期）にも散見される3本組沈線手法による土器を一括した（第41図11・15、第43図33、第44図38～40、第46図56～58）。器種は、鉢形・浅鉢形・壺形土器に限定され、本遺跡において該期の深鉢形土器は確認されていない。

鉢形土器は、口縁の外反する波状口縁が多いが、平縁のもの（第46図58）もある。波状口縁を持つもの（第44図39）は、口縁部（口頸部）文様帯に2本組みを基本とする沈線が展開し、両端の連結するものと連結しない双方がある。胴部文様帯には3本組沈線を主体とする連携渦巻文などが配される。ちなみに、第44図39は土器内部にウルシと思われる付着物があり、液体容器の用途が想定される。

浅鉢形土器は、ほぼ例外なく波状口縁を持ち、口縁部が僅かに屈曲する例が多い（第41図11・15、第43図33、第44図38・40）。口縁部には狭い無文帯を巡らすことが一般的で、波状口縁直下に沈線や貼り付けで円形文を配し、長楕円形文を展開させるもの（第44図38・40）もある。胴部文様帯には三本組沈線手法による弧線や曲線の組み合わせで渦巻文（第41図15）、S字状文・弧状文（第41図11、第43図33、第44図38・40）が展開する。

壺形土器は、小型の資料（第46図56～58）のみが確認されており、第46図57・58は同一個体の切断壺形土器である。土器の接合部には刻目が明瞭に残され、切断面の色調からは焼成前に切断された可能性が考えられよう。口頸部文様帯には沈線と長楕円形文を巡らし、胴上部文様帯には三本組沈線手法による渦巻文・弧状文が、胴下部文様帯には弧状文が展開する。

6類

沈線による格子目文を主体とする土器を一括した（第40図6、第42図20）。器種は深鉢形土器のみが確認されており、口縁部文様帯には二本組沈線による円形文や長楕円形文が展開するものが多い。格子目文は胴部文様帯に施文される文様である。概ね本群4期に属す土器であろう。

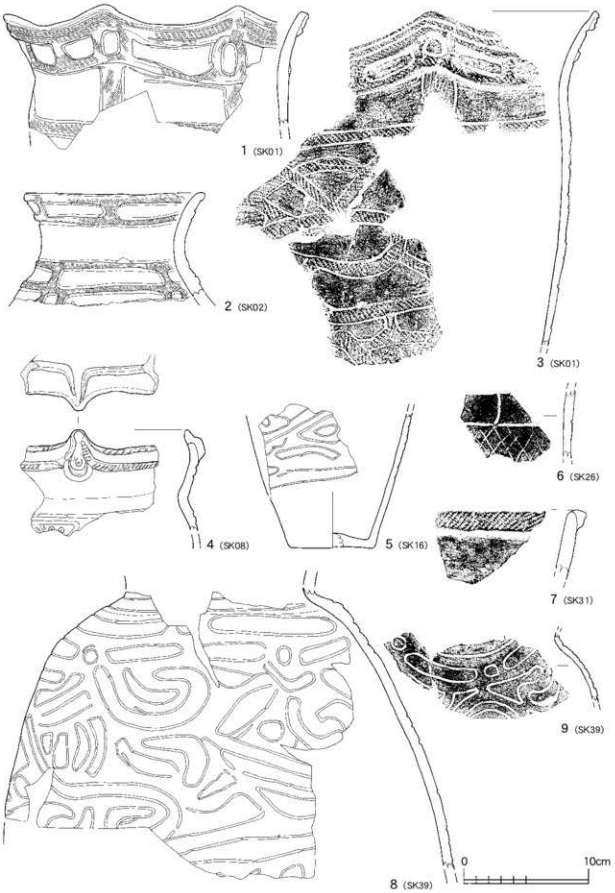
7類

撚糸による格子目文（網目状撚糸文）を主体とする土器を一括した（第41図13、第44図44、第45図46）。折返し口縁を持つ深鉢形土器が主体であり、単軸絡条体第5類（R）が縦位に施文される。概ね本群4期に属す土器であろう。

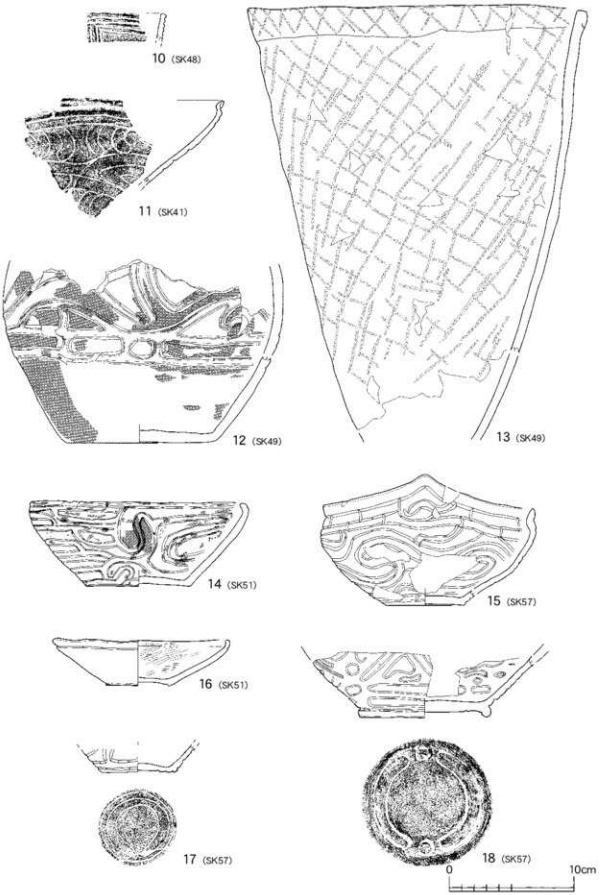
8類

縄文を主体とする土器を一括した（第44図37、第46図59・61・62）。器種は深鉢形土器がほとんどであり、RL縄文が多い傾向にある。縄文後期前半の所産時期が与えられよう。

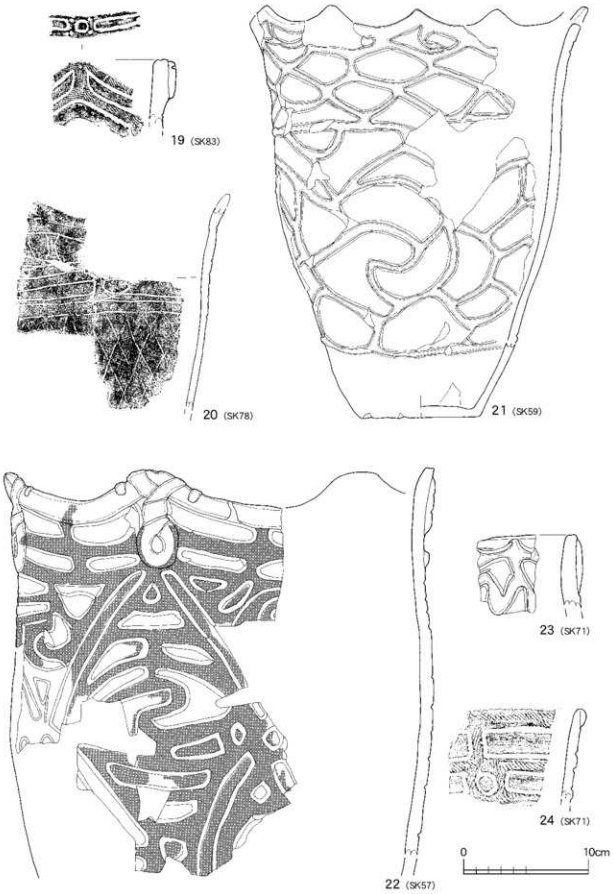
（野坂　知広）


1 (SK01)
2 (SK02)
3 (SK01)
4 (SK08)
5 (SK16)
6 (SK26)
7 (SK31)
8 (SK39)
9 (SK39)
0
10cm

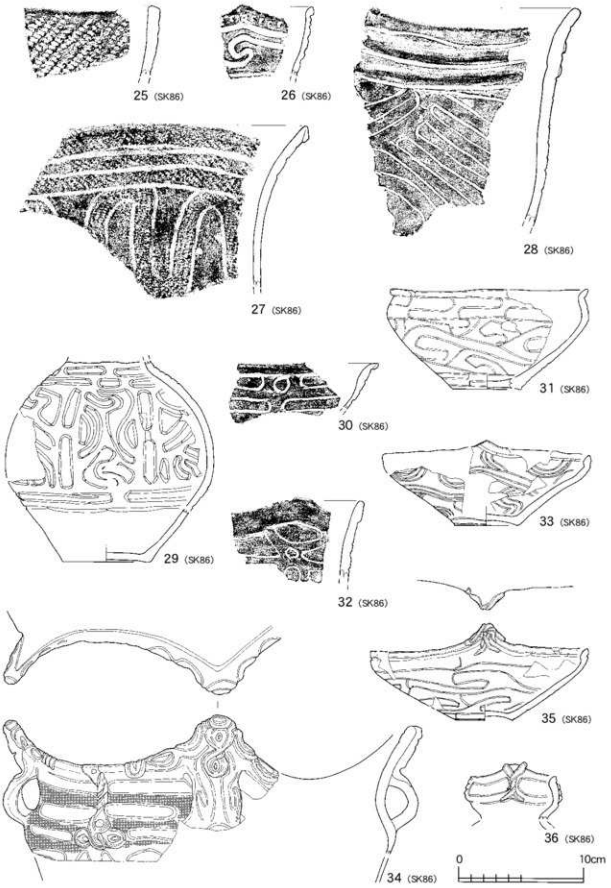
第40図　縄文土器（1）


10 (SK48)
11 (SK41)
12 (SK49)
13 (SK49)
14 (SK51)
15 (SK57)
16 (SK51)
17 (SK57)
18 (SK57)
0
10cm

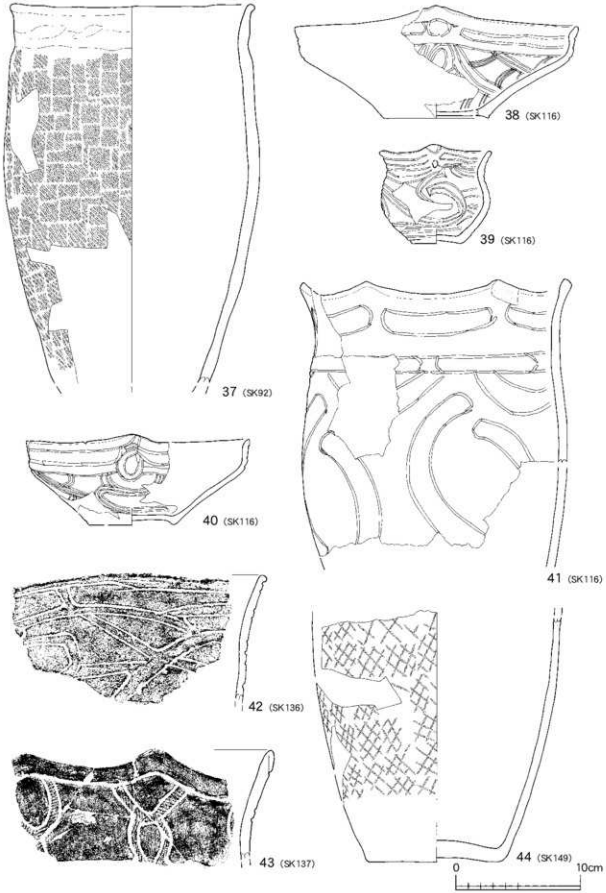
第41図　縄文土器（2）



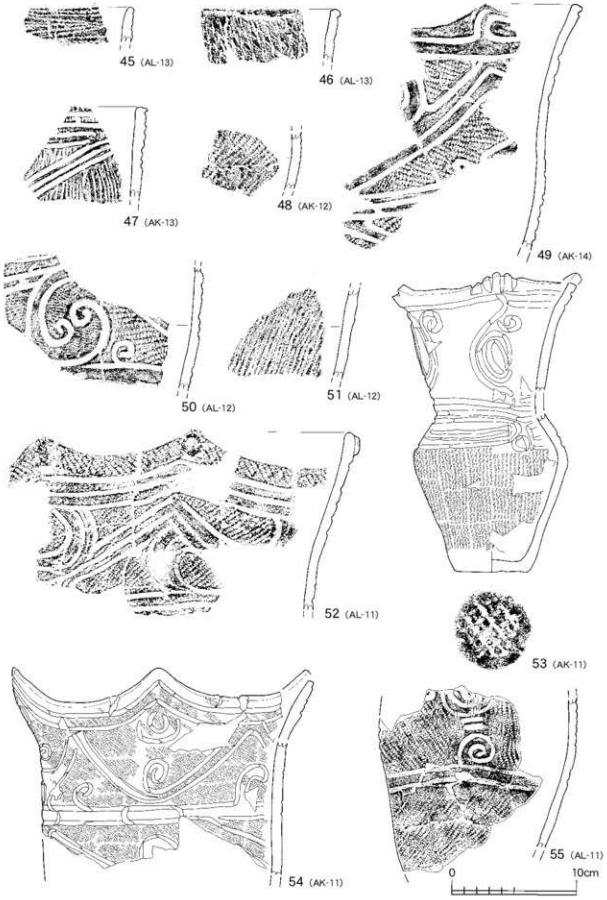
第42図　縄文土器（3）


25 (SK86)
26 (SK86)
27 (SK86)
28 (SK86)
29 (SK86)
30 (SK86)
31 (SK86)
32 (SK86)
33 (SK86)
34 (SK86)
35 (SK86)
36 (SK86)
0
10cm

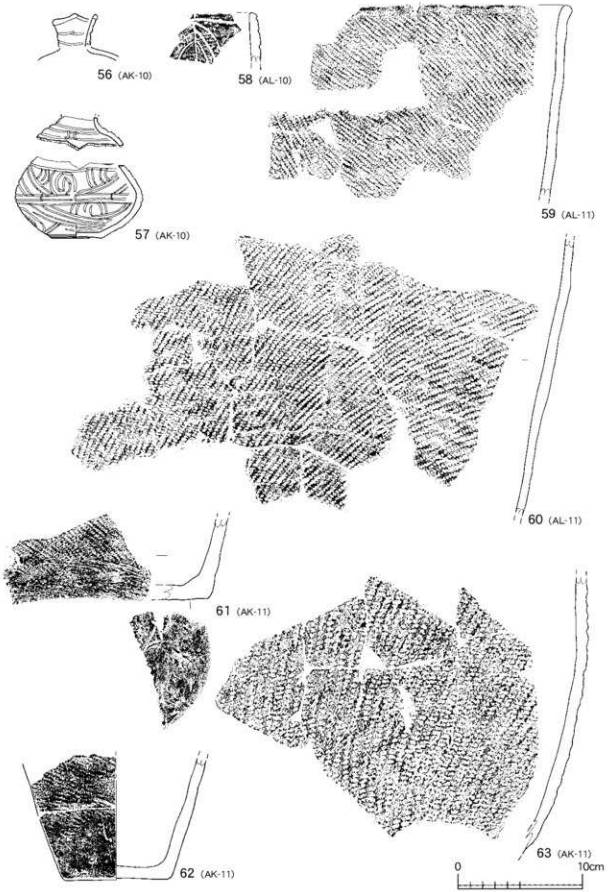
第43図　縄文土器（4）


37 (SK92)
38 (SK116)
39 (SK116)
40 (SK116)
41 (SK116)
42 (SK136)
43 (SK137)
44 (SK149)
0
10cm

第44図　縄文土器（5）


45 (AL-13)
46 (AL-13)
47 (AK-13)
48 (AK-12)
49 (AK-14)
50 (AL-12)
51 (AL-12)
52 (AL-11)
53 (AK-11)
54 (AK-11)
55 (AL-11)
0
10cm

第45図　縄文土器（6）


56 (AK-10)
58 (AL-10)
59 (AL-11)
57 (AK-10)
60 (AL-11)
61 (AK-11)
62 (AK-11)
63 (AK-11)
0
10cm

第46図　縄文土器（7）

2．石器

（1）剥片石器

石鏃

石鏃は、ＳＫ105内から１点（第47図４）、遺構外（平安住居覆土を含む）から３点（第47図１～３）の計４点が出土した。第47図１は凸基有茎鏃で、茎部に膠着剤（アスファルト）と思われる黒色物質が付着している。第47図２は凹基有茎鏃で、形状は二等辺三角形に近く細身である。第47図３は平基無茎鏃、第47図４は円基鏃で、厚みがある。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

石錐

石錐がＳＫ107内から１点出土している（第47図５）。基部は原礫面を利用して丸く作られ、錐部は欠損しているが細長く加工されていたものと思われる。錐部の断面は菱形である。所産時期は、縄文後期前半に比定されよう。

大石平型石箆

大石平型石箆（青森県教育委員会1985）と呼称される縄文時代後期前葉に特徴的な石器が、ＳＫ88内から１点（第47図７）、遺構外から１点（第47図６）出土している。第47図６は背腹両面から、第47図７は背面に調整を加えて柄状の基部（つまみ部）を作り出している。両者とも背面に原礫面を多く残し厚みがある。本石器の具体的な用途・機能は詳らかでないが、木製の柄などに装着して使用した可能性が想定される。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

石匙

石匙が、遺構内から２点（第47図11・13）、遺構外（Ｓ Ⅰ 10覆土）から１点（第47図12）出土した。第47図11は縦型石匙で、大きな基部（つまみ部）とやや幅広で若干丸みを帯びた台形の刃部を有する。第47図12は縦型石匙の刃部で、基部（つまみ部）を欠損している。第47図13は横型石匙と思われ、背腹両面からの調整で幅広の基部（つまみ部）を作り、さらに急斜度で曲線状の刃部を作り出している。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

石箆

石箆は、遺構内から７点（第47図14・16・17・20・22～24）、遺構外（平安住居覆土を含む）から６点（第47図15・18・19・21・25・26）の計13点が出土した。全体の形状から、基部が狭く刃部が広い撥形のものをⅠ類、基部・刃部の幅がほぼ等しい短冊形のものをⅡ類と大別した。さらに刃部の形態から直刃をａ種、丸刃をｂ種、内湾刃をｃ種と細分した。石箆は、東北北部から北海道南部にかけて豊富な出土量を誇りながらも、その用途・機能面には不明な点が多く、スクレイパー（削器・掻器）と同様の用途も想定されているが、定形的な基部の存在からは、木柄などに装着して使用した可能性も考慮されるところである。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

Ⅰ類ａ種…撥形で直線的な刃部を有するもの（第47図24～26）。

Ⅰ類ｂ種…撥形で弧線的な刃部を有するもの（第47図15・17・19・20）。

Ⅰ類ｃ種…撥形で内湾する刃部を有するもの（第47図22）。

第47図　縄文時代の剥片石器（1）

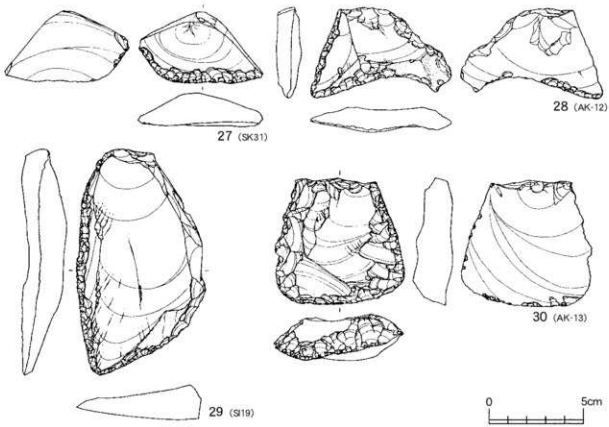
Ⅱ類ａ種…短冊形で直線的な刃部を有するもの（第47図14・16）。
Ⅱ類ｂ種…短冊形で弧線的な刃部を有するもの（第47図18・21・23）。

不定形石器

ＳＫ31内から１点（第48図27）、遺構外（平安住居覆土を含む）から４点（第47図10、第48図28・29・30）の不定形石器が出土した。第47図10は、平面形が三角形を呈し、側縁三辺すべてに刃部が作出されている。第48図27は原礫面を残す剥片であるが、腹面からの片面加工によって一側縁に刃部を作り出している。第48図28は左辺と底辺左半を重点的に調整して尖った刃部を作り出し、右側部分を基部（つまみ部）状に残している。第48図29は左側縁の背面に調整を加え、弧状の刃部を作出している。握部になると思われる右側縁の剥離は粗く肉厚である。第48図30は、撥形を呈し、全体的に肉厚である。調整は主に右側縁に施され、鋭角な刃部を作り出している。これらの石器はスクレイパー（削器・掻器）として用いられた可能性が考えられよう。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定される。

その他の剥片石器

遺構外（平安住居覆土を含む）から２点（第47図８・９）が出土した。第47図８は薄手で、先端部を若干調整したに止まる。第47図９は背面から調整が加えられ、肉厚で一部に原礫面が残る。不定形石器に類するものと思われるが、ともに石鏃を志向した途上の可能性もある。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。　（稲垣　森太）



第48図　縄文時代の剥片石器（２）

（2）礫石器

敲石

遺存状態の良好な10点を図示した。ほとんどが手のひらでちょうど握ることのできる大きさ（全長12cm内外）と扁平な形状を呈し、敲石として適当な自然礫を選択していたことが窺える。両面に敲打痕（凹部）を単数持つもの（第49図１、第50図10）、両面に敲打痕（凹部）を複数持つもの（第49図２、第50図11・14・15）、三面に敲打痕（凹部）を持つもの（第50図12・13）、四面に敲打痕（凹部）を持つもの（第49図５）、小ぶりで球状を呈するもの（第49図３）に分類することもできるが、その用途に大きな差異はないものと思われる。概ね堅果類の調理等に使用された植物食関連の遺物と律することができよう。なお、第49図５は磨石として利用された後に敲石として転用されている。遺構外（平安住居覆土を含む）出土の資料も多いが、所産時期は、縄文後期前半に比定されよう。

磨石

縄文時代の所産と思しき３点を図示した。やはり手のひらでちょうど握れる程度の大きさの自然礫を使用している。全面を丁寧に利用し柱状を呈するもの（第49図７）と不整形を呈するもの（第49図６・８）に分類できるが、ともに堅果類の調理等、植物食に関連する用途が想定されている。また、第49図８の一面には朱痕らしきものもあり、ベンガラ生産に関わる用途の可能性も否定できない。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

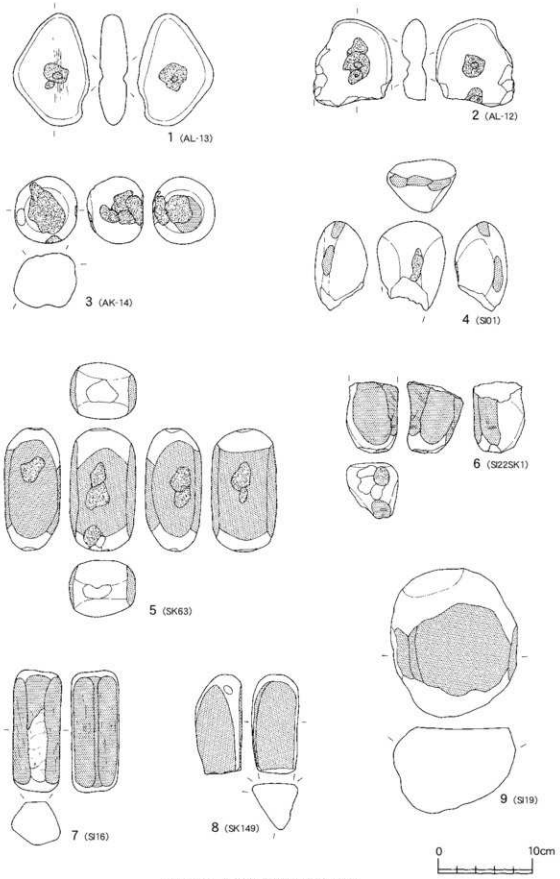
台石・石皿

磨石とセットで使用されたと考えられる台石・石皿を一括した。定形的な石皿（第50図17）と磨耗部を持つ不整形の台石（第49図９、第50図16）に分類され、その機能にも若干の差異を指摘することができるだろう。石皿には、植物食関連の用途が想定されているが、不整形の台石については不明な点が多く明らかでない。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

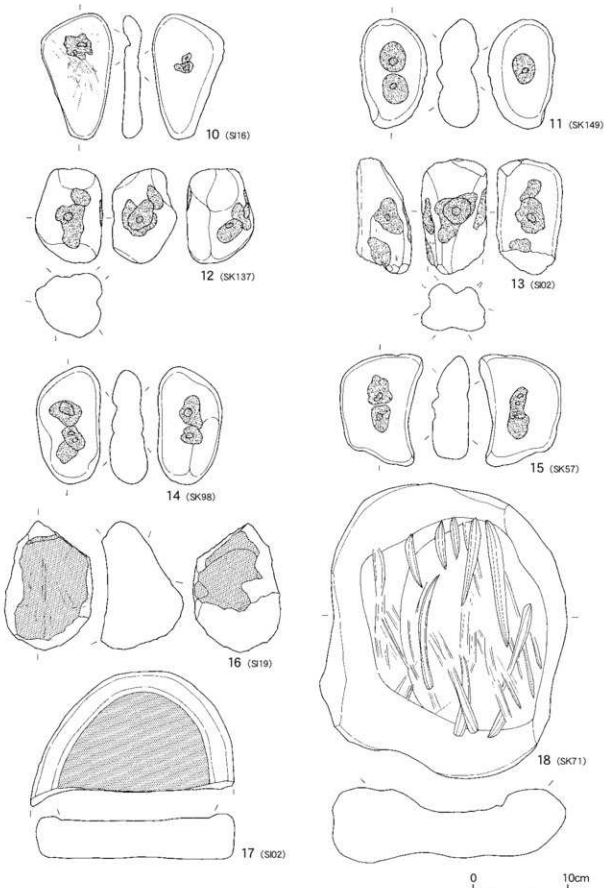
有溝砥石

石皿状の有溝砥石が１点出土している（第50図18）。ＳＫ71（袋状土坑）より検出され、石材は凝灰岩である。数条の研磨溝が観察され、中央部が石皿状に窪んでいる。玉や石製品等の研磨に使用された可能性があるが、詳細は不明である。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

（野坂　知広）



第49図　縄文時代の礫石器（1）



第50図　縄文時代の礫石器（2）

3．土製品

袖珍土器

袖珍土器が8点出土している。鉢形（第51図3・4・7・8）、浅鉢形（第51図2・6）、台付鉢形（第51図1・5）に分類される。その用途は判然としないが、実用に供されたものとは思われず、何らかの祭祀儀礼に関わる用途が想定されている。第51図1・4はSK01、第51図2はSK137からの検出であり、土坑の性格を推定する際にも参考となる。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

焼成粘土塊

赤褐色を呈する焼粘土塊が3点出土している（第51図9～11）。第51図9は不整形の粘土塊であるが、第51図10・11は、小さな粘土塊を指のひらで押しつぶしたような形状を呈しており、円形土版とすることもできる資料であろう。不明な点も多いが、概ね縄文後期前半の所産時期が与えられる。

土製耳飾

耳飾と思われる土製品が1点検出土している（第51図12）。欠損しているうえに穿孔を持たないため耳飾かどうか迷ったが、その形状と文様から土製耳飾と判断した。円形の表面には、窪んだ中央部に渦巻状沈線が施され、外周には14個の円形刺突が巡っている。青森市小牧野遺跡（青森市教育委員会1996）に類似資料が知られる。遺構外の出土ではあるが、所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

鐸形土製品

鐸形土製品が5点出土している（第51図13～17）。すべて縄文土坑からの出土であり、所産時期は、縄文後期前半に比定される。体部文様は該期の土器文様に類似し、曲線を基調とした沈線文に彩られている。第51図17のみ沈線と刺突が併用されており、突起（つまみ部）には穿孔が観察される。外面は黄褐色ないし黒褐色を呈し、突起（つまみ部）には半円形（第51図16）・台形（第51図13・15・17）・二叉（第51図14）の三種類が認められる。最大高は5cm内外である。その用途は判然としないが、貫通孔に紐を通して垂下させる装身具・護符のような機能が想定されている。

土偶

土偶が1点、遺構外より出土している（第51図18）。全体の形状が逆三角形を呈する板状土偶の体部（左半身）資料であり、乳房を表現したと思われる突起が確認される。表面には、沈線と刺突によって格子状文様が施されており、裏面にも沈線が施文されている。腕部が造られていた痕跡は観察されないが、肩部には脇下部から肩上部に貫通する穿孔が見られ、別個に作られた腕部が装着されていた可能性もある。所産時期は、縄文後期前葉に比定されよう。

馬蹄状箱型土製品（異形土器）

これまで異形土器と呼称されてきた特殊な土製品が1点出土している（第51図20）。ここでは、土器ではなく容器形土製品と認識したため「馬蹄状箱型土製品」と仮称することにした。平面形が馬蹄状を呈し、上面（天井部）から正面にかけて開口する土製品であるが、出土資料は、上面開口部の一部である。SK144より検出され、残存長11.2cm、残存幅9.1cm、厚さ1.5cm内外を測る。上面と側面に、曲線的な隆

沈線によって不整楕円形文や不整三角形文、不整長方形文などが作出されている。上面には推定径1.5cmほどの穿孔が確認され、開口部以外にも小孔があったことが判明した。所産時期は、縄文後期前葉に比定されよう。類例は、本遺跡（昭和44年度調査）、小牧野遺跡（青森市教育委員会2003ｃ）、三内丸山（６）遺跡（青森市教育委員会2002）、伊勢堂岱遺跡（秋田県教育委員会1999）の４例が知られ、今回で５例目の発見となる。その用途は不明であるが、何らかの祭祀行為に使用されたとする見解が示されている（青森市教育委員会2003）。ただし、外面に施文される文様は決して内面を侵すことはなく、内面が土器内部と同様の平滑な状態に造られている点は注意を要する。本資料をもって容器形土製品と認識したのもそのためであり、液体・固体を問わず、内部にモノを入れる機能を想定することもできよう。また、火を焚いたような被熱の痕跡は現段階において確認されていないが、完形資料がないことを踏まえると、その可能性をも考慮する必要がある。

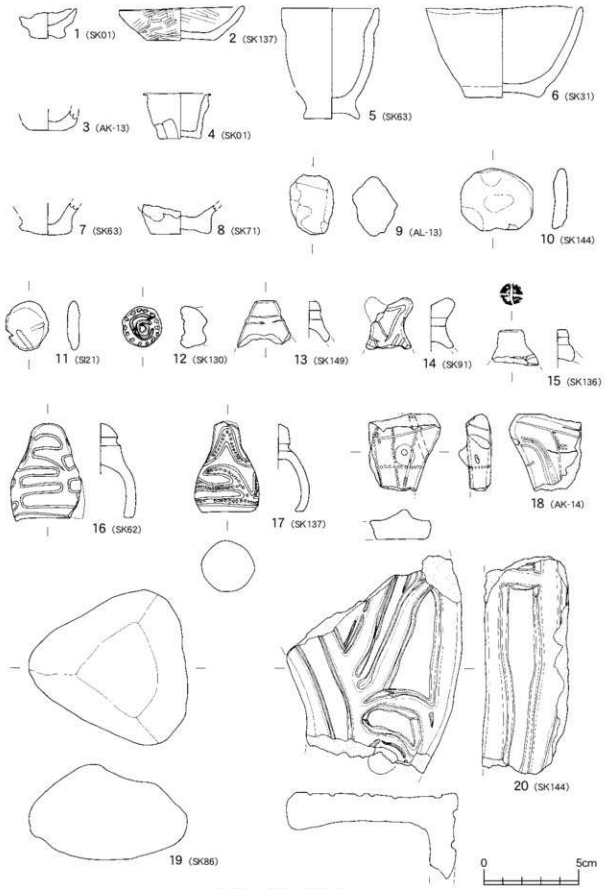
土器片利用土製品

土器の破片を打ち欠いたり研磨して円盤状に作られた土製品が27点出土している（第52図）。ほぼ例外なく、縄文土器の胴部を利用しており、口縁部や底部の資料はない。打ち欠きに際して生じた角（かど）の有無によっても分類できるが、円形・三角形を志向した土製品であることは異論のないところであろう。素材となる土器器種は、深鉢形土器が主体を占めると思われるが、すべてがそうであるとは言い切れない。貫通孔を有するものはなかった。直径は概ね３～５cm内外にあり、周囲を打ち欠いたものがほとんどで、明瞭に研磨した痕跡を持つものは１点（第52図４）のみであった。三角形を呈する資料（第52図24）も、土器片利用という素材面の共通性から一括して扱った。円形と三角形という形状からは、円形岩版・三角形岩版との関連を想起させるが、土器片利用土製品の用途・機能については種々の議論もあり、詳細はよく分かっていない。所産時期は、縄文前期～後期と幅広い時期差を持つ。

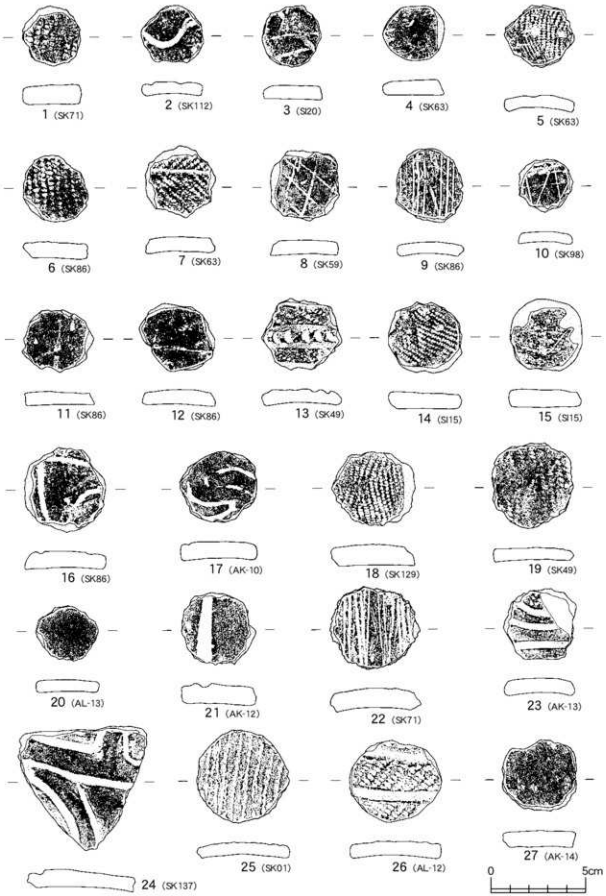
不明土製品

厚さをもった三角状の土製品が１点出土している（第51図19）。色調は赤褐色を呈し、焼成粘土塊のようでもあるが、外面には整形の痕跡が見られる。明確な類例もなく、用途・機能ともに不明の土製品である。所産時期は、一応、縄文後期前半としておきたい。

（野坂　知広）



第51図　縄文時代の土製品



第52図　縄文時代の土器片利用土製品

4．石製品

三角形岩版

平面形が三角形あるいは三角形に近似する形状の岩版を一括した。全34点中、遺構（縄文土坑）内から出土したものは20点、遺構外（平安住居覆土を含む）出土は14点であった。欠損資料が多い。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。表面球状（断面カマボコ形）、裏面平坦に研磨・整形されており、擦痕が明瞭に残るものと擦痕の観察が困難なほど丁寧に研磨されているものがある。有文の資料は少ないが、細い沈線によって直線・曲線が刻まれている。大きさ（Ⅰ～Ⅲ類）と形状（a～c種）から以下の９種類に分類することができる。石材はほぼ泥岩に限定されるが、計測値等は観察表（第８表）に纏めた。なお、過去の調査によって本遺跡より出土した三角形岩板については、度々検討が加えられている（葛西1970、児玉1997・2001）。

Ⅰ類ａ種…大きさが３～４㎝程度で、円形に近い鈍角な三角形を呈するもの（第53図１・４～６・11、第54図26）。有文のものは確認されていないが、厚さによっても分けられるかもしれない。

Ⅰ類ｂ種…大きさが３～４㎝程度で、鋭角な三角形を呈するもの（第53図10、第54図22～24・27）。有文の資料（第54図23・24・27）が比較的多い。

Ⅰ類ｃ種…大きさが３～４㎝程度で、台形に近い三角形を呈するもの（第53図７）。有文の資料は確認されていない。

Ⅱ類ａ種…大きさが５～６㎝程度で、円形に近い鈍角な三角形を呈するもの（第53図８・13～15、第54図25・28）。有文の資料が１点（第54図25）のみ確認された。なお、第53図８には破断面にも整形痕がある。

Ⅱ類ｂ種…大きさが５～６㎝程度で、鋭角な三角形を呈するもの（第53図18、第54図29）。有文の資料（第54図29）がある。

Ⅱ類ｃ種…大きさが５～６㎝程度で、台形に近い三角形を呈するもの（第53図12・16・19～21、第54図31）。有文の資料（第54図31）がある。

Ⅲ類ａ種…大きさが７～８㎝で、円形に近い鈍角な三角形を呈するもの（第54図30）。有文の資料である。

Ⅲ類ｂ種…大きさが７～８㎝程度で、鋭角な三角形を呈するもの（第54図32・34）。擦痕が明瞭に残っている傾向にある。

Ⅲ類ｃ種…大きさが７～８㎝程度で、台形に近い三角形を呈するもの（第54図33）。本資料を三角形岩版に加えるのは躊躇もしたが、三角形に近似する形状を志向したものと認識して、台形岩版・撥形岩版とすることは控えた。表面は丁寧に研磨されている。

円形岩版

平面形が円形あるいは円形に近似する形状の岩版を一括した。全38点中、遺構（縄文土坑）内から出土したものは24点、遺構外（平安住居覆土を含む）出土は14点であった。欠損資料が多い。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。表面・裏面ともに平坦に研磨・整形されているものが多く、表面球状（断面カマボコ形）の資料は少ない。擦痕の観察が困難なほど丁寧に研磨されているものが多かった。有文の資料は少なく、細い沈線によって直線・曲線が刻まれているものが２点（第56図70・72）のみ出土している。大きさ（Ⅰ・Ⅱ類）と断面形（ａ・ｂ種）から以下の４種類に分類することができる。石材は観察表（第８表）に纏めた。

Ⅰ類ａ種…直径３～４㎝程度で、断面形が長方形ないし台形を呈するもの（第55図35・36・38～42・44・45・47～52・54・56・63、第56図65・67）。

Ⅰ類ｂ種…直径３～４㎝程度で、側面が丸みを帯びているもの（第55図53・55・57、第56図64・66・68～71）。方形に近いもの（第56図69）と有文のもの（第56図70）がある。

Ⅱ類ａ種…直径５～６㎝程度で、断面形が長方形ないし台形を呈するもの（第55図37・43・46・61、第56図72）。有文の資料（第56図72）がある。

Ⅱ類ｂ種…直径５～６㎝程度で、側面が丸みを帯びているもの（第55図58・60・62）。有文の資料は確認されなかった。

有孔垂飾

６点の有孔垂飾が出土している。遺構（縄文土坑）内から出土したものは２点、遺構外（平安住居覆土を含む）出土は４点であった。第56図77のみが欠損している。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。全長は３～４㎝内外で、一つないし二つの穿孔を有する。形態的特徴から以下の３種類に分類できる。

Ⅰ類…半月形を呈し、孔を一つ持つもの（第56図73～76）。穿孔は、上部および直線的な側縁に近い位置にあり、孔の直径は３～５㎜内外である。表面・裏面ともに丁寧に研磨されている。

Ⅱ類…半月形を呈し、孔を二つ持つもの（第56図77）。穿孔は、直線的な側縁に近い位置にあり、孔の直径は５㎜内外である。厚さも５㎜弱と薄く、表面・裏面ともに丁寧に研磨されている。石材は白灰色の泥岩で脆い印象を受ける。従来、扁平垂飾品と呼称されてきたものであろう。

Ⅲ類…楕円形の自然礫に穿孔したもの（第56図78）。自然穿孔の可能性が高いが、一応分類した。

鍬形石製品

不明石製品が１点出土している（第56図79）。その形状から鍬形石製品と仮称したが、用途・機能ともに詳らかでない。石材は泥岩で、円形岩版に類するものかもしれない。ＳＫ49からの出土であり、所産時期は、縄文後期前半に比定されよう。

磨製石斧

小型の磨製石斧が２点出土している。本来は、石器の項目に記載すべきものかもしれないが、第56図81の極小石斧が実用に供されたものか不明であったため、石製品として一括した。第56図81は完形資料であるが、第56図82は小型の定角式磨製石斧の基部である。両資料ともに輝緑凝灰岩製で丁寧な研磨の痕跡が観察される。縄文後期には儀器としてのミニチュア石斧が出現することが知られており、当資料もそれに類するものであろう。

球状石製品

球状を呈する不明石製品が１点出土している（第56図84）。球形の敲石・磨石かとも思われたが、表面の風化が激しく、敲打痕・擦痕を確認することはできなかった。所産時期は、概ね縄文後期前半に比定されよう。

団栗形石製品

ドングリを彷彿とさせるような形状の不明石製品が１点出土している（第56図85）。外見から団栗（ドングリ）形石製品と仮称したが、類例は知られず、用途・機能ともに不明である。尖った方を上部と仮定すると、下部には沈線が一条巡り、紐などで縛った可能性もあろう。青森市稲山遺跡から出土している穿孔を持った土製品や磨石と認識された石器などが形態的に類似するが、詳細は不明である。外形的には、鐸形土製品に似通った印象も受ける。ＳＫ125からの出土であり、所産時期は、縄文後期前半に比定されよう。

石刀

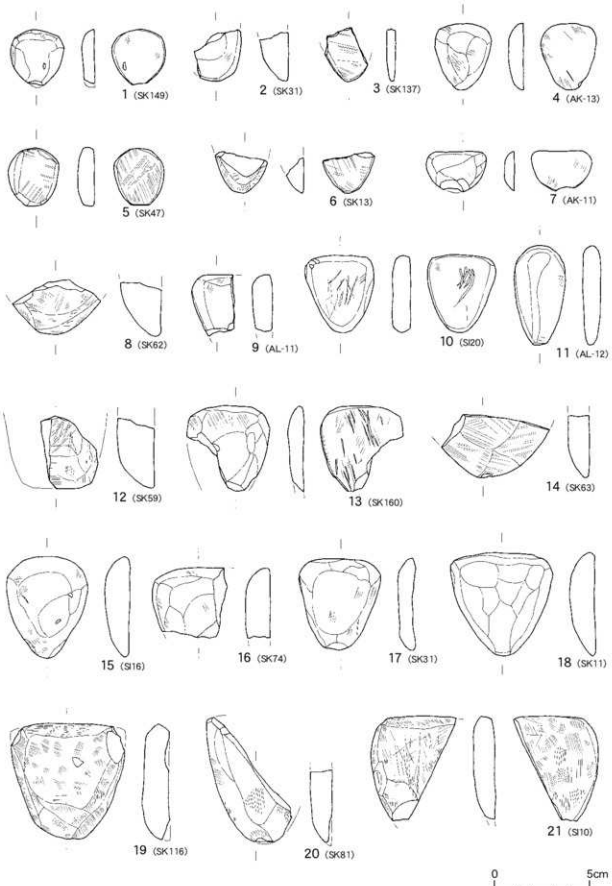
石刀（精製石棒）が１点出土している（第56図86）。刃部先端の資料であり、片刃を呈する断面形が明瞭である。粘板岩製で、表面は丁寧に研磨・整形されている。所産時期は、縄文後期前半に比定されよう。

その他

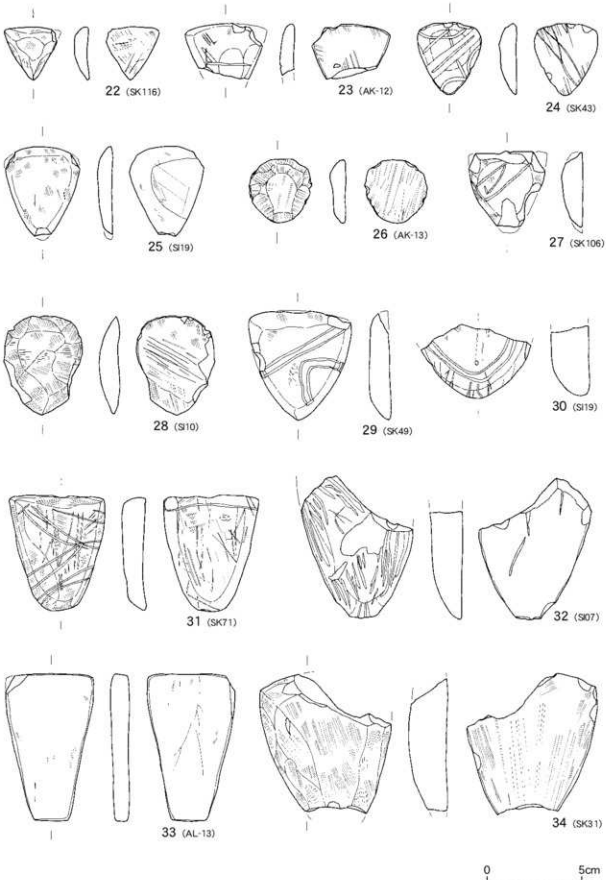
翡翠製大珠に類似した資料が１点出土している（第56図80）。自然石の可能性が高いが、貫通孔を志向したものと理解することもできる窪みが観察される。石質はデイサイトであるが、色調は白緑色で、翡翠に似通っている点は注目に値しよう。

また、水晶の小片が１点出土している（第56図83）。加工の痕跡は観察されなかった。ＳＩ10覆土からの検出であるが、166点もの水晶片が出土した青森市稲山遺跡（青森市教育委員会2001）の事例に鑑みて、縄文時代の遺物に加えた。

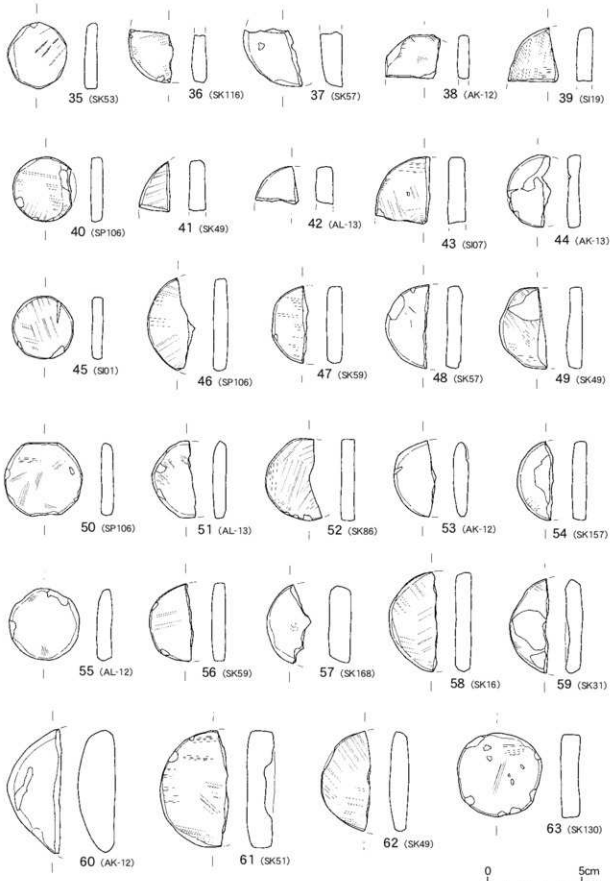
（野坂　知広）



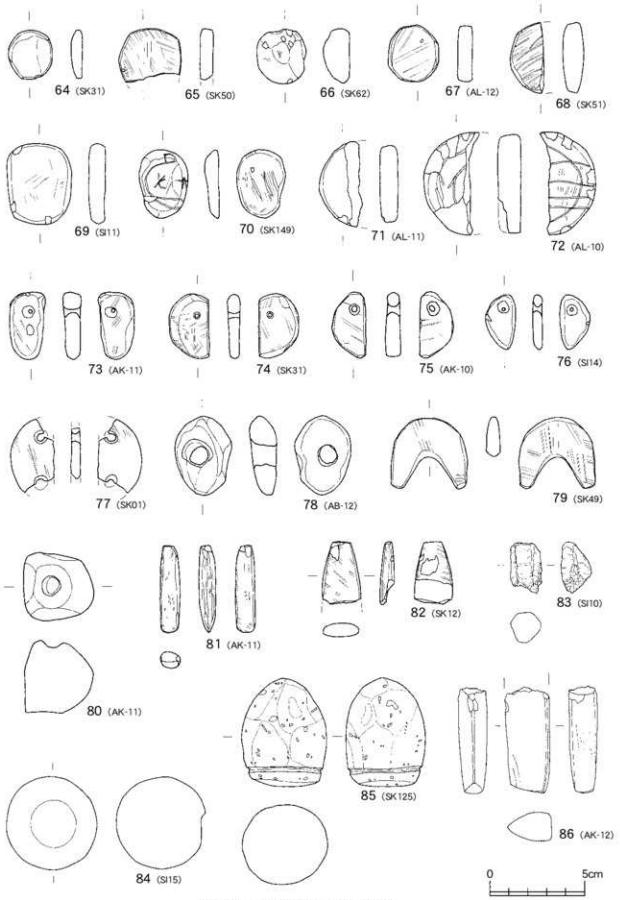
第53図　縄文時代の石製品（1）



第54図　縄文時代の石製品（２）



第55図　縄文時代の石製品（3）



第56図　縄文時代の石製品（4）

第5表　縄文土器観察一覧

図版番号	器種	部位	出土位置	文様	分期	計測値 (cm) 口径	底径	器高	備考
M140E1	深鉢	口～胴	SK136	口縁部：櫛状縄(長軸押圧)文/胴部：沈線(区画文)、磨消縄文(R.L.+L.R)	縄前2期	24.5	—	11.7	
M140E2	壺	口～胴	SK49	口縁部：隆沈線(長軸押圧)文/胴部：隆沈線(区画文)、磨消縄文(R.L.+L.R)	縄前2期	14.3	—	8.6	
M140E3	深鉢	口～胴	SK49	口縁部：隆沈線(長軸押圧)文/胴部：沈線(ウロコ状文)、磨消縄文(R.L.+L.R)	縄前2期	—	—	28.5	
M140E4	壺	口～胴	SK68	口縁部：隆沈線・刺突(一重)押圧文/胴部：沈線	縄前1期	—	—	8.4	
M140E5	深鉢	胴～底	SK16	胴下部：沈線(円形文・長軸押圧文・三角形文)	縄前1期	—	—	6.8	10.8
M140E6	深鉢	胴～胴	SK26	胴部：沈線(連携長軸押圧文)/胴部：沈線(格子目文)	縄前6期	—	—	6.0	
M140E7	鉢	口縁	SK31	口縁部：結束隆帯(L.R.)、磨消縄文	縄前2期	—	—	5.8	
M140E8	壺	胴部	SK39	胴部：二本沈線(円形文・長軸押圧文・鋸歯状文・曲線文)	縄前4期	—	—	22.8	
M140E9	壺	胴部	SK39	胴部：二本沈線(円形文・長軸押圧文・C字状文・曲線文)	縄前4期	—	—	6.5	
M141E10	浅鉢	口縁	SK48	口縁部：沈線・刺突(区画状文)	縄前4期	—	—	3.3	
M141E11	浅鉢	口～胴	SK41	口縁部：指直し口縁(沈線文)/胴部：沈線(C字状文・鋸歯状文)	縄前4期	—	—	9.6	
M141E12	壺	胴～底	SK49	胴下部：隆沈線(曲線文・結束円形文・円形文)、刺突押圧文/胴部：無文帯	縄前4期	—	12.14.6	集約あり	
M141E13	深鉢	口～胴	SK49	口縁部：指直し口縁、刺目状押圧文(単軸絡条体第5類(R)側圧)/胴部：刺目状押圧文(単軸絡条体第5類(R)側圧)	縄前2期	27.2	—	34.8	
M141E14	浅鉢	口～底	SK51	口縁部：平縁　胴部：二本沈線(連携鋸歯文・長方形文・長楕円形文)	縄前3期	17.3	8.3	6.7	集約あり
M141E15	浅鉢	口～底	SK57	口縁部：波状口縁　胴部：二本沈線(連携鋸歯文・C字状文・鋸状文)	縄前5期	17.4	6.3	10.4	
M141E16	浅鉢	口～底	SK51	口縁部：平縁(沈線文)/胴部：無文(円山川伝説例)、磨消縄文	縄前4期	14.2	5.1	3.7	
M141E17	鉢	底	SK57	胴部：沈線文　底部：二本沈線(馬蹄状文)	縄前4期	—	5.8	1.8	
M141E18	壺	底	SK57	胴部：二本沈線(円形文・方形文・長楕円形文)　底部：二本沈線(円形文・鋸状文)	縄前4期	—	10.3	5.0	
M142E19	深鉢	口～胴	SK63	口縁部：沈線・刺突(C字状文・長楕円形文)/胴部：沈線(長楕円形文)、磨消縄文	縄前2期	—	—	6.3	
M142E20	深鉢	口～胴	SK78	口縁部：沈線　文　胴部：沈線(長楕円形文・円形文)　胴下部：沈線(鋸状付文)	縄前6期	—	—	17	
M142E21	深鉢	口～底	SK59	口縁部：波状口縁　胴上部：ウロコ状文　胴下部：無文	縄前3期	26.5	9.5	32.7	
M142E22	深鉢	口～胴	SK57	口縁部：結束隆帯・8字状隆帯　胴部：二本沈線(円形文・長楕円形文・三角形文)	縄前4期	34.4	—	32.6	集約あり
M142E23	壺	口縁	SK71	口縁部：隆沈線(鋸歯文)	縄前3期	—	—	6.3	
M142E24	深鉢	口縁	SK71	口縁部：隆沈線(区画文・円形文)、磨消縄文	縄前3期	—	—	7.8	
M142E25	深鉢	口縁	SK96	口縁部：隆沈線(L.R.L.)　注目	注目	—	—	5.3	
M142E26	鉢	口縁	SK96	口縁部：沈線(鋸歯状文)、刺突(円形竹管状文・半截竹管状文)	縄前1期	—	—	5.2	
M142E27	深鉢	口縁	SK96	口縁部：沈線文(縄文)/胴部：沈線文(蛇行状文)、磨消縄文	注目	—	—	13.9	
M142E28	深鉢	口～胴	SK96	口縁部：波状口縁(隆沈線)/胴部：沈線(鋸状文)	縄前4期	—	—	17.3	
M142E29	壺	胴～底	SK96	胴下部：二本沈線(長楕円形文・鋸歯状文)	縄前4期	—	7.2	15.9	
M142E30	浅鉢	口～胴	SK96	口縁部：無文　胴部：二本沈線(円形文・結束円形文)	縄前4期	—	4.8	16	
M142E31	浅鉢	口～胴	SK96	口縁部：沈線(S字状文)/胴部：二本沈線(鋸歯状文・鋸状文)	縄前4期	—	—	7.9	
M142E32	鉢	口縁	SK96	口縁部：無文　胴部：二本沈線(ウロコ状文・円形文)	縄前4期	—	—	6.6	
M142E33	浅鉢	口～底	SK96	口縁部：波状口縁　胴部：二本沈線(S字状文・鋸状文)	縄前5期	16.6	5.1	6.9	
M142E34	深鉢	口縁	SK96	口縁部：C字状隆帯、櫛状肘手、沈線(長楕円形文)	縄前4期	34	—	11.5	集約あり
M143E35	深鉢	口～底	SK96	口縁部：ラガッ状隆帯　胴部：沈線(鋸歯状文・鋸状文)	縄前4期	17.5	4.6	7.7	
M143E36	壺	口縁	SK96	口縁部：ラガッ状隆帯、沈線(楕円形文)	縄前4期	7.0	—	4.1	
M143E37	深鉢	口～胴	SK92	口縁部：無文　胴部：鋸文(R.L.)	縄前4期	16.7	—	30.1	
M144E38	浅鉢	口～底	SK116	口縁部：沈線(長楕円形文・円形文)/胴部：二本沈線(鋸歯状文・鋸状文)	縄前5期	22.9	8.4	8.3	
M144E39	鉢	口～底	SK116	口縁部：沈線(長楕円形文・円形文)/胴部：二本沈線(鋸歯状文・鋸状文)	縄前5期	9.1	4.0	7.9	内面ウルシ付着
M144E40	浅鉢	口～底	SK116	口縁部：ラガッ状隆帯、沈線(連携長楕円形文)/胴部：三本沈線(S字状文・鋸状文)	縄前5期	17.9	7.0	7.3	
M144E41	深鉢	口～底	SK116	口縁部：沈線(長楕円形文)/胴部：二本沈線(鋸状文・鋸状文)	縄前4期	21.7	—	20.3	

図版番号	器種	部位	出土位置	文様	分期	計測値 (cm) 口径	底径	器高	備考
M144E42	深鉢	口～胴	SK136	口縁部：二本沈線(ウロコ状文)	縄前3期	—	—	10.3	
M144E43	深鉢	口～胴	SK137	口縁部：指直し、沈線(無文帯)/胴部：二本沈線(蕨手メガネ状文)、磨消縄文(R.L.+L.R)	縄前2期	—	—	9.2	
M144E44	深鉢	胴～底	SK149	胴上部：刺目状押圧文(単軸絡条体第5類(R)側圧)/胴下部：無文	縄前7期	—	10.7	19.8	
M145E45	深鉢	口縁	A1.L-13	口縁部：指直押圧文	縄前2期	—	—	3.2	縄縄混入
M145E46	深鉢	口縁	A1.L-13	口縁部：平縁　胴部：刺目状押圧文(単軸絡条体第5類(R)側圧)	縄前7期	—	—	4.3	
M145E47	深鉢	口縁	AK-13	口縁部：平縁(沈線文、指直文(R))側圧)	縄前1期	—	—	7.5	
M145E48	深鉢	胴部	AK-12	胴部：結節縄文(L.R.)	縄前	—	—	5.2	
M145E49	深鉢	口～胴	AK-14	口縁部：波状口縁(沈線文)/胴部：沈線(鋸歯状文・渦巻文)、磨消縄文(R.L.+L.R)	縄前1期	—	—	19.8	
M145E50	深鉢	胴部	A1.-12	胴部：沈線(連携鋸歯文・渦巻文)、磨消縄文(R.L.+指直文)	縄前2期	—	—	10	
M145E51	深鉢	胴部	A1.-12	胴部：鋸文(沈線内磨文)	縄前	—	—	7.2	
M145E52	深鉢	口～胴	A1.-11	口縁部：結束・鋸文(R.L.)　胴部：二本沈線(沈線文・渦巻文・円形文・楕円形文)　胴部：鋸歯縄文(L.R.L.)	縄前2期	—	—	15	
M145E53	深鉢	口～底	AK-11	口縁部：刺目文　口胴部：沈線(S字状文・渦巻文・円形文・楕円形文)　胴部：鋸歯縄文(L.R.L.)	縄前1期	14	6.0	24	底部(胴代版)
M145E54	深鉢	口～胴	AK-11	口縁部：波状口縁(沈線文)　胴部：沈線(連携・渦巻文・連携鋸歯文・渦巻文)、鋸文(R.L.)	縄前1期	24.2	—	15.3	
M145E55	深鉢	胴部	A1.-11	胴下部：沈線(渦巻文)、鋸文(R.L.)　胴下部：鋸文(L.R.)	縄前2期	—	—	14.9	
M146E56	深鉢	口縁	AK-10	口縁部：波状口縁(沈線文)	縄前7期	3.6	—	3.8	小型壺
M146E57	壺	胴～底	AK-10	胴部：沈線(連携長楕円形文)/胴部：沈線(渦巻文・鋸状文)	縄前5期	—	4.0	8.6	切断面形土器
M146E58	鉢	口縁	A1.-10	口縁部：二本沈線(鋸状文)	縄前4期	—	—	4.1	
M146E59	深鉢	口～胴	A1.-11	胴部：鋸文(R.L.)	縄前6期	—	—	5.4	
M146E60	深鉢	胴部	A1.-11	胴部：鋸文(L.R.)	縄前4期	—	—	22.3	
M146E61	深鉢	胴～底	AK-11	胴部：鋸文(L.R.)　底部：ケズリ調整	縄前8期	—	—	6.8	
M146E62	深鉢	胴～底	A1.-11	胴部：鋸文(R.L.)	縄前6期	—	8.4	10.0	
M146E63	深鉢	胴部	AK-11	胴部：複節縄文(L.R.L.)	縄前	—	—	20.7	

第6表　石器観察一覧

図版番号	種別	出土位置	最大法量値 (cm, g) 長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
M147E1	石鏃	S119	2.2	1.1	0.6	1.1	珪質頁岩	凸脚有茎鏃
M147E2	石鏃	AK-12	2.8	1.1	0.5	0.9	珪質頁岩	凹脚有茎鏃
M147E3	石鏃	AL-12	3.1	1.3	0.6	2.1	珪質頁岩	平基無茎鏃
M147E4	石鏃	SK105	3.3	1.8	0.8	4.7	珪質頁岩	円脚鏃
M147E5	石鏃	SK107	4.1	1.4	1.2	7	珪質頁岩	
M147E6	大石平型石器	AL-13	3.5	1.7	0.9	4.1	珪質頁岩	
M147E7	大石平型石器	SK95	2.7	1.6	0.7	2.7	珪質頁岩	
M147E8	剥片	S112	3.2	1.6	0.5	2.3	珪質頁岩	
M147E9	剥片	S119	2.3	1.8	0.7	3.1	珪質頁岩	
M147E10	不定形石器	AK-11	5	3	0.8	9.9	珪質頁岩	
M147E11	石錐	SK170	4.7	2.3	1.2	7.9	珪質頁岩	尾型
M147E12	石錐	S110	5.5	3.6	1	15.2	珪質頁岩	尾型
M147E13	石錐	SK116	2.9	3.5	1.1	10.2	珪質頁岩	錐型
M147E14	石錐	SK51	3.1	1.6	1.6	8	珪質頁岩	1側ある
M147E15	石錐	S119	1.8	2.7	0.7	4.4	珪質頁岩	1側ある
M147E16	石錐	SK57	4.4	1.5	0.9	5.8	珪質頁岩	2側ある
M147E17	石錐	SK107	4	2.4	1.2	10.9	珪質頁岩	1側ある
M147E18	石錐	S115	5.3	1.6	0.9	9	珪質頁岩	2側ある
M147E19	石錐	AK-12	4.2	2.1	1.3	11.6	珪質頁岩	1側ある
M147E20	石錐	SK136	5.7	2	1.5	14.4	珪質頁岩	1側ある
M147E21	石錐	AK-09	4.3	1.9	1.1	8	珪質頁岩	1側ある
M147E22	石錐	SP106	3.8	2.1	1.3	9.8	珪質頁岩	1側ある
M147E23	石錐	S110	5.2	2.7	1.3	17.7	珪質頁岩	2側ある
M147E24	石錐	SK116	4.8	2.3	1.5	17.8	珪質頁岩	1側ある
M147E25	石錐	AK-11	5.5	2.6	1.6	19.1	珪質頁岩	1側ある
M147E26	石錐	AK-12	8	3.2	2	39.3	珪質頁岩	1側ある
M148E27	不定形石器	SK51	5.7	6.6	1.7	25.4	珪質頁岩	
M148E28	不定形石器	AK-12	4.7	7.5	1.6	35.1	珪質頁岩	
M148E29	不定形石器	S119	11.8	6.9	2.4	153.8	珪質頁岩	
M148E30	不定形石器	AK-13	6.6	6.9	2.4	116.4	珪質頁岩	
M149E1	叩石	AL-13	11.8	8	3.2	328.2	凝灰石	
M149E2	叩石	AL-12	9.3	8.2	2.6	206.2	凝灰石	
M149E3	叩石	AK-14	7.1	6.6	5.9	326.9	SG頁岩	線状
M149E4	叩石	S101	9.4	7.1	5.4	322	凝灰石	
M149E5	磨石	SK63	12.1	6.9	5.8	810	石英安山岩	磨石転用
M149E6	磨石	S115SK1	7.5	5.4	5.9	291.9	凝灰石	

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm、g）				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
第498図7	磨石	S116	12.8	5.1	4.6	400	有孔安山岩	程状
第498図8	磨石	SK149	10.4	5	4.9	353.4	SO(凝)	
第499図9	台石	S119	15.7	13.4	10	1442	SO(凝)	
第500図10	叩石	S116	13.2	7.6	2.2	190.8	凝灰	
第500図11	叩石	SK149	11.5	7	5	480	凝灰岩	
第500図12	叩石	SK137	10	7.1	6.8	500	凝灰岩	
第500図13	叩石	S102	12.2	6.9	5.8	532	凝灰岩	
第500図14	叩石	SK98	12.5	6.7	4	520	凝灰岩	
第500図15	叩石	SK57	11.9	8.6	4.6	524	凝灰岩	
第500図16	叩石	S119	15.7	6.2	7.9	966	凝灰岩	
第500図17	石皿	S102	14.1	21.4	4.8	1696	凝灰	
第500図18	有溝砥石	SK71	30.1	25.8	7.9	5695	凝灰岩	

第７表　土製品観察一覧

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm、g）				備考
			長さ	幅	厚さ	重量	
第510図1	紡錘土製	S K60	1.6	3	1.8	7.3	
第510図2	紡錘土製	S K127	1.8	6.5	3.6	27.4	
第510図3	紡錘土製	A K－13	－－	－－	－－	7.3	
第510図4	紡錘土製	S K68	2.4	3.6	2.1	11.3	
第510図5	紡錘土製	S K63	5.8	5.2	2.9	43	
第510図6	紡錘土製	S K31	4.6	8.3	4	78.8	
第510図7	紡錘土製	S K63	－－	－－	2.7	9.6	
第510図8	紡錘土製	S K71	－－	－－	－－	18.1	
第510図9	焼転土製	A L－13	3.1	2.2	2.1	11.4	
第510図10	焼転土製	S K144	3.8	3.2	0.8	10.8	
第510図11	焼転土製	S 1 29	2.6	2.2	0.6	2.9	
第510図12	土製丸輪	S K130	2.1	2	1.2	5.4	
第510図13	擦切土製品	S K149	2.2	2.6	0.4	7.5	
第510図14	擦切土製品	S K91	2.8	2.3	0.3	7.5	
第510図15	擦切土製品	S K136	1.8	2.3	0.4	5.7	
第510図16	擦切土製品	S K82	5	3.6	0.5	30.7	
第510図17	擦切土製品	S K137	4.8	3.4	0.4	18.6	
第510図18	土錘	A－14	4.1	3.7	1	20.6	
第510図19	不明土製品	S K144	8.3	8.2	5	221.2	
第510図20	焼締粘土土製品	S K144	11.4	9.1	7	252.1	擦切土製
第526図1	土器円盤	S K71	3.2	3.1	1	12.1	
第526図2	土器円盤	S K112	3	3.3	0.6	8.6	
第526図3	土器円盤	S 1 86	3.2	3.3	0.7	9.3	
第526図4	土器円盤	S K63	3.3	3.7	0.6	9.1	
第526図5	土器円盤	S K63	3.5	3.4	0.9	8.9	
第526図6	土器円盤	S K96	3.8	3.7	0.9	12	
第526図7	土器円盤	S K63	3.7	3.6	0.8	12.3	
第526図8	土器円盤	S K59	3.7	3.5	0.8	12.9	
第526図9	土器円盤	S K90	3.9	3.5	0.7	10.2	
第526図10	土器円盤	S K98	3.8	2.8	0.6	6	
第526図11	土器円盤	S K86	3.3	3.7	0.7	10.7	
第526図12	土器円盤	S K96	4	3.8	0.8	14.1	
第526図13	土器円盤	S K49	3.8	4.2	0.8	14	
第526図14	土器円盤	S 1 45	3.6	3.8	0.8	13.9	
第526図15	土器円盤	S 1 15	3.9	3.9	0.9	17.7	
第526図16	土器円盤	S K90	4.4	4.3	0.9	20.2	
第526図17	土器円盤	A K－10	3.7	4	0.9	16.3	
第526図18	土器円盤	S K129	3.9	4.4	1.1	22.4	
第526図19	土器円盤	S K49	4.5	4.3	0.7	16.1	
第526図20	土器円盤	A L－13	2.9	3.3	0.7	6.9	
第526図21	土器円盤	A K－12	3.9	3.8	1	18.9	
第526図22	土器円盤	S K71	4.4	4.8	1	25.3	
第526図23	土器円盤	A K－13	3.7	3.6	0.8	14.9	
第526図24	土器円盤	S K57	6.4	6.7	0.9	41.7	二角形
第526図25	土器円盤	S K68	4.9	4.9	0.6	17.8	
第526図26	土器円盤	A－12	4.3	4.8	0.7	20.6	
第526図27	土器円盤	A K－14	3.8	3.9	0.9	16	

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm、g）				石質	備考
			長さ	幅	厚さ	重量		
第526図8	二角形石製	SK62	2.9	4.6	1.7	19.5	凝灰	目釘ａ痕
第526図9	二角形石製	AL－11	3.2	2.2	1	8.6	凝灰岩	目釘ｃ痕
第526図10	二角形石製	S110	4.1	3.6	0.9	18.1	凝灰	目釘ｂ痕
第526図11	二角形石製	AL－12	5.3	2.6	0.9	13.8	凝灰	目釘ｂ痕
第526図12	二角形石製	SK59	3.9	4	1	19.5		目釘ｃ痕
第526図13	二角形石製	SK100	6.5	4.3	0.8	13.9	凝灰	目釘ａ痕
第526図14	二角形石製	SK03	3.4	5.7	1.1	16.7	凝灰	目釘ａ痕
第526図15	二角形石製	S116	5.4	4.3	1.2	28.8	凝灰	目釘ｂ痕
第526図16	二角形石製	SK74	3.7	3.9	1.3	20.4	凝灰岩	目釘ｃ痕
第526図17	二角形石製	SK1	4.8	4.2	0.8	16.9	凝灰	目釘ｃ痕
第526図18	二角形石製	SK1	5.5	5.3	1.2	34	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図19	二角形石製	SK116	6	5.9	1.4	53.2	凝灰	目釘ｃ痕
第526図20	二角形石製	SK01	6.5	3.5	1.2	19.4	凝灰	目釘ｃ痕
第526図21	二角形石製	S110	5.4	4	1.4	25.2	凝灰	目釘ｃ痕
第526図22	二角形石製	SK116	2.8	2.7	0.7	4.3	凝灰	目釘ｂ痕
第526図23	二角形石製	AL－12	2.8	3.9	0.7	8.5	凝灰	目釘ｂ痕
第526図24	二角形石製	SK43	3.7	3.3	0.9	8.8	凝灰	目釘ｂ痕
第526図25	二角形石製	S119	4.6	3.9	0.7	13.9	凝灰	目釘ａ痕
第526図26	二角形石製	AL－13	3.4	3.3	0.8	7.2	凝灰	目釘ｂ痕
第526図27	二角形石製	SK106	3.9	4	1.1	14.1	凝灰	目釘ｂ痕
第526図28	二角形石製	S119	5.2	4.1	1	21.4	凝灰	目釘ｂ痕
第526図29	二角形石製	SK49	5.7	5.4	1.1	29.7	凝灰	目釘ｂ痕
第526図30	二角形石製	S119	5.7	5.8	1.9	47.2	凝灰	目釘ｂ痕
第526図31	二角形石製	SK71	6.1	5	0.8	39.3	凝灰	目釘ｂ痕
第526図32	二角形石製	S107	6.7	5.6	1.7	45.7	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図33	二角形石製	AL－13	7.8	4.1	1.1	39.6	凝灰	目釘ｃ痕
第526図34	二角形石製	SK31	7.1	6.8	2	94.1	凝灰	目釘ｂ痕
第526図35	円形石製	SK55	3.5	3.1	0.7	9.4	凝灰	目釘ａ痕
第526図36	円形石製	SK116	2.8	2.3	0.8	5.5	凝灰	目釘ａ痕
第526図37	円形石製	SK57	2.9	2.6	1.1	10.3	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図38	円形石製	AK－12	2.3	2.7	0.6	4.4	凝灰	目釘ａ痕
第526図39	円形石製	S119	2.9	2.6	0.9	6.8	凝灰	目釘ａ痕
第526図40	円形石製	SP106	3.4	3.1	0.8	9.2	凝灰	目釘ａ痕
第526図41	円形石製	SK49	2.7	1.7	0.9	3.2	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図42	円形石製	AK－13	2	2.2	0.9	4	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図43	円形石製	S107	3.5	2.9	0.9	10.5	凝灰	目釘ａ痕
第526図44	円形石製	AK－13	3.8	3.2	1	20.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図45	円形石製	S101	3.5	3.2	0.6	8.5	凝灰	目釘ａ痕
第526図46	円形石製	SP106	4.9	3.5	0.8	8.1	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図47	円形石製	SK59	4.1	1.9	0.8	5.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図48	円形石製	SK57	4.4	2.1	0.8	9.5	凝灰	目釘ａ痕
第526図49	円形石製	SK49	4.4	2.5	0.8	9.6	凝灰	目釘ａ痕
第526図50	円形石製	SP106	3.9	4.1	0.7	14.6	凝灰	目釘ａ痕
第526図51	円形石製	AL－13	4.1	2.1	0.7	7.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図52	円形石製	SK06	4.2	2.3	0.7	9.7	凝灰	目釘ａ痕
第526図53	円形石製	AK－12	4	2.2	0.8	7.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図54	円形石製	SK157	4.2	1.9	0.8	6.9	凝灰	目釘ａ痕
第526図55	円形石製	AL－12	3.9	2.7	0.8	15.5	凝灰	目釘ｂ痕
第526図56	円形石製	SK05	4.2	2.3	0.7	8.5	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図57	円形石製	SK168	4.2	2.3	1.1	12.7	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図58	円形石製	SK16	5.3	2.5	0.8	14.1	凝灰	目釘ｂ痕
第526図59	円形石製	SK31	5	1.9	0.8	8.5	凝灰	目釘ｂ痕
第526図60	円形石製	AL－12	6.5	2.6	1.9	27.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図61	円形石製	SK71	6.3	3.6	1.4	34.3	凝灰岩	目釘ａ痕
第526図62	円形石製	SK49	5.3	2.6	1.1	13.4	凝灰	目釘ｂ痕
第526図63	円形石製	SK130	4.5	4.5	1.5	27.8	凝灰	目釘ｂ痕
第526図64	円形石製	SK31	2.6	2.3	0.6	4.8	凝灰	目釘ｂ痕
第526図65	円形石製	SK90	2.8	3.3	0.7	7.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図66	円形石製	SK62	2.9	2.6	1.4	10.2	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図67	円形石製	S 1	3	2.6	0.8	7.1	凝灰	目釘ａ痕
第526図68	円形石製	SK1	3.7	1.8	1.1	6.7	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図69	円形石製	S111	4.2	3.4	0.8	16.4	凝灰	目釘ｂ痕
第526図70	円形石製	SK49	3.6	2.5	0.7	5.3	凝灰	目釘ａ痕
第526図71	円形石製	AL－11	4.5	2.1	1	9.2	凝灰岩	目釘ｂ痕
第526図72	円形石製	AL－10	5.4	2.4	1	20.6	凝灰	目釘ａ痕
第526図73	有孔楕円	AK－11	3.5	1.8	0.9	7.7	凝灰	目釘
第526図74	有孔楕円	SK31	3.5	2.1	0.7	4.8	凝灰	目釘
第526図75	有孔楕円	AK－10	3.5	1.8	0.8	5.6	凝灰	目釘
第526図76	有孔楕円	S114	2.9	1.5	0.5	2.4	凝灰	目釘
第526図77	有孔楕円	SK01	2.7	2.3	0.4	4.9	凝灰	目釘
第526図78	有孔楕円	AB－12	4.1	2.9	1.4	17.8	凝灰	目釘
第526図79	擦切土製品	SK49	3.8	4.1	0.7	11.2	凝灰	
第526図80	ディサイト	AK－11	3.7	3.6	3.8	77.1	ディサイト	
第526図81	磨製石斧	AK－11	4.6	1	0.9	8.2	輝緑凝灰岩	
第526図82	磨製石斧	SK12	5.3	2	0.8	8.6	輝緑凝灰岩	
第526図83	赤鉄	S110	2.7	1.2	1.6	8.1	赤鉄	
第526図84	凝灰石製品	S115	4.9	4.7	4.6	104.3	凝灰	
第526図85	凝灰岩製品	SK125	5.7	4.5	3.6	114.5	凝灰	
第526図86	石刀	AK－12	5.7	2.4	1.5	31.5	凝灰	

第２節　平安時代の遺物

１．土師器

土師器は、代表的なもの37点を図示した。器種は坏・皿・甕・鍋が確認されており、同様の器種分化が指摘される９世紀後葉～10世紀前葉の時期比定とも合致する様相を呈している。以下、器種ごとに概述する。計測値等は観察表（第９表）に纏めた。

坏（第57図１～５・７～13、第58図14～19）

すべてロクロ成形のものと思われる。器面調整を含めた整形もロクロを使用しているが、第57図９のみはロクロ成形・整形後、外面調整・内面調整をヘラナデによって行い、底面調整もヘラケズリが施されている。器形は、高台風底部を持つ椀形のもの（第57図１～５・７・８・10、第58図14～19）が主体を占めるが、高台風底部を持たないもの（第57図９・11～13）も見られる。また、口縁が僅かに外反し、体部器厚が比較的薄く、底部から口縁部にかけての立ち上がりが緩やかなもの（第57図３～５・８・10～13、第58図14～17・19）と体部器厚が比較的厚く、底部から口縁部にかけての立ち上がりが急なもの（第57図１・２・７・９、第58図18）とに分けることもできるが、体部の断面形態が緩やかな波状を呈するものは口径に対して器高の低い資料に散見できる傾向にあり、皿形土器や鍋形土器とも共通する事象であろう。内面調整は、ロクロ整形（第57図２・３・５・８～11、第58図14～17・19）が多いが、ヘラミガキによる内面黒色処理（第57図１・４・７・13、第58図18）やヘラ調整（第57図13）も見られる。底部には回転糸切痕が観察され、すべて右回転である。特に、同遺構（ＳＩ19）内出土の第58図14～17・19は形状が近似しており、同一工人による製作も想定される。

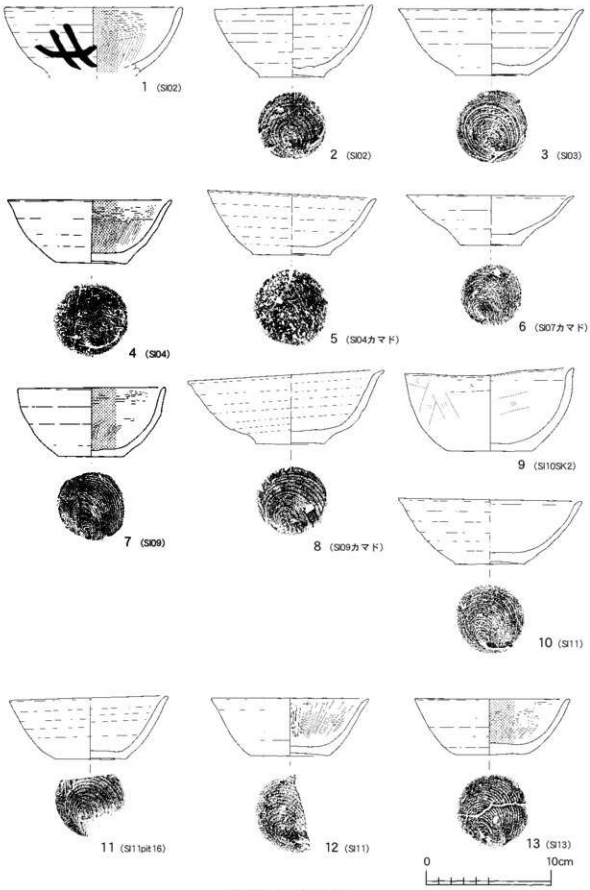
また、墨書土器（第57図１）が出土しており、墨書はまじない文字の一種ともされる「廿」である。なお、第57図８の内面には、一部に煤が集中しており、灯明具として転用されたものと思われる。さらにカマド支脚としても転用されている。所産時期は、底部からの立ち上がりが急なものを概ね９世紀末葉から10世紀前葉、立ち上がりがゆるやかなものを10世紀中葉～後葉に比定したい。

皿（第57図６）

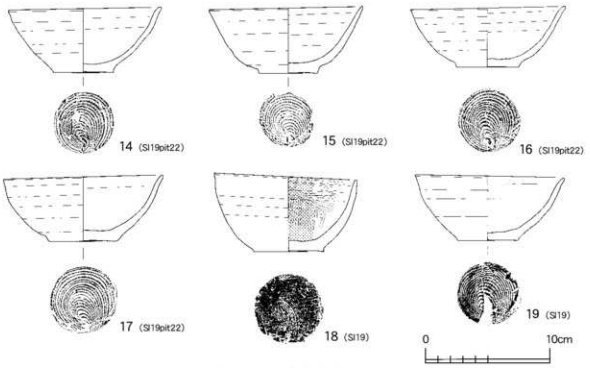
ＳＩ07より１点出土している。ロクロ成形のものであり、外面調整・内面調整ともにロクロ整形である。高台風底部を持ち、口縁が外反する器形を呈する。所産時期は、概ね10世紀中葉～後葉に比定されよう。

甕（第59図20・21・23・24、第60図25～31、第61図33～36）

粘土紐輪積みあるいは巻き上げ技法による成形と思われる。外面調整・内面調整はヘラナデ（第59図20・21・23・24、第60図26～31、第61図33～35）が主体を占めるが、ロクロ調整の明瞭なもの（第60図25、第61図36）も見られる。また、底部近くにヘラケズリが観察されるもの（第59図23）もある。器形は、大型で胴部があまり膨らまないもの（第59図21・24、第60図26・27・30・31、第61図34・35）が多いが、大型で胴部が丸く膨らむもの（第59図23）、小型で甕形を呈するもの（第59図20、第61図33）、小型で鉢形に近いもの（第60図29）、小型で壺形に近いもの（第60図28）の数種類が散見される。口縁は「く」の字状に外反し、口縁部直下の胴部から底部にかけて煤などの被熱痕が観察されるものが多い。第59図


1 (SI02)
2 (SI02)
3 (SI03)
4 (SI04)
5 (SI04カマド)
6 (SI07カマド)
7 (SI09)
8 (SI09カマド)
9 (SI10SK2)
10 (SI11)
11 (SI11pit16)
12 (SI11)
13 (SI13)
0
10cm

第57図　土師器（1）



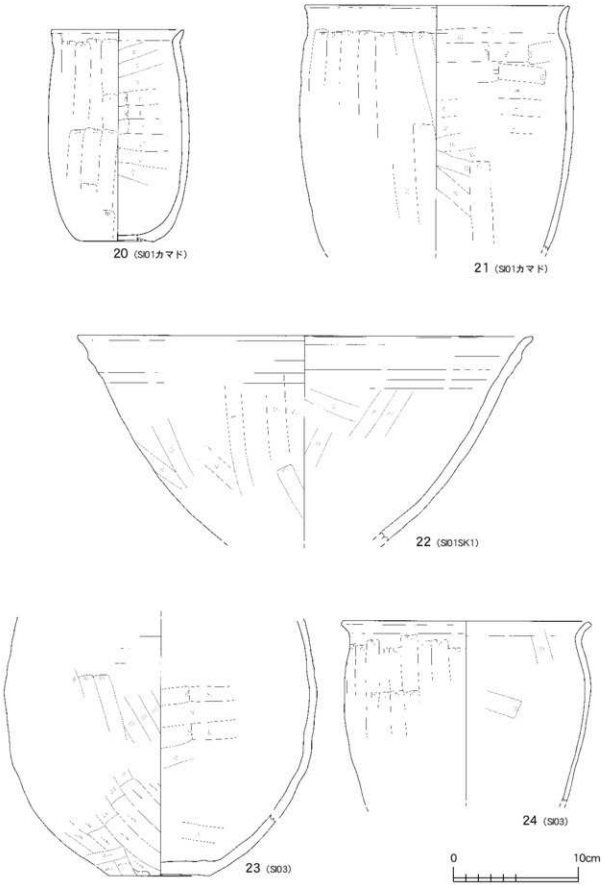
第58図　土師器（2）

23の底部には、支脚痕と思われる円形の被熱痕がある。また、第60図30の胴部には、朱彩が僅かに見られる。所産時期は、概ね9世紀末葉～10世紀後葉に比定されよう。

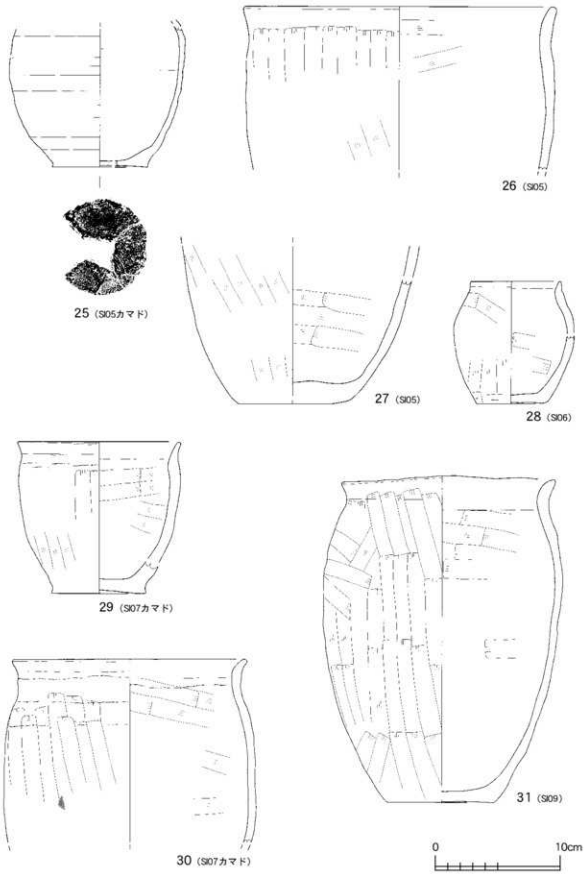
塝（第59図22、第61図32）

甕同様、粘土紐輪積みあるいは巻き上げ技法により成形された後、ロクロ整形を施されたものと思われる。口縁部付近にはロクロ整形の痕跡が明瞭であるが、体部の外面調整・内面調整はヘラナデが主流である。底部資料は出土していないが、平底あるいは丸底を呈するものと想定されている。所産時期は、塝形土器の普及し始める9世紀末葉～10世紀前葉に比定されよう。

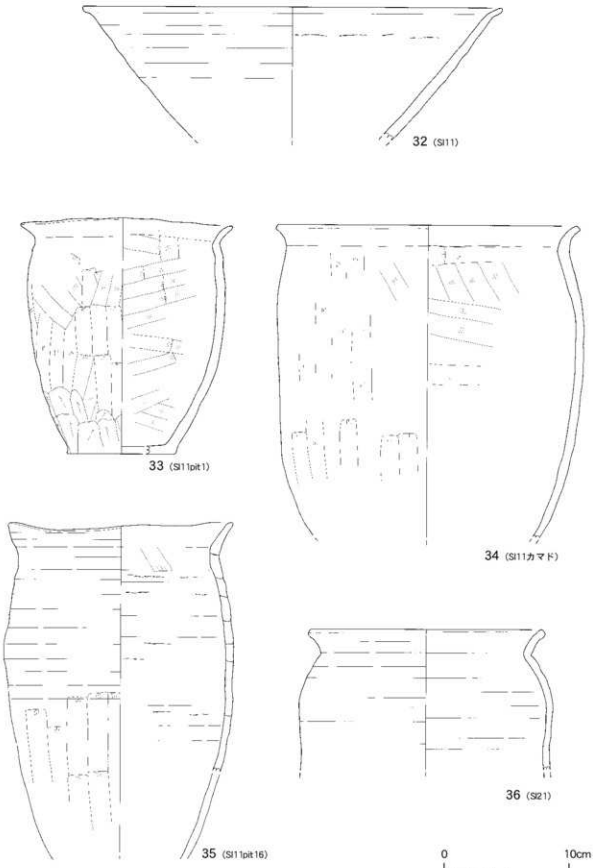
（野坂　知広）



第59図　土師器（3）


26（SI05）
25（SI05カマド）
27（SI05）
28（SI06）
29（SI07カマド）
31（SI09）
30（SI07カマド）
0
10cm

第60図　土師器（4）



第61図　土師器（5）

2．須恵器

須恵器は、代表的なもの14点を図示した。器種は、坏・鉢・甕・壺が確認されている。以下、器種ごとに概述する。計測値等は観察表（第10表）に纏めた。

坏（第62図２・６・７、第64図12・14）

ロクロ成形で、口縁が僅かに外反し、高台風底部を持つ椀形の器形を呈する。器面の色調は暗青灰色（第62図２・７、第64図12）が多いが、灰白色（第64図14）もある。破断面は五所川原窯群に通有の赤褐色のものが多い。また、器面内外に十字形の火襷痕が観察され（第62図２・６・７、第64図12）、焼成温度の低い火襷痕部分が赤褐色となる資料（第64図12）も見られる。底部には回転糸切痕が残り、すべて右回転である。刻書土器が２点（第62図６・７）あり、第62図６は「大□□」と判読される。製作当初は須恵器として作られたものが、焼成不良により土師質土器となったものであろう。参考資料として紹介しておくと、本遺跡に隣接する蛍沢遺跡（蛍沢遺跡発掘調査団1979）より「杰」の墨書土器（土師器坏）が、旧浪岡町山本遺跡（青森県教育委員会1987）より「充」の刻書土器（須恵器坏）が出土しており、かかる「杰」・「充」を分解し、横位に展開させると本資料（第62図６）と類似するようにも見える。第62図７は、まじない文字ともされる「井」が斜位に陰刻されている。所産時期は、９世紀末葉～10世紀後葉に比定されよう。

鉢（第62図３、第64図11・13）

ロクロ成形で、口縁が「く」の字状に屈曲し、胴部の張り出すもの（第62図３、第64図13）と胴部のスマートなもの（第64図11）がある。胴部下半の外面調整にヘラケズリ（第62図３）が観察される。底部は、ケズリ調整のもの（第62図３）と回転糸切痕（右回転）を残すもの（第64図13）がある。刻書土器が１点（第64図11）出土しており、判然とはしないが、まじない文字ともされる「井」のようにも見える。所産時期は、概ね９世紀末葉～10世紀前葉に比定されよう。

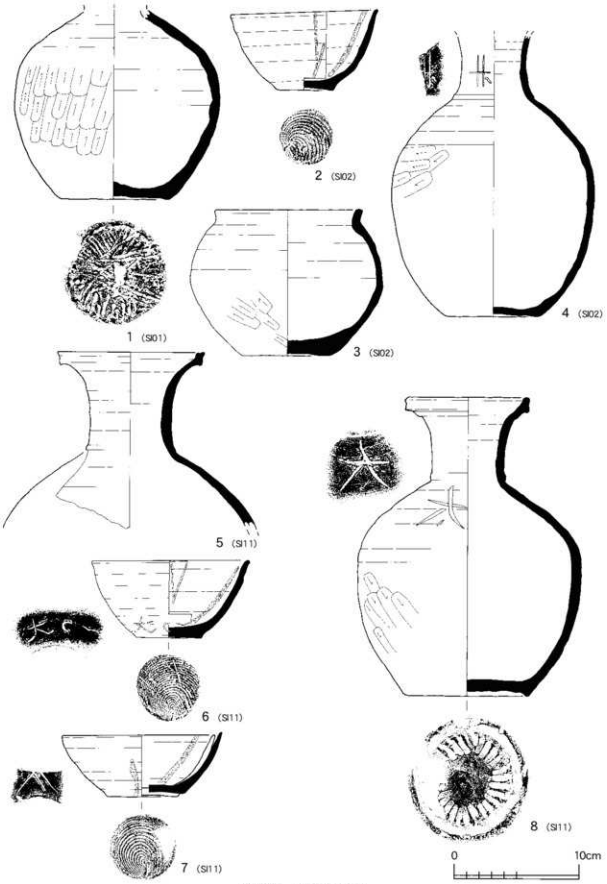
甕（第63図９・10）

大型の甕が２点出土している。胴部から底部にかけて（第63図10）は外面に甲目痕、内面に当具痕が明瞭に観察される。第63図10の底部は卵形の丸底で、住居に据え付けて水甕として用いられたものと思われる。所産時期は、概ね９世紀末葉～10世紀後葉に比定されよう。

壺（第62図１・４・５・８、第64図15）

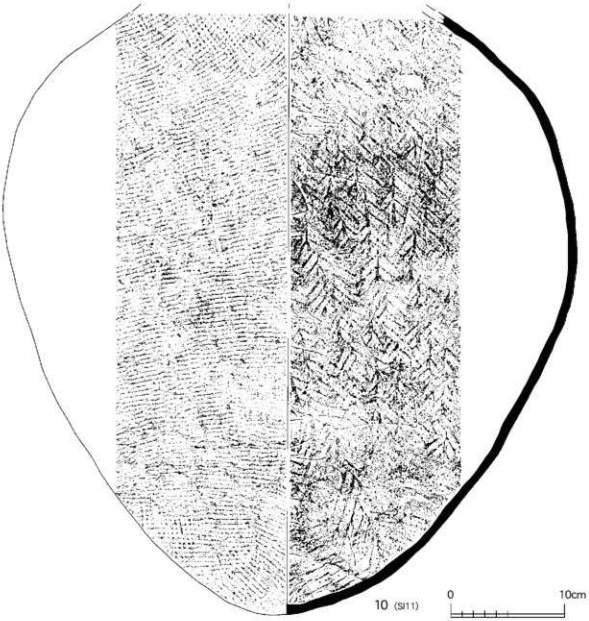
ロクロ整形の長頸壺で、逆「く」の字状の口縁が特徴的である。頸部－胴部間に区画突帯が一条巡り、肩部（胴部上半）はなだらかに胴部下半へと続く。胴部下半には縦位・斜位のヘラケズリが観察され、横位のケズリ調整は回転ヘラケズリの可能性もある。底部にはケズリ調整が見られ、放射状ケズリ痕（第62図１）、菊花状ケズリ痕（第62図８）、ヘラケズリ（第62図４、第64図15）の各種類がある。高台を持つもの（第62図１・８、第64図15）が多い。

刻書土器が多いのも該期の特徴であるが、長頸壺の頸部・肩部に陰刻されることが一般的である。第62図４はまじない文字ともされる「廿」、第62図８は「大」あるいは「太」と判読される。また、第62図８の刻書は五所川原窯群・犬走窯（五所川原市教育委員会1998年）に見られる「A」にも類似している。所産時期は、概ね９世紀末葉～10世紀前葉に比定されよう。　（野坂　知広）



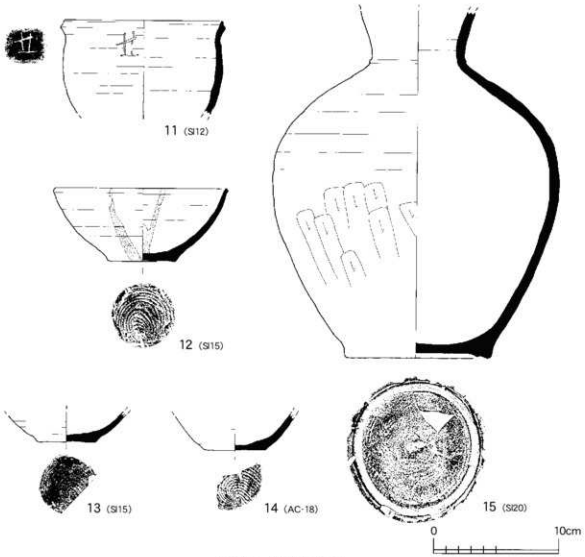
第62図　須恵器（1）

9（SI10）



10（SI11）

第63図　須恵器（2）



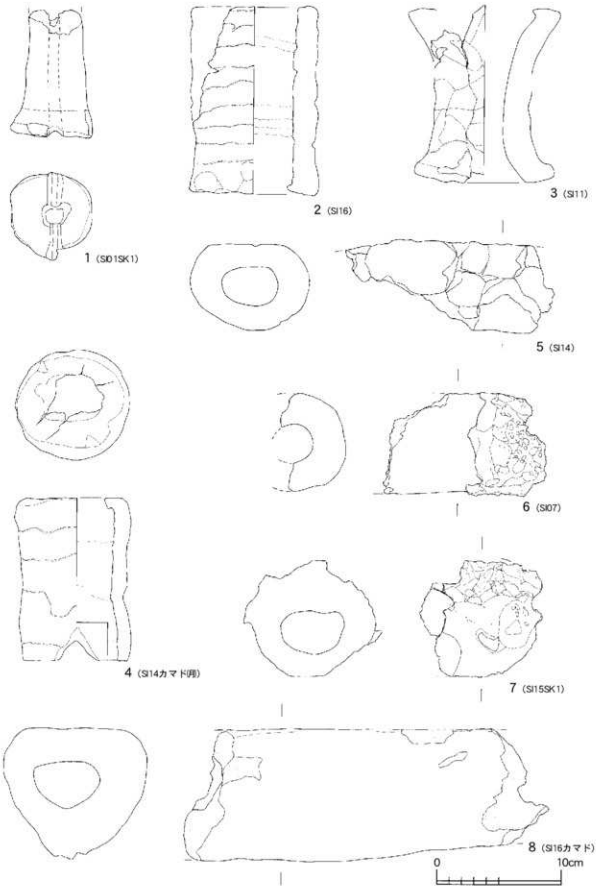
第64図　須恵器（３）

３．土製品

本遺跡では平安時代の竪穴住居跡から土製品が11点出土した。その内訳は土製支脚、羽口、ミニチュア土器である。

土製支脚（第65図１～４）

棒状のもの１点、円筒形のものが３点出土した。棒状の支脚は一般に縦方向に貫通する孔が穿たれており、ラッパ状の基部と棒状部分から構成されている。第65図１は上部が破損しているが、同様に縦方向の孔が穿たれ、ラッパ状の基部から棒状部分が延びており、上端に向かうにつれて細くなっている。孔は直線的ではなく、やや屈曲しており、両方から棒のようなものを差し込んで貫通させたと考えられる。また、底面には棒状の工具で施されたと考えられる幅1.2ｃｍの溝が施されている。円筒形の支脚は粘土紐の巻上げによって成形され、器外面に粘土紐の継ぎ目を残している。また底部から施された逆Ｖ字状の切込みを持つものと持たないものがある。第65図２は基部がやや張り出したような形状をしてお



第65図　平安時代の土製品（1）

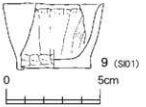
り、指頭圧痕が確認できる。第65図３は両端がラッパ状を呈し、粘土紐の継ぎ目が指ナデや指頭圧痕によってナデ消されているもので、一般的な円筒形支脚と異なっている。第65図４は逆Ｖ字状の切込みを有するもので、上端部にはやや広めの平坦面が見られる。

羽口（第65図５～８）

４点出土した。いずれも完形ではなく、部分的に破損している。第65図５～７はそれぞれ先端部の破片で、炉内に挿入されていた部分が溶損している。断面は概ね円形であるが、第65図５については一部に平坦面を持つ形状を呈する。第65図８は先端部が折損した体部の破片であり、第65図５～７と比べて太めである。断面形は第65図５と同様に一部に平坦面を持つ形状である。

ミニチュア土器（第66図）

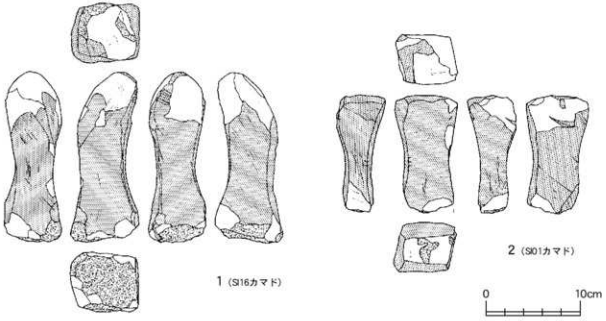
破片が１点出土した。口縁部がやや外反する器形を呈する。口縁部から胴部にかけてヘラナデ、底部付近はヘラケズリによって整形されている。



第66図　平安時代の土製品（２）

４．砥石

本遺跡では平安時代の竪穴住居跡から砥石が２点出土した（第67図１・２）。２点ともに棒状を呈するもので、ほとんどの面に砥面が存在する。また、両者ともに上面・下面に敲打痕がみられることから、砥石のほかに敲き石としても使用されていたと考えられる。



第67図　平安時代の砥石

5．鉄製品

本遺跡では平安時代の竪穴住居跡から鉄製品10点が出土した。このうち代表的な遺物７点についてその概要を記述する。

鍬先（第68図３）

側部の破片が１点出土している。内郭・外郭のラインを見ると、内郭がやや内側に入り込んでいるが、外郭はそれほど入り込んでいない。刃部の断面をみると、やや薄手である。一応、鍬先としているが、鋤先の可能性もある。

刀子（第68図１・２）

２点出土している。第68図１は完形で、第68図２は刃部が折損しているが、両者共に刃部と柄の部分が凹凸によって明確に分かれている点、柄の部分に木質が残存している点が共通している。

棒状鉄製品（第68図４）

１点出土した。細身のもので両端が尖っており、断面形状は正方形である。用途は不明である。

不明鉄製品（第68図５・６）

２点出土した。いずれも棒状であるが、規模・断面形状が異なる。第68図６はやや太めのもので、中央で折れ曲がった形状を呈し、断面形状は馬蹄形である。第68図７は上端が太めで下端が細めの形状で、断面形状は隅丸方形を呈する。上部はソケット状を呈している。

直刀（第68図７）

１点出土した。完形の資料である。切先は棟側にあり、刃部が棟側に収束するような形状を持つ。柄の部分には木質が残存している。

6．鉄滓

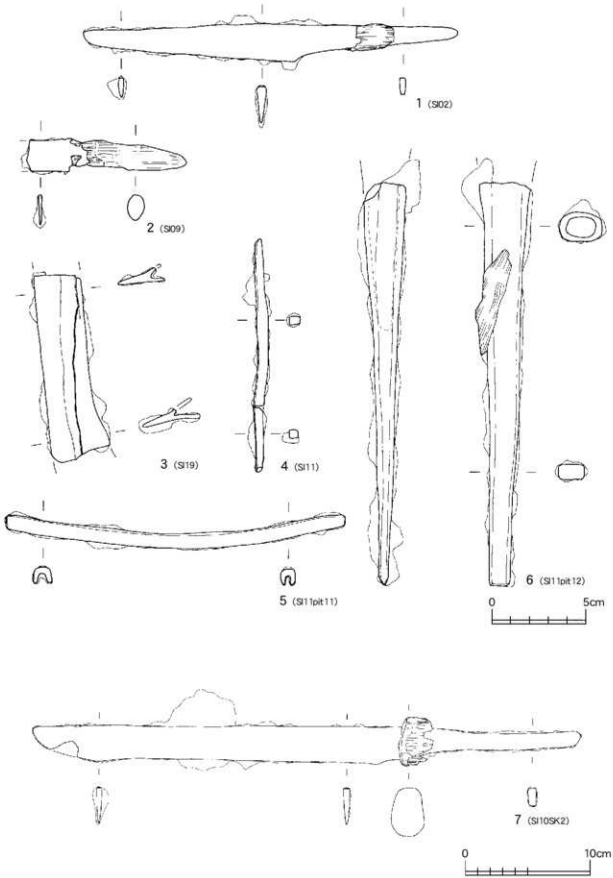
本遺跡では、平安時代の竪穴住居跡を主体に鉄滓がコンテナ換算で３箱分出土した。このうち、代表的なものについて以下に記述する。

炉内滓（第69図１）

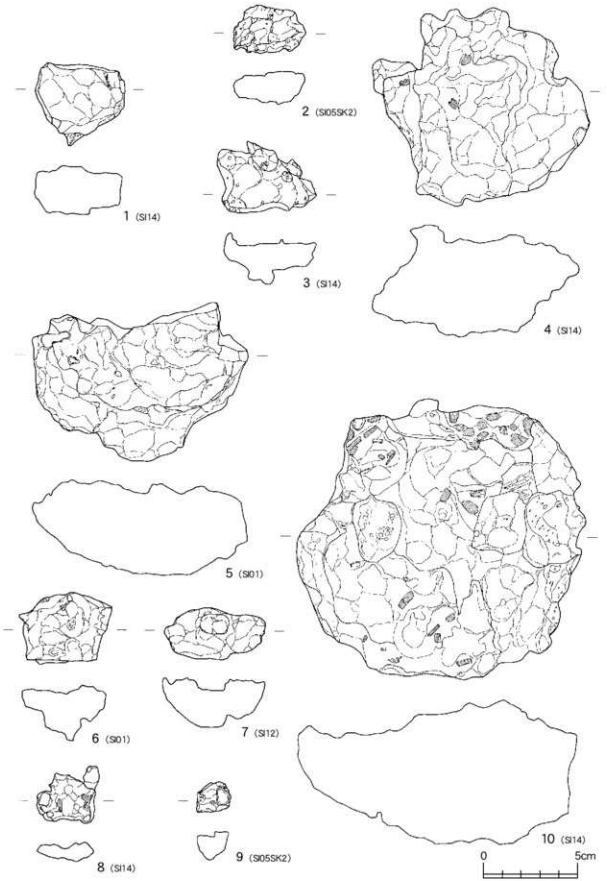
製錬工程において、製錬炉内で生成された滓である。表面が流動状を呈し、破断面には大小の気孔が散在している。裏面には砂鉄が還元しきらず、顆粒状に焼結した痕跡が残存していることから、炉内の比較的温度の低い部分で生成された滓と考えられる。

炉壁溶解物（第69図２・３）

鍛冶工程において炉壁が炉内の熱によって溶解した滓である。第69図２は一部、ガラス質を呈するが、全体にぼそぼそしており、大小の気孔が散在する。表面には炉壁に含まれていた繊維の跡が見られる。第69図３は全体的に流動状であるが、重量感が少ない。一部ガラス質を呈する。



第68図　平安時代の鉄製品


1 (SI14)
2 (SI05SK2)
3 (SI14)
4 (SI14)
5 (SI01)
6 (SI01)
7 (SI12)
8 (SI14)
9 (SI05SK2)
10 (SI14)
0
5cm

第69図　鉄滓

椀形鍛冶滓（第69図４～８）

鍛冶工程において、対象物から溶融した滓分や半溶解の鉄が重層して炉底や木炭層中で形成された椀形の滓である。規模からみて第69図４～６は大、第69図７・８は小に分けられる。いずれも茶褐色～黒褐色を呈し、表面には小さな木炭痕のほか、大小の気孔・酸化土砂がみられる。第69図４には鍛造の際に飛散した極微量の鍛造剥片が確認でき、廃棄された椀形鍛冶滓に２次的に付着したと考えられる。裏面には炉床土が付着している。第69図５は折損しているが、一度、鍛冶を行った後、炉底にたまった滓を取り出さずに再度操業を行ったことによって形成された２段椀形鍛冶滓である。第69図６は比較的大きな滓で、表面には羽口の先端部分が付着しており、操業時の痕跡を留めている。第69図７は側面に多くの破面をもっており、底面付近には黒褐色を呈する含鉄部分が存在する。第69図８はほぼ完形のもので船底状を呈する。表面には唯一の破面があり、細かな結晶を確認できる。

含鉄鉄滓（第69図９・10）

製鉄・鍛冶を問わず、金属鉄が含まれる鉄滓であるが、ここでは鍛冶に伴う遺物である。共に不整形を呈している。表面には酸化土砂が付着しており、製品の素材として耐えうるものではないため廃棄されたものと考えられる。

（設楽　政健）

第９表　土師器観察一覧

図版番号	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整	内面調整	底面調整	備考
			口径	底径	器高				
第57図1	坏	ＳＩ02	14.2	－	5.2	ロクロナデ	ミガキ		墨書、内黒
第57図2	坏	ＳＩ02	12.6	5.2	5.7	ロクロナデ		回転糸切	
第57図3	坏	ＳＩ03	14.8	5.8	5.3	ロクロナデ		回転糸切	
第57図4	坏	ＳＩ04	13.1	5.6	5	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切	内黒
第57図5	坏	ＳＩ04カマド	13.6	6.2	5.1	ロクロナデ		回転糸切	
第57図6	甕	ＳＩ07カマド	13.4	4.8	4	ロクロナデ		回転糸切	
第57図7	坏	ＳＩ09	11.8	5.2	5.6	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切	内黒
第57図8	坏	ＳＩ09カマド	15.7	5.6	15.9	ロクロナデ		回転糸切	灯明跡
第57図9	坏	ＳＩ10ＳＫ２	13.6	7	6.6	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	
第57図10	坏	ＳＩ11	14.6	5.7	5.3	ロクロナデ		回転糸切	
第57図11	坏	ＳＩ11pit116	12.7	5.6	5.1	ロクロナデ		回転糸切	
第57図12	坏	ＳＩ11	12.7	6.2	4.6	ロクロナデ	ヘラナデ	回転糸切	
第57図13	坏	ＳＩ13	12.4	5.6	4.5	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切	内黒
第58図14	坏	ＳＩ19pit122	12.2	4.8	5.2	ロクロナデ		回転糸切	
第58図15	坏	ＳＩ19pit122	12.4	4.6	5.4	ロクロナデ		回転糸切	
第58図16	坏	ＳＩ19pit122	12.6	5	4.9	ロクロナデ		回転糸切	
第58図17	坏	ＳＩ19pit122	12.3	5.4	5.3	ロクロナデ		回転糸切	
第58図18	坏	ＳＩ19	11.5	5.6	6.3	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切	内黒
第58図19	坏	ＳＩ19	12	4.8	5.3	ロクロナデ		回転糸切	
第59図20	甕	ＳＩ01カマド	10.2	6	17	ヘラナデ	ヘラナデ		
第59図21	甕	ＳＩ01カマド	21.2	－	19.7	ヘラナデ	ヘラナデ		
第59図22	鞴	ＳＩ01ＳＫ１	36.4	－	16.4	ヘラナデ	ヘラナデ		
第59図23	甕	ＳＩ03	－	8	20.5	ヘラナデ、ケズリ	ヘラナデ		底部支脚痕
第59図24	甕	ＳＩ03	20	－	15.5	ヘラナデ	ヘラナデ		
第60図25	甕	ＳＩ05カマド	－	7.6	11.4	ロクロナデ		回転糸切	
第60図26	甕	ＳＩ05	25.1	－	13	ヘラナデ	ヘラナデ		
第60図27	甕	ＳＩ05	－	8.5	12.7	ヘラナデ	ヘラナデ		
第60図28	甕	ＳＩ06	7.2	5.6	9.9	ヘラナデ	ヘラナデ		小型
第60図29	甕	ＳＩ07カマド	13	7.5	12.2	ヘラナデ	ヘラナデ		
第60図30	甕	ＳＩ07カマド	18.7	－	14.6	ヘラナデ	ヘラナデ		朱彩あり
第60図31	甕	ＳＩ09	17	8.4	26.2	ヘラナデ	ヘラナデ		
第61図32	鞴	ＳＩ11	33.6	－	10.5	ロクロナデ			
第61図33	甕	ＳＩ11pit11	17	8.6	18.9	ヘラナデ、ケズリ	ヘラナデ		
第61図34	甕	ＳＩ11カマド	24.4	－	15	ヘラナデ	ヘラナデ		
第61図35	甕	ＳＩ11pit116	18	－	26.9	ヘラナデ			
第61図36	甕	ＳＩ21	18.9	－	11.2	ロクロナデ			

第10表　須恵器観察一覧

図版番号	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整	内面調整	底面調整	備考
			口径	底径	器高				
第62図1	壺	ＳＩ01	－	8.8	15.3	ロクロナデ、ケズリ		ケズリ	
第62図2	坏	ＳＩ02	11.8	4.5	6	ロクロナデ		回転糸切	火襷痕
第62図3	鉢	ＳＩ02	11.8	7.2	11.5	ロクロナデ、ケズリ		鉢	
第62図4	壺	ＳＩ02	－	7.7	22.4	ロクロナデ、ケズリ			墨書
第62図5	壺	ＳＩ11	11.7	－	14.1	ロクロナデ			
第62図6	坏	ＳＩ11	12.7	5.2	5.3	ロクロナデ		回転糸切	墨書、火襷痕
第62図7	坏	ＳＩ11	12.2	5.5	4.8	ロクロナデ		回転糸切	火襷痕
第62図8	壺	ＳＩ11	9.8	10	23.9	ロクロナデ、ケズリ		菊花文	墨書
第63図9	壺	ＳＩ10	20.5	－	8.2	ロクロナデ			
第63図10	壺	ＳＩ11	－	9.4	53	叩目痕	当具痕	丸底	水滴か
第64図11	鉢	ＳＩ12	12.8	－	7.5	ロクロナデ			墨書
第64図12	坏	ＳＩ15	13.9	5.3	5.9	ロクロナデ		回転糸切	火襷痕
第64図13	坏	ＳＩ15	－	4.5	2.5	ロクロナデ		回転糸切	
第64図14	坏	ＡＣ－18	－	4.9	3.2	ロクロナデ		回転糸切	
第64図15	壺	ＳＩ20	－	11.7	27.9	ロクロナデ、ケズリ			

第11表　土製品等観察一覧

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm）			備考
			長さ	幅	厚さ	
第65図1	土製支脚	ＳＩ01ＳＫ１	10.1	6.4	2	
第65図2	土製支脚	ＳＩ16	15.1	10.4	1.9	
第65図3	土製支脚	ＳＩ11	14.2	11.2	2.4	
第65図4	土製支脚	ＳＩ14カマド②	12.9	8.4	1.1	
第65図5	羽口	ＳＩ14	6.9	15.1	2	
第65図6	羽口	ＳＩ07	7.9	12.4	2.3	
第65図7	羽口	ＳＩ15ＳＫ１	9.4	9.7	1.8	
第65図8	羽口	ＳＩ16カマド	10.5	28.5	2.6	
第66図9	ミニチュア土器	ＳＩ01	3.3	5.7	3.5	
第67図1	紡石	ＳＩ16カマド	17.4	6.7	6	泥岩
第67図2	紡石	ＳＩ01カマド	12.5	6.6	5.3	凝灰岩

第12表　鉄製品観察一覧

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm）			備考
			長さ	幅	厚さ	
第68図1	刀子	ＳＩ02	20	1.9	0.5	柄に木質遺存
第68図2	刀子	ＳＩ09	8.4	1.6	0.2	柄に木質遺存
第68図3	錐先	ＳＩ19	9.9	2.5	0.4	
第68図4	棒状鉄製品	ＳＩ11	12.2	0.6	0.4	
第68図5	不明鉄製品	ＳＩ11pit11	18	0.7	0.3	
第68図6	不明鉄製品	ＳＩ11pit12	21.1	2.2	0.8	木質遺存
第68図7	直刀	ＳＩ10SB2	44	3	0.5	柄に木質遺存

第13表　鉄滓観察一覧

図版番号	種別	出土位置	最大計測値（cm）			備考
			長さ	幅	厚さ	
第69図1	炉内滓	ＳＩ14	4.7	2.5	93.1	
第69図2	鉄壁浴解物	ＳＩ05ＳＫ２	3.8	1.6	5.3	
第69図3	鉄壁滓	ＳＩ14	4.8	1.4	27.2	
第69図4	椀形鍛冶滓	ＳＩ14	11.1	4.7	660	
第69図5	椀形鍛冶滓	ＳＩ01	11.4	4.8	560	
第69図6	鉄滓	ＳＩ01	4.8	2.5	53.8	
第69図7	鉄滓	ＳＩ12	5.3	1.9	34.9	
第69図8	鉄滓	ＳＩ14	3.1	0.7	9.1	
第69図9	鉄滓	ＳＩ05ＳＫ２	1.7	1.2	6.6	
第69図10	椀形鍛冶滓	ＳＩ14	14.6	7.3	1338	

ま と め

月見野（1）遺跡は青森市大字駒込字畚沢の特別養護老人ホーム敷地内に位置している。第Ⅱ章で記述しているとおり、これまでに２度にわたる発掘調査が実施されており、縄文時代後期前葉の土器棺墓１基、平安時代の竪穴住居跡１軒のほか、縄文時代後期前葉の土器・石器や平安時代の土師器・須恵器などが出土している。

今回、老人ホーム建設予定地（2,600㎡）を対象に発掘調査を実施した結果、昭和40～50年代のグラウンド造成工事によって全体的に地山まで削平されていたが、竪穴住居跡21軒、土坑172基、ピット127基、土器棺墓１基を検出したほか、ダンボール箱換算で30箱分の縄文土器、石器、土製品、石製品、土師器、須恵器、鉄滓、鉄製品等が出土し、縄文時代と平安時代を主体とした集落跡であることが判明した。

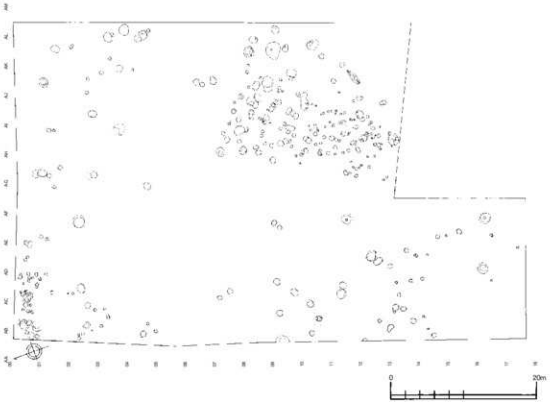
竪穴住居跡はすべて平安時代のもので、調査区の西側に集中している。平面形は正方形に近い形状が最も多く、長方形を呈するものや、一部に出入口や棚状施設と考えられる方形の張出を持つものがある。規模は長軸・短軸ともに４ｍ前後の小さめのものが多く、ＳＩ19のように８ｍを超える大きめのものもある。カマドは概ね南東向きであるが、ＳＩ09は北東向き、ＳＩ12は東向きである。本遺跡で検出した竪穴住居跡の多くは、出土土器や降下火山灰から概ね９世紀末葉～10世紀前葉に属すると考えられるが、10世紀中葉～後葉に属するものも確認できる。

土坑・小ピットは縄文時代後期前葉を主体としており、調査区北東隅部分と南側に集中している。土坑については袋状（フラスコ状）土坑23基、溝状（陥穴）土坑１基を検出した。土坑墓と考えられるものは少ないが、ＳＫ01より装身具やミニチュア土器が出土しており、墓の可能性もある。小ピットについては、柱穴状を呈するものもあるが、明確な配置がみられず、用途については不明である。土器棺墓については、本遺跡で２度目の検出であるが、上半部が削平されており、詳細は不明である。

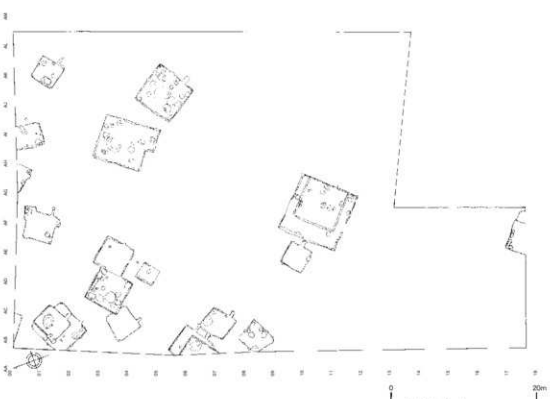
調査の結果、2,600㎡という比較的狭い区域より多くの遺構を検出したが、調査区の中央部には遺構がほとんど見られない。環状集落の可能性が考えられ、縄文時代・平安時代の遺構群ともに中央の空間の周辺に構築されたと思われる。また、今回は縄文時代の竪穴住居跡を確認できなかったが、調査区外から検出される可能性が高い。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護の趣旨をご理解いただき、本発掘調査実施にあたりご協力いただいた社会福祉法人藤聖母園に対しまして深くお礼申し上げます。

（担当者一同）



第70図　縄文時代の遺構配置図

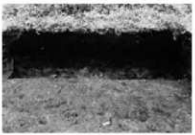


第71図　平安時代の遺構配置図

引用・参考文献

青森県教育委員会　1985　『大石平遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会　1987　『山本遺跡発掘調査報告書』
青森県教育委員会　1992　『朝日山遺跡Ⅱ』
青森県教育委員会　2000　『野木遺跡Ⅲ』
青森県教育委員会　2002　『三内丸山(6)遺跡Ⅳ』
青森市教育委員会　1967　『玉清水遺跡調査概報』
青森市教育委員会　1971　『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2000　『縄文講座　北の古代文字世界』資料集
青森市教育委員会　2000　『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
青森市教育委員会　2001　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
青森市教育委員会　2002　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
青森市教育委員会　2003 a　『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2003 b　『市内遺跡発掘調査報告書11』
青森市教育委員会　2003 c　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
青森市教育委員会　2004　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
青森市教育委員会　2005　『赤坂遺跡発掘調査報告書』
青森市教育委員会　2006　『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
青森市　2006　『新青森市史』資料編１考古
青森市蛍沢遺跡発掘調査団　1979　『蛍沢遺跡』　青森市教育委員会
秋田県教育委員会　1999　『伊勢堂岱遺跡』
犬走須恵器窯跡発掘調査団　1998　『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』　五所川原市教育委員会
葛西　勝　1969　「青森県下における改葬甕棺墓の研究」『うとう』第73号　青森郷土会
葛西　勝　1970　「三角形岩版考」『うとう』第74号　青森郷土会
葛西　勝　1974　「青森県下の縄文文化後期の改葬甕棺墓遺跡について」『北奥古代文化』第６号　北奥古代文化研究会
葛西　勝　1974　「青森市周辺の後期縄文土器(3)」『うとう』第80号　青森郷土会
葛西　勝　1975　「青森市周辺の後期縄文土器(4)」『うとう』第81号　青森郷土会
葛西　勝　1976　「青森市周辺の後期縄文土器(5)」『うとう』第82号　青森郷土会
葛西　勝ほか　1978　「青森市月見野遺跡発見の縄文後期の甕棺と人骨」『懸糸文』第７号　青森山田高等学校考古学研究会
葛西　勝　1994　「青森市沢山(1)遺跡の出土遺物」『懸糸文』第21号　青森山田高等学校考古学研究会
葛西　勝　2002　『再葬土器棺墓の研究』
北林八洲晴　1968　『青森県の原始時代研究録』１
桐生直彦　2001　『竈をもつ竪穴建物跡にみられる棚状施設の研究』
五所川原市教育委員会　2003　『五所川原須恵器窯跡群』
児玉大成　1997　「三角形岩版について」『青森県考古学』第10号　青森県考古学会
児玉大成　1999　「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』第11号　青森県考古学会
児玉大成　2001　「縄文後期前半の岩版類と大型配石遺構」『渡島半島の考古学』　南北海道考古学情報交換会20周年記念論集
齋藤　淳　2001　「津軽海峡領域における古代の土器の変遷について」『研究紀要』４　青森大学考古学研究所
桜井清彦ほか　1985　「青森市玉清水遺跡発掘調査概報」『月刊考古学ジャーナル』252　ニューサイエンス社
鈴木克彦　1998　「東北北部における十腰内様式の編年学的研究４」『縄文時代』第９号　縄文時代文化研究会
成田滋彦　1989　「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観』４　小学館
本間　宏　1987　「縄文時代後期初頭群の研究(1)」『よねしろ考古』第3号　よねしろ考古学研究会
三浦圭介　1992　「青森県における古代の土器様相」『第18回古代域柵官衙遺跡検討会資料』　古代域柵官衙遺跡検討会

遺跡全景（南西→）


基本層序（西→）

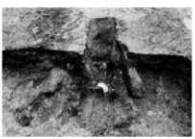
SI01・02（北西→）

SI01カマド（北西→）

SI02カマド（北西→）

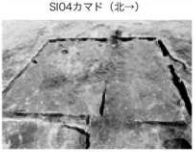
SI03（東→）

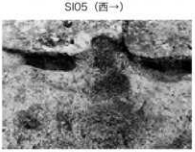
SI04（北→）


SI04カマド（北→）

SI05（西→）

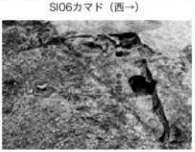
SI05カマド（西→）

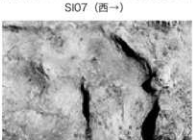

SI06（西→）


SI06カマド（西→）

SI07（西→）

SI07カマド（西→）


SI08（北西→）


SI08カマド（北西→）

SI09（南西→）

SI09カマド（南西→）

写真1　検出遺構（1）

SI10（西→）

SI10カマド（西→）

SI10　SK1・2（左がSK2、南→）

SI11（北西→）

SI11カマド（北西→）

SI11須恵器（北→）

SI12（西→）

SI12カマド（西→）

SI13（北西→）

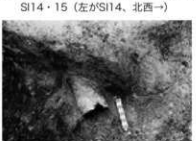
SI13カマド断面（北西→）

SI13　SK1（北西→）

SI14・15（左がSI14、北西→）

SI14カマド①（北西→）

SI14カマド②（北西→）


SI14カマド②土製支脚（北→）

SI16（北西→）

SI16カマド（北西→）

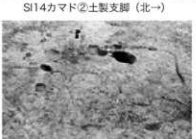
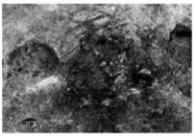

SI17（西→）

写真2　検出遺構（2）


SI17カマド（西→）

SI18・19（北西→）

SI18カマド（北西→）

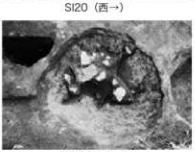
SI19カマド（北西→）

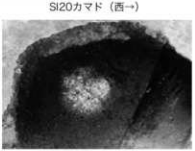
SI19Pit22（東→）

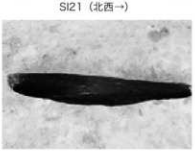
SI20（西→）

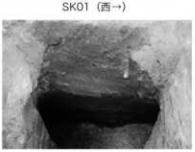
SI20カマド（西→）

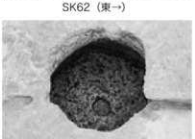
SI21（北西→）

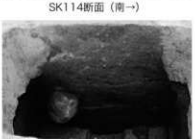

SK01（西→）

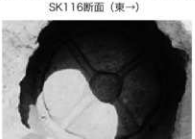

SK62（東→）

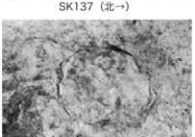

SK114断面（南→）

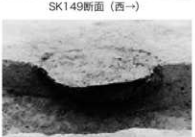

SK116断面（東→）


SK137（北→）


SK149断面（西→）


SK149底面（西→）


SC01検出状況（東→）


SC01調査状況（東→）

縄文土器検出状況（AK－11、南→）

写真3　検出遺構（3）

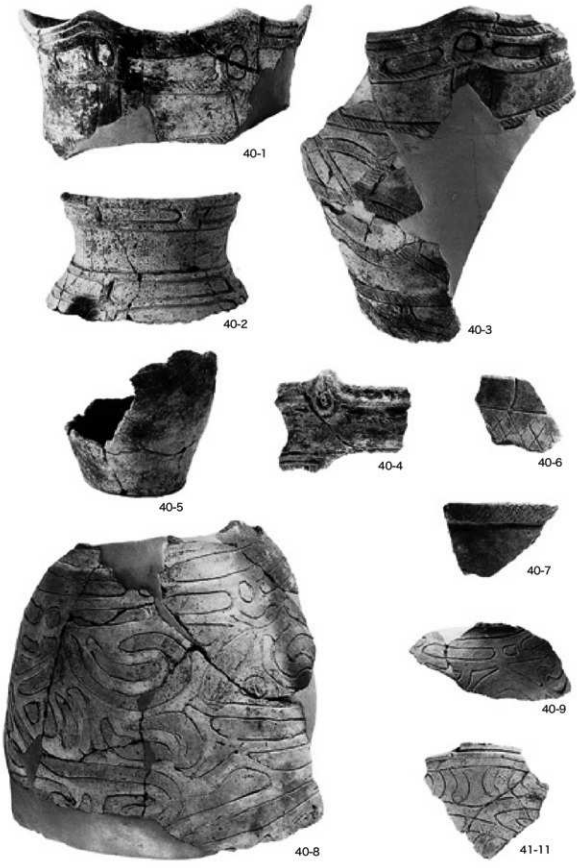


写真4　出土遺物（1）

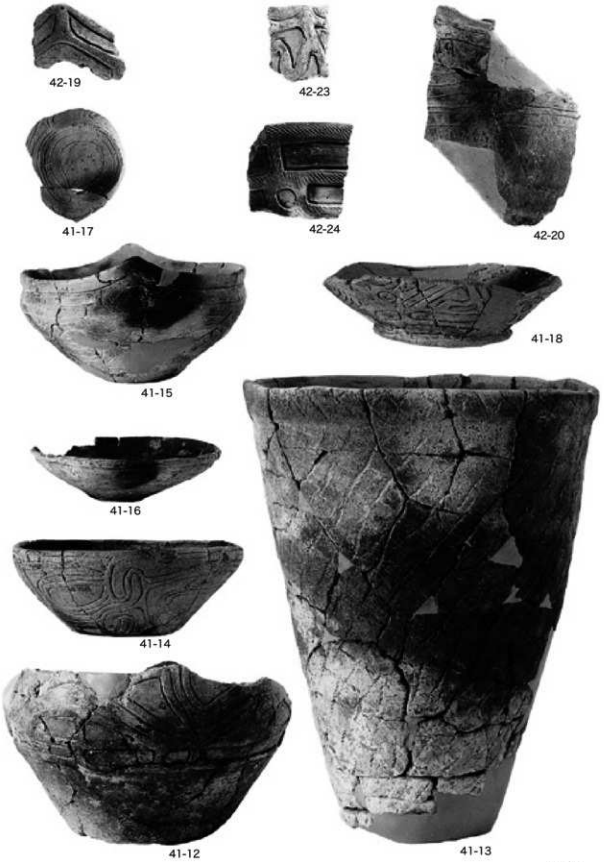


写真5　出土遺物（2）

42-22

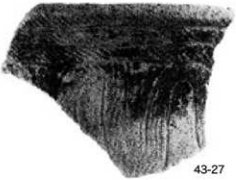
43-26

43-25

43-30

43-32

43-28


43-27

42-21

43-29

S＝1/3

写真6　出土遺物（3）

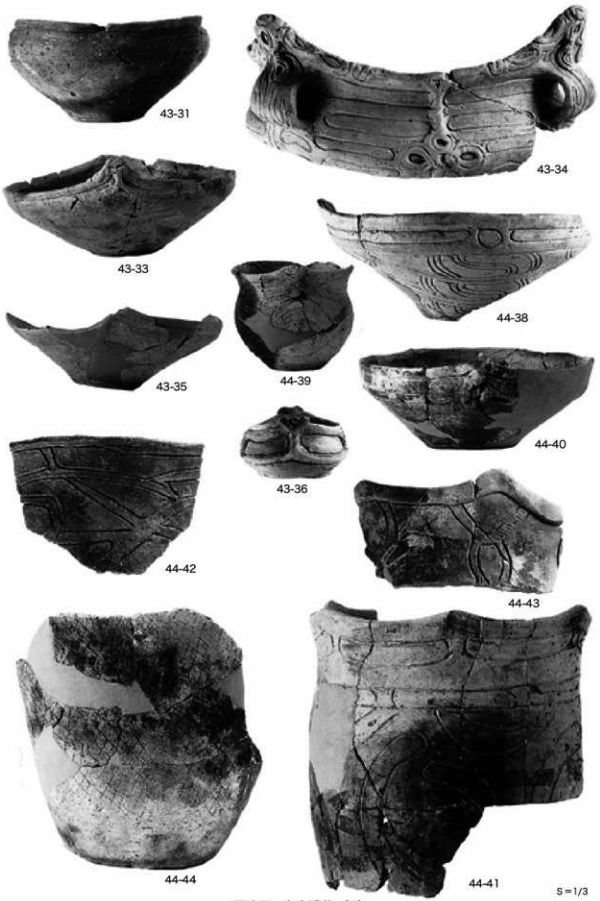

43-31
43-34
43-33
44-38
44-39
43-35
44-40
43-36
44-42
44-43
44-44
44-41
S＝1/3

写真7　出土遺物（4）

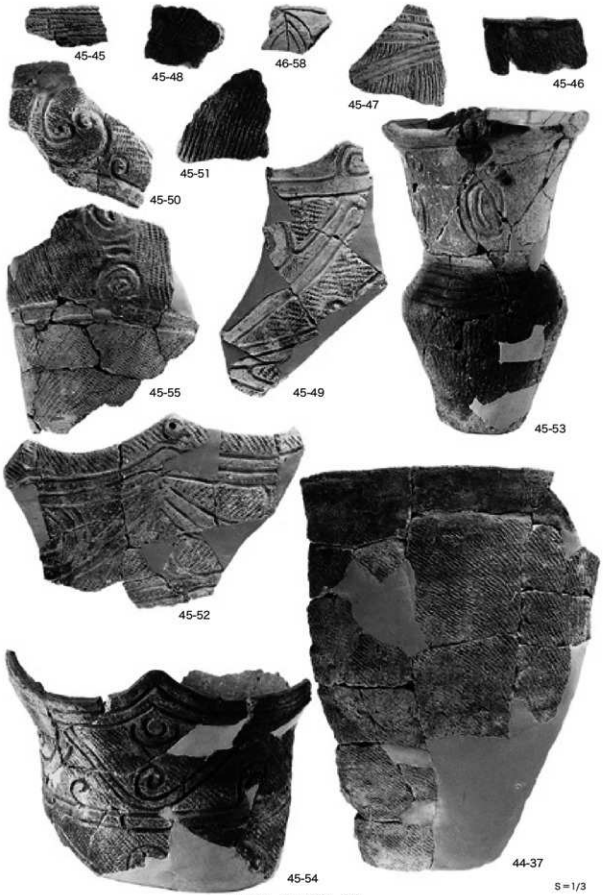
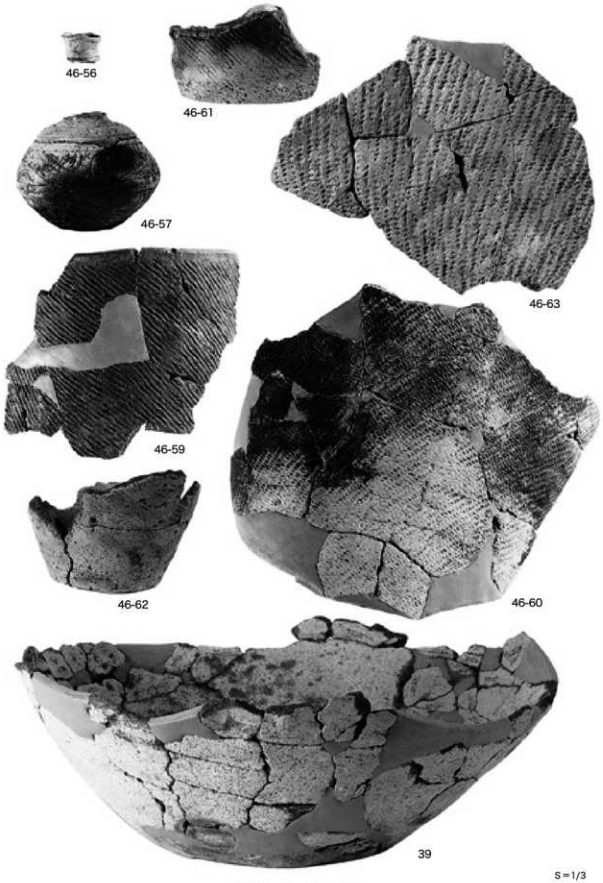
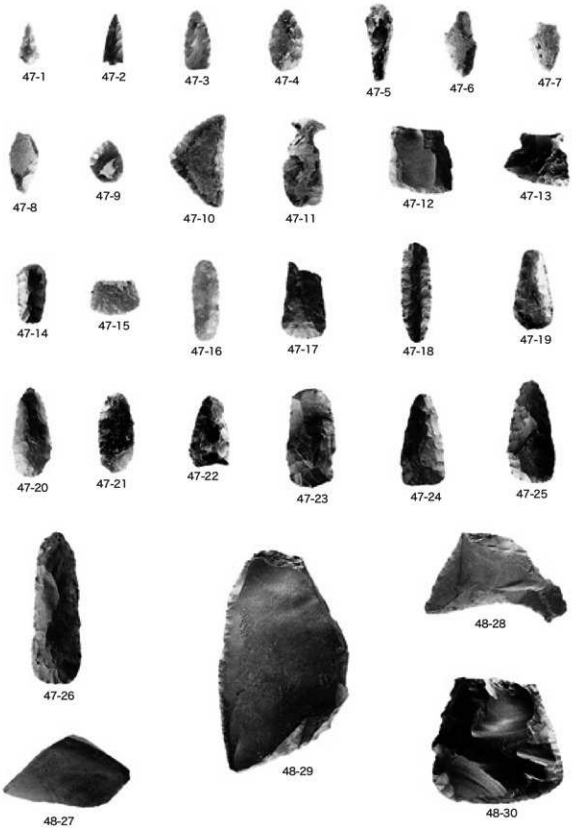

45-45
45-48
46-58
45-47
45-46
45-51
45-50
45-55
45-49
45-53
45-52
45-54
44-37
S＝1/3

写真8　出土遺物（5）



S＝1/3

写真9　出土遺物（6）



S＝1/2

写真10　出土遺物（7）

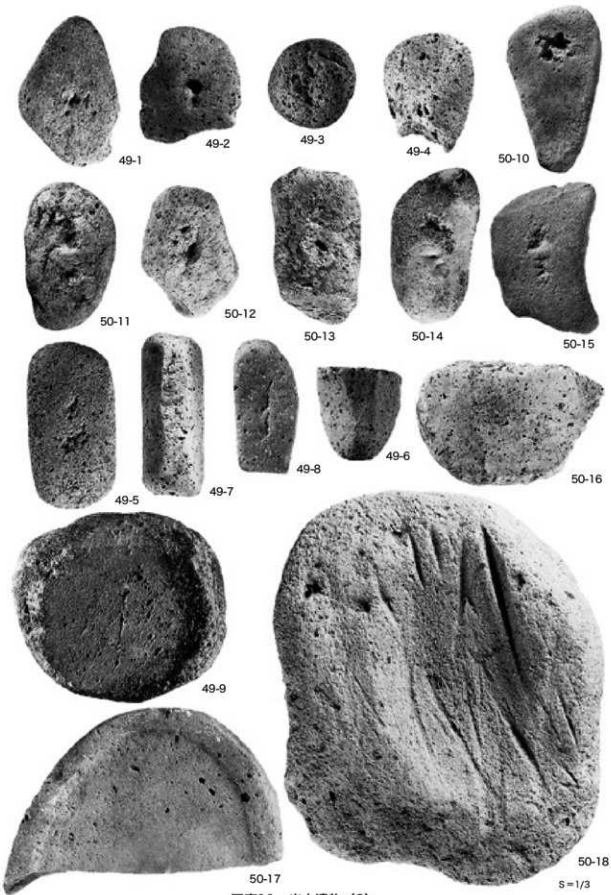
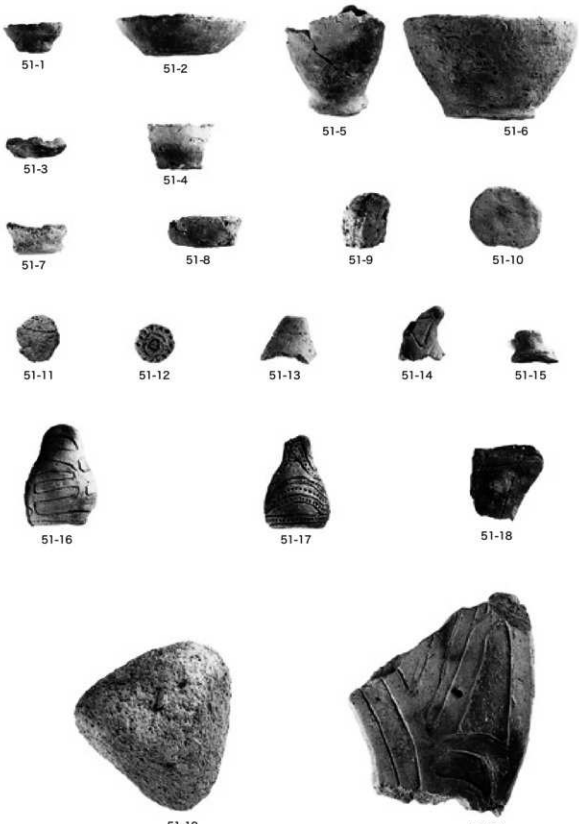

49-1
49-2
49-3
49-4
50-10
50-11
50-12
50-13
50-14
50-15
49-5
49-7
49-8
49-6
50-16
49-9
50-17
50-18
S＝1/3

写真11　出土遺物（8）



S＝1/2

写真12　出土遺物（9）

S＝1/2

写真13　出土遺物（10）

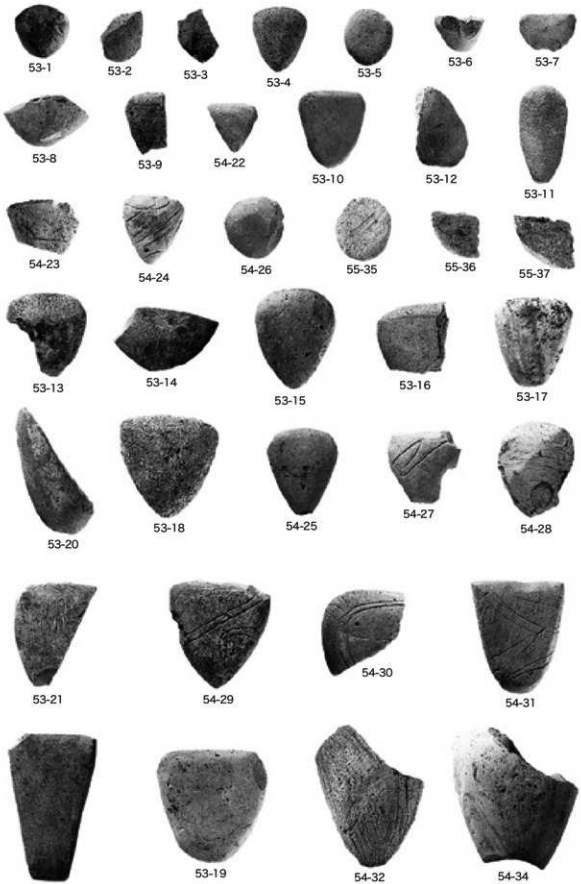
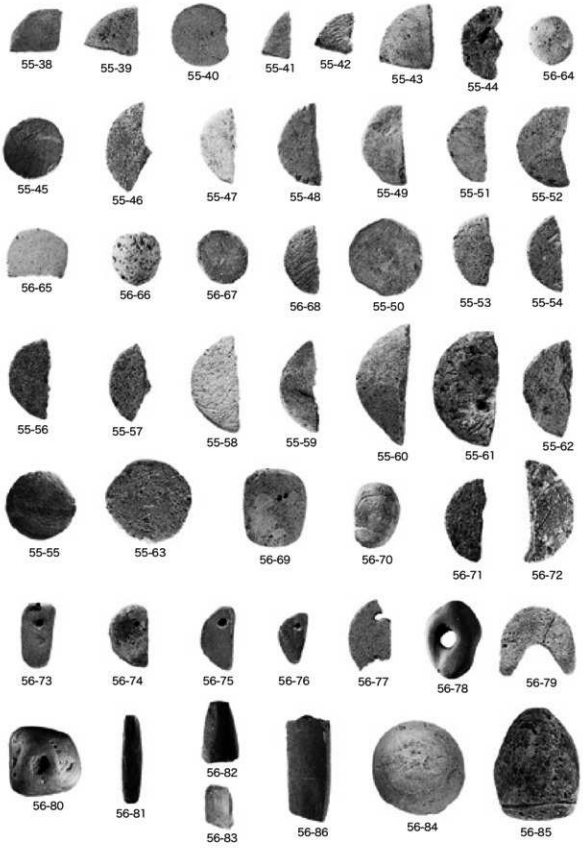

53-1
53-2
53-3
53-4
53-5
53-6
53-7
53-8
53-9
54-22
53-10
53-12
53-11
54-23
54-24
54-26
55-35
55-36
55-37
53-13
53-14
53-15
53-16
53-17
53-20
53-18
54-25
54-27
54-28
53-21
54-29
54-30
54-31
54-33
53-19
54-32
54-34
S=1/2

写真14　出土遺物（11）



S＝1/2

写真15　出土遺物（12）

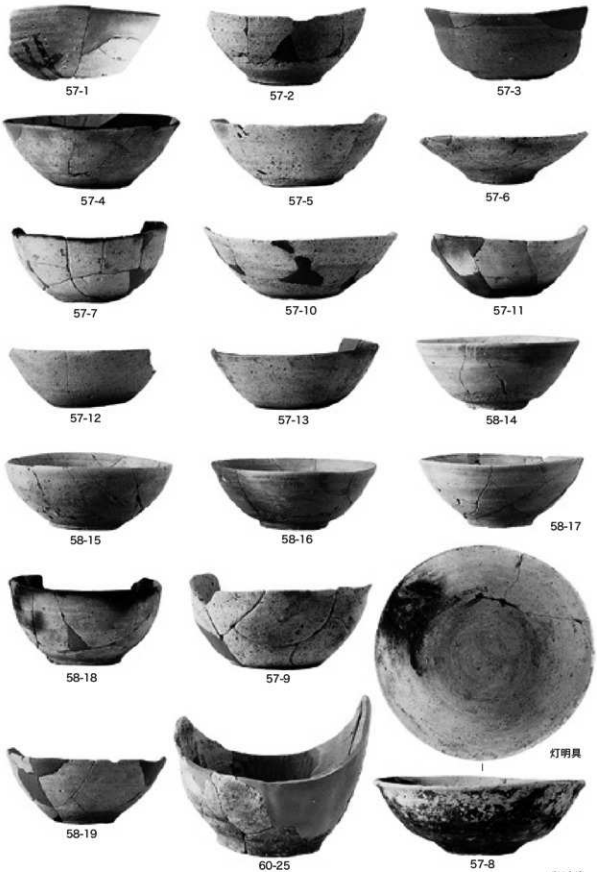

57-1
57-2
57-3
57-4
57-5
57-6
57-7
57-10
57-11
57-12
57-13
58-14
58-15
58-16
58-17
58-18
57-9
灯明具
58-19
60-25
57-8
S＝1/3

写真16　出土遺物（13）

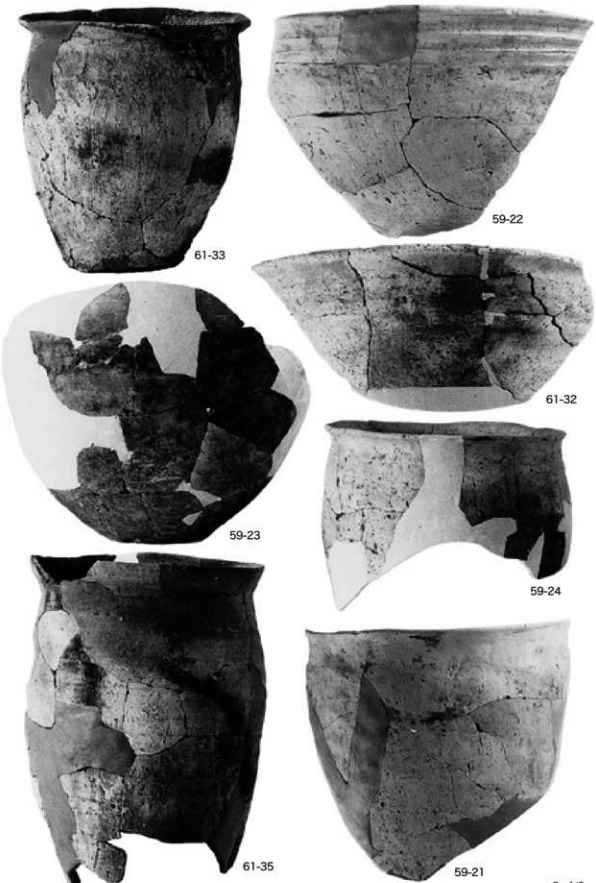


写真17　出土遺物（14）

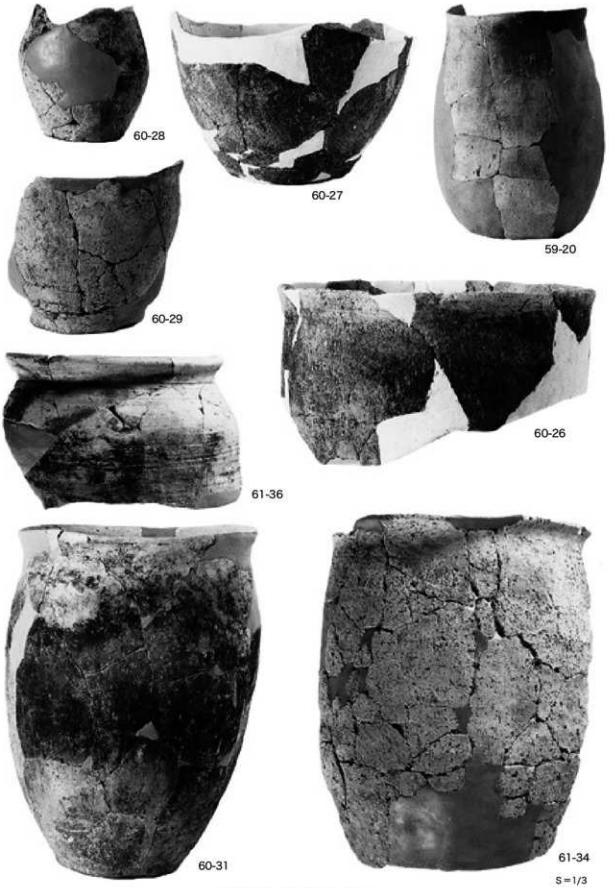


写真18　出土遺物（15）

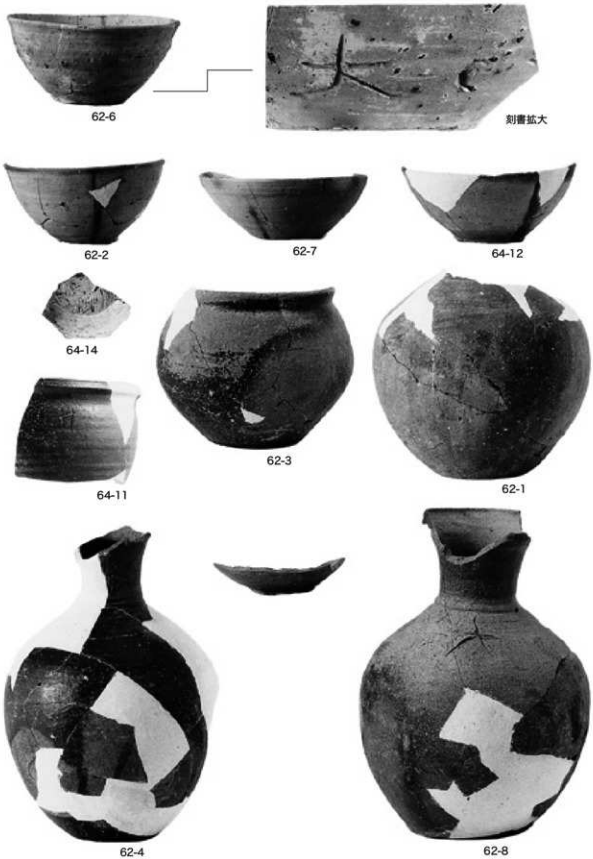


写真19　出土遺物（16）

63-9

62-5

64-15

63-10

S＝1/3

写真20　出土遺物（17）

65-4

65-2

65-3

65-1

65-5

65-6

65-7

65-8

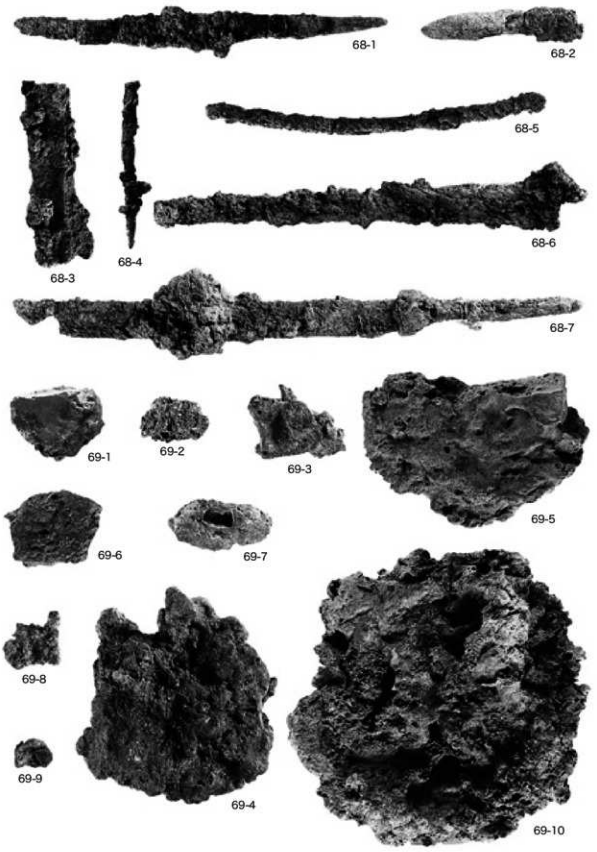
66-9

67-1

67-2

S＝1/3

写真21　出土遺物（18）



68-7：S＝1/3、他：S＝1/2

写真22　出土遺物（19）

報告書抄録

ふりがな	つきみのかっこいちいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	月見野（1）遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第90集
編著者名	設楽政健、野坂知広、児玉大成、稲垣森太
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038－0012　青森県青森市柳川二丁目１番１号　TEL017－761－4796
発行年月日	西暦2007年1月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
月見野(1)遺跡（つきみの いせき）	青森県青森市（あおもりけんあおもりし） 大字駒込字蛍沢（おおあざこまこめあざほたるさわ） 387-1	02201	01010	40° 47′ 33″	140° 48′ 45″	20060508 ～ 20060707	2,600㎡	特別養護老人ホーム建設工事に先立つ調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
月見野(1)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代	竪穴住居跡　21軒 土　坑　172基 小ピット　127基 土器棺墓　1基	縄文土器 土師器・須恵器 石器 土製品・石製品 鉄製品・鉄滓	

要約	1．月見野(1)遺跡は、八甲田山から延びる火山性台地上、標高60～65メートルの地点に位置している。 2．発掘調査は特別養護老人ホーム建設予定地2,600㎡を対象に実施した。 3．調査の結果、縄文時代中期後葉～後期前葉及び平安時代の遺構・遺物を検出した。主体は縄文時代後期前葉と平安時代である。 4．縄文時代の遺構には土坑172基、小ピット127基、土器棺墓１基がみられ、平安時代の遺構は竪穴住居跡21軒である。 5．縄文時代の遺構群は、中央の広場の周辺に構築されており、環状集落と考えられる。平安時代の遺構も、広場部分を中心に構築されている。 6．平安時代の竪穴住居跡は、出土土器や降下火山灰等から概ね9世紀末葉～10世紀後葉に比定できる。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内圏遺跡調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	1971	『玉清水II遺跡発掘調査報告書』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	1973	『福内遺跡発掘調査報告書』
		1979	『蛍沢遺跡』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983	『山野峠遺跡』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988	『三内丸山I遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第17集	1992	『理蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報II』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書II』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書III』
〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書II』
〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書IV』
〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
青森市埋蔵文化財調査報告書			
〃	第47集	1999	『福山遺跡発掘調査概報』
〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃	第49集	2000	『福山遺跡発掘調査概報II』
〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書V』
〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書・II 野木遺跡発掘調査報告書II』
〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書VI』
〃	第56集	2001	『福山遺跡発掘調査報告書I』
〃	第57集	2001	『福山遺跡発掘調査概報III』
〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報II』
〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書VII』
〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第62集	2002	『福山遺跡発掘調査報告書II』
〃	第63集	2002	『福山遺跡発掘調査概報IV』
〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第66集	2003	『福山遺跡発掘調査報告書III』
〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書II』
〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書VIII』
〃	第71集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書IV』
〃	第72集	2004	『福山遺跡発掘調査報告書V』
〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書I2』
〃	第75集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第76集	2005	『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書I3』
〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』
〃	第82集	2006	『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第83集	2006	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報II』
〃	第84集	2006	『新町野遺跡発掘調査概報II』
〃	第85集	2006	『小牧野遺跡発掘調査報告書IX』
〃	第86集	2006	『市内遺跡発掘調査報告書I4』
〃	第87集	2006	『新町野遺跡発掘調査報告書III』
〃	第88集	2006	『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書II』
〃	第89集	2006	『薬師遺跡発掘調査報告書』
〃	第90集	2007	『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第90集

月見野(1)遺跡発掘調査報告書

発行年月日　平成19年1月31日

発　　行　青森市教育委員会
〒038－0012 青森市柳川二丁目1番1号
TEL 017－761－4796

印　　刷　青森オフセット印刷株式会社
〒030－0802 青森市本町二丁目11番16号
TEL 017－775－1431